
SNMPマネージメントモジュール

AT-WDM03

取扱説明書

AT-WDM03

取扱説明書

安全のために



必ずお守りください

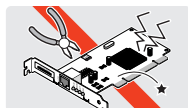


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物、水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水がかかったり、異物が触れないように注意してください。万一水がかかったり、異物が触れた場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

取り付け・取り外しのときはコネクター・回路部分をさわらない

稼働中は、コンピューターに電気が流れています。感電の恐れがありますので、取り付け、取り外しを行う際は、コネクター・回路部分にさわらないように注意して作業してください。



感電注意

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いにはいねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
(化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)



シンナー
類不可

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2004 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

2004 年 4 月	Rev.A	初版
2004 年 9 月	Rev.B	記述変更

このマニュアルについて

このたびは、AT-WDM03 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は 1CH ギガビットイーサネット WDM「CentreCOM WD1001-10/80」(以下 WD1001)、2CH ギガビットイーサネット WDM「CentreCOM WD1002-10/80」(以下 WD1002) の設定や診断を行うためのマネージメントモジュールです。

前面パネルにコンソールポート (RS-232) と 10BASE-T/100BASE-TX ポートをそれぞれ一つずつ装備しており、WD1001、WD1002 に対する設定を簡単に行うことができます。また、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) による管理が可能な SNMP エージェントにより、SNMP マネージャーから各種情報を監視・設定することができます。スタックモジュールとして AT-WDM03C (別売) を用いることにより、1 台のコンソール端末から最大 4 構成までの WD1001、WD1002 を管理できます。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、通信ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 お使いになる前に

本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 基本操作

本製品のコマンドラインインターフェースの使用方法和基本的な設定方法について説明しています。

3 コマンドリファレンス

本製品で使用できるコマンドを説明しています。

4 付 録

ファームウェアのバージョンアップ手順、トラブルシューティング、製品仕様などについて説明しています。





5 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポートについて説明します。


表記について

アイコン

本書で使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、AT-WDM03 を意味します。また、場合によっては、CentreCOM WD1001-10/80、CentreCOM WD1002-10/80 について、WD1001、WD1002 のように CentreCOM を省略して記載することがあります。なお、WD1001、WD1002 の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、CentreCOM WD1002-10 を使用しています。

目次

安全のために	4
このマニュアルについて	7
マニュアルの構成	8
表記について	9

1 お使いになる前に 17

1.1 梱包内容	18
1.2 特長	19
1.3 各部の名称と働き	20
前面パネル	20
LED表示	21
1.4 設置と接続	22
WD1001/WD1002 への取り付け	22
コンソールポートの接続	23
10BASE-T/100BASE-TX ポートの接続	24
スタックポートの接続	24
ユニット ID の設定	25

2.1 操作の流れ	28
2.2 設定の準備	29
ローカルコンソールの設定	29
本製品を起動する	30
2.3 ログインする	31
ログインする	31
ログインパスワードを変更する	32
2.4 設定を始める	33
コマンドの入力と画面	33
オンラインヘルプ	37
コマンドの表記	39
コマンド一覧	40
2.5 設定を保存する	43
2.6 起動スクリプトを指定する	45
2.7 ログアウトする	46
2.8 基本の設定と操作	47
IP アドレスを設定する	47
Telnet を使用する	49
システムを再起動する	51
ご購入時の状態に戻す	52
ファイルシステム	54
ダウンロード・アップロードする	57
システム名を設定する	64
SNMP による管理のための設定をする	66
2.9 リモートとの接続をテストする	70
リンクテストを実行する	70
ループバックテストを実行する	71
ミッシングリンク機能	73

3.1	アクセスフィルター	76
	ADD ACCESS FILTER	76
	DELETE ACCESS FILTER ENTRY	77
	DISABLE ACCESS FILTER	78
	ENABLE ACCESS FILTER	79
	SET ACCESS FILTER	80
	SET ACCESS FILTER ENTRY	81
	SHOW ACCESS FILTER	82
3.2	コンフィグレーション	84
	CREATE CONFIG	84
	SET CONFIG	85
	SHOW CONFIG	86
3.3	インターフェース	88
	ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE	88
	DISABLE ETH	89
	DISABLE MISSINGLINK PORT	90
	DISABLE OFC CHANNEL	91
	DISABLE WDM PORT	92
	ENABLE ETH	93
	ENABLE MISSINGLINK PORT	94
	ENABLE OFC CHANNEL	95
	ENABLE WDM PORT	96
	RESET ETH	97
	RESET WDM CHANNEL COUNTER	98
	RESET WDM PORT	99
	SET ETH	100
	SET WDM PORT NAME	101
	SHOW ETH COUNTER	102
	SHOW ETH MACADDRESS	103
	SHOW ETH STATE	104
	SHOW WDM	105
	SHOW WDM CHANNEL COUNTER	106
	SHOW WDM CHANNEL LEVEL	107
	SHOW WDM PORT	108
3.4	ファイルシステム	114
	COPY	114
	DELETE FILE	115
	SHOW FILE	116
3.5	IP	117
	ADD IP	117
	DELETE IP	118

DISABLE IP DHCP	119
ENABLE IP DHCP	120
PING	121
SET IP	122
SHOW IP	123
3.6 アップロード・ダウンロード	124
DISABLE FTP SERVER	124
ENABLE FTP SERVER	125
LOAD	126
SET FTP LISTENPORT	127
SET LOADER	128
SET TFTP LISTENPORT	129
SHOW FTP	130
SHOW LOADER	131
SHOW TFTP	132
UPLOAD	133
3.7 ログ	134
DISABLE LOG OUTPUT	134
ENABLE LOG OUTPUT	135
FLUSH LOG OUTPUT	136
PURGE LOG	137
SET LOG OUTPUT	138
SHOW LOG	140
SHOW LOG COUNTER	142
SHOW LOG OUTPUT	143
SHOW LOG STATUS	144
3.8 NTP	145
ADD NTP PEER	145
DELETE NTP PEER	146
DISABLE NTP	147
ENABLE NTP	148
PURGE NTP	149
RESET NTP	150
SET NTP	151
SHOW NTP	153
3.9 システム	154
CLS	154
HELP	155
LOGOUT	156
RESTART [REBOOT]	157
SET PASSWORD	158
SET TIME	159
SHOW TIME	160

SET SYSTEM.....	161
SHOW SYSTEM	162
3.10スクリプト	164
ACTIVATE SCRIPT	164
3.11SNMP.....	165
ADD SNMP COMMUNITY.....	165
CREATE SNMP COMMUNITY	166
DELETE SNMP COMMUNITY.....	168
DESTROY SNMP COMMUNITY.....	169
DISABLE SNMP.....	170
DISABLE SNMP COMMUNITY.....	171
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP	172
DISABLE SNMP TRAP.....	173
ENABLE SNMP.....	174
ENABLE SNMP COMMUNITY	175
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP.....	176
ENABLE SNMP TRAP.....	177
SET SNMP COMMUNITY	178
SET SNMP LISTENPORT.....	179
SET SNMPTRAP LISTENPORT	180
SHOW SNMP	181
SHOW SNMP COMMUNITY.....	182
SHOW SNMP TRAP.....	184
3.12ターミナルサービス.....	188
DISABLE TELNET SERVER.....	188
ENABLE TELNET SERVER	189
SET ASYN	190
SET CONSOLE TIMEOUT	191
SET TELNET	192
SHOW CONSOLE.....	193
SHOW TELNET.....	194
3.13接続テスト	195
ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT	195
DISABLE LINKTEST CHANNEL	197
DISABLE LOOPBACK CHANNEL.....	198
ENABLE LINKTEST CHANNEL.....	199
ENABLE LOOPBACK CHANNEL	200

4 付 録

201

4.1	ソフトウェアのバージョンアップ	202
	最新ソフトウェアの入手方法	202
	ファームウェアファイル	202
	リリースノート	202
	バージョンアップ方法	202
4.2	コマンド索引	203
	アルファベット順	203
	機能別	207
4.3	ハイパーターミナルの設定	211
4.4	Telnet クライアントの設定	214
4.5	困ったときに	216
	自己診断テストの結果を確認する	216
	LED表示を確認する	217
	ログを確認する	217
	トラブル例	218
4.6	仕 様	221
	コネクター・ケーブル仕様	221
	本製品の仕様	223

5 保証とユーザーサポート

225

5.1	保証とユーザーサポート	226
	保証、修理について	226
	ユーザーサポート	226
	サポートに必要な情報	227

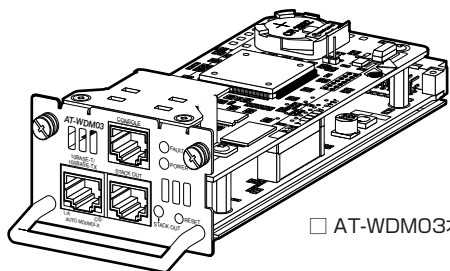
1

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



□ AT-WDM03本体 1個



- 取扱説明書(本書) 1冊
- リリースノート 1部*



- 製品保証書 1枚
- シリアル番号シール 2枚

※ ファームウェアのバージョンによっては、
添付されない場合もあります。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

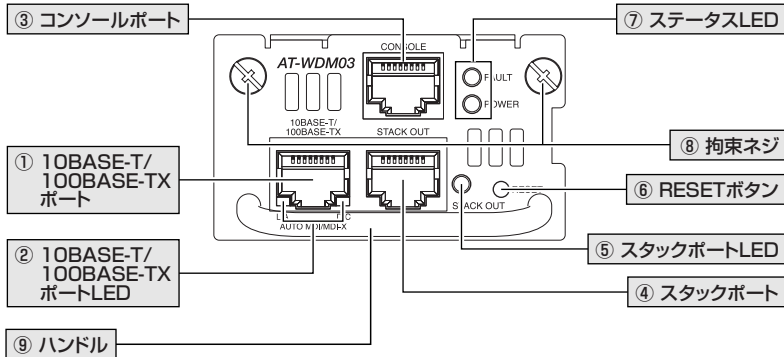
1.2 特長

本製品の主な特長は次のとおりです。本製品のファームウェアは、下記のほかにも多くの機能をサポートしています。また、サポートする機能はファームウェアのバージョンに依存しますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

- CentreCOM WD1001-10/80、CentreCOM WD1002-10/80 の設定、診断が可能
- RS-232 インターフェースを介して、ローカルコンソールからアクセス可能
- Telnet サーバー機能に対応し、10BASE-T/100BASE-TX ポートを介して、遠隔地からアクセス可能
- SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）マネージャーから、本製品の各種情報を監視、設定可能
- FTP、TFTP によるファームウェアのダウンロード、設定ファイルのアップロード・ダウンロードが可能
- XMODEM によるファームウェアのダウンロードが可能
- マネージメント用スタックモジュールとして AT-WDM03C（別売）を用いることで、最大 4 台までの WD1001、WD1002 を管理可能

1.3 各部の名称と働き

前面パネル



① 10BASE-T/100BASE-TX ポート

UTPケーブルでスイッチなどを接続し、ネットワークを経由してアクセスするためのポートです（MDI/MDI-X 自動切替）。

参照 24 ページ「10BASE-T/100BASE-TX ポートの接続」

② 10BASE-T/100BASE-TX ポート LED（L/A、D/C）

10BASE-T/100BASE-TX ポートの状況（LINK、ACT、DPX、COL）を表示します。

参照 21 ページ「LED 表示」

③ コンソール（RS-232）ポート

RS-232 ケーブルで、コンソールを接続するためのポートです。

参照 23 ページ「コンソールポートの接続」

④ スタックポート

スタックモジュール（AT-WDM03C）を接続するためのポートです。

参照 24 ページ「スタックポートの接続」

⑤ スタックポート LED

スタックポートの状態を表示します。

参照 21 ページ「LED 表示」

⑥ RESET ボタン

本製品を再起動するためのボタンです。先の細い棒などで RESET ボタンを押すと再起動し、本体のセルフテストを行います。



WD1001/WD1002 は再起動されません。

注意


⑦ ステータス LED

システムソフトウェアおよび電源の状況を表示します。

 **参照** 「LED表示」

⑧ 拘束ネジ

WD1001/WD1002 に固定するための拘束ネジです。

 **参照** 22 ページ「WD1001/WD1002 への取り付け」

⑨ ハンドル

本製品を取り外すときに使用します。

LED 表示

本製品の前面には、本製品のシステム的な状態や各ポートの状態を示す LED ランプがついています。

○ ステータス LED

本製品の運用状態を示します。

LED	色	状態	表示内容
POWER	緑	点灯	電源が正常に供給されています。
		消灯	電源が入っていないか、正常に供給されていません。
FAULT	赤	点灯	本製品の起動処理を行っているか、本製品に問題が発生しています。
		消灯	本製品が正常に動作しています。

○ スタックポート LED

スタックポートの接続状態を示します。

LED	色	状態	表示内容
STACK OUT	緑	点灯	STACK OUT ポートからAT-WDM03Cに接続されています。
		消灯	STACK OUT ポートからAT-WDM03Cに接続されていません。

○ 10BASE-T/100BASE-TX ポート LED

10BASE-T/100BASE-TX ポートの通信状態を示します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑 / 橙	点灯	緑: 100Mbps でリンクしています。 橙: 10Mbps でリンクしています。
		点滅	パケットの送受信を行っています。
		消灯	リンクされていません。
D/C	緑 / 橙	点灯	緑: Full Duplex で通信しています。 橙: Half Duplex で通信しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	リンクされていません。

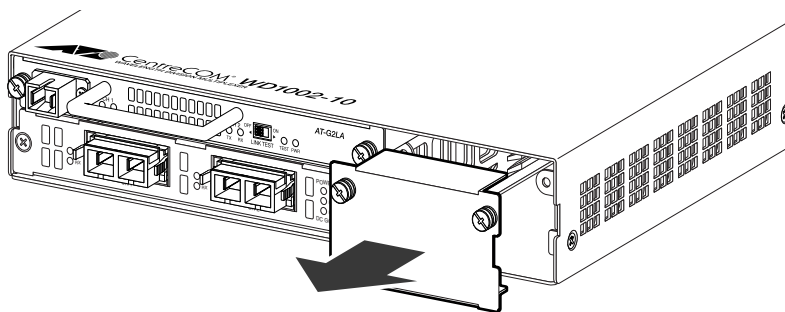
1.4 設置と接続

WD1001/WD1002 への取り付け



本製品はホットスワップ機能に対応しております。使用中の WD1001/WD1002 に本製品を装着、交換する際に WD1001/WD1002 の電源を切る必要はありません。

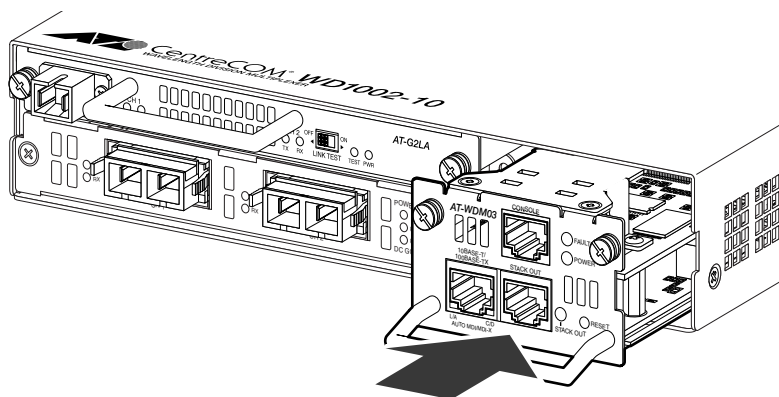
- 1 マネージメントモジュールスロットのカバーパネルを取り外します。
本体前面のマネージメントモジュールスロットのカバーパネルの拘束ネジをドライバーで緩めて、カバーパネルを外してください。



- 2 本製品をマネージメントモジュールスロットに取り付けます。
本製品と WD1001/WD1002 本体の前面が揃うまで、本製品のガイドをスロットのガイドレールにそって押し込みます。



ボード部分には手を触れず、ハンドルおよび前面パネルを持って取り付けを行ってください。
注意



- 3 本製品の拘束ネジを締め、WD1001/WD1002 に固定します。

コンソールポートの接続

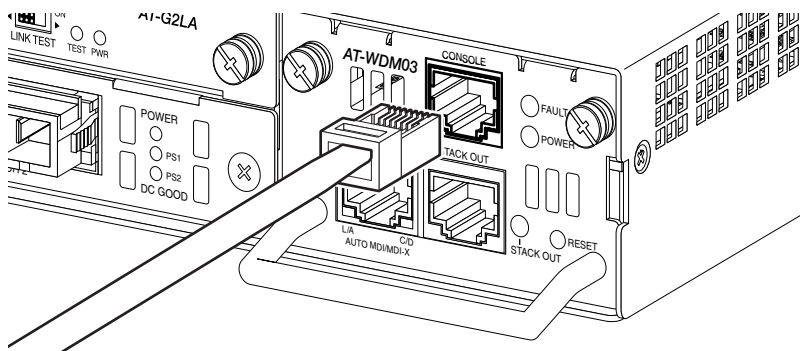
コンソールを使用して本製品の設定を行う場合は、RS-232 ケーブルで、本製品のコンソールポートとコンソール側の RS-232 コネクタを接続します。

コンソール

コンソールは VT-100 をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期の RS-232 インターフェースを持つ VT100 互換端末を使用してください。

ケーブル

ケーブルはオプション（別売）の RJ-45/D-Sub 9 ピン（メス）変換 RS-232 ストレートケーブル「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。

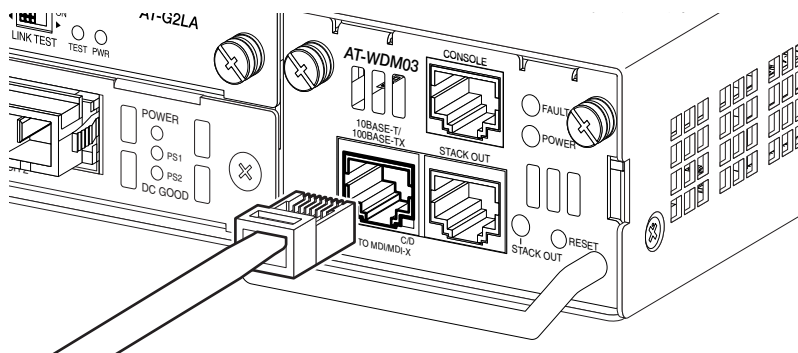


1.4 設置と接続

10BASE-T/100BASE-TX ポートの接続

10BASE-T/100BASE-TX ポートをネットワークやローカルのコンピューターに接続することにより、Telnet 接続を介しての設定や、SNMP マネージャーからの監視ができます。

- 1 カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを 10BASE-T/100BASE-TX ポートに接続してください。



スタックポートの接続

本製品のスタックポートに、スタックモジュール AT-WDM03C のスタックポートを接続することで、1つの AT-WDM03 で最大 4 構成の WD1001、WD1002 システムを管理することができます。



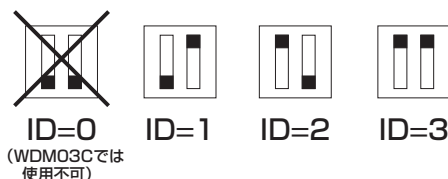
WD1001 と WD1002 を混在させることも可能です。

ヒント

- 1 AT-WDM03C に付属のスタックケーブルを、本製品の STACK OUT ポートに接続します。
- 2 スタックケーブルの反対側を、スタック接続する AT-WDM03C の STACK IN ポートに接続します。

ユニット ID の設定

スタック接続された AT-WDM03C を識別するために、ユニット ID を設定します。本製品は、スタック接続された AT-WDM03C をユニット ID スイッチの設定によって識別します。AT-WDM03C には、2bit のディップスイッチが備わっており、以下のように、1～3 のユニット ID が設定できます。



注意 ユニット ID は、同一スタック内の AT-WDM03C の間で重複しないように設定してください。

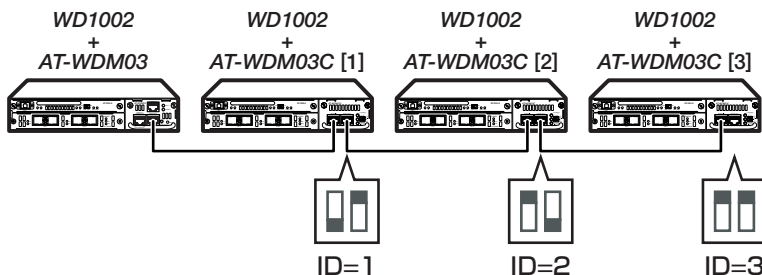


注意 ID 0 は AT-WDM03 専用に固定されており、AT-WDM03C に対して設定することはできません。また、AT-WDM03 同士をスタック接続することはできません。



ヒント SNMP 上では、0～3 のユニット ID に対して、1～4 の Module 番号が対応します。

ユニット ID の設定は、AT-WDM03C の管理画面や、SNMP トラップの内容に反映されません。管理、設定を行いやすいよう、スタックケーブルの結線順に、ユニット ID を 1 から連続して設定することをお勧めします。



注意 ユニット ID を変更する場合は、スタックケーブルを一旦外してから設定を変更してください。

2

基本操作

この章では、本製品に対する設定を行うための、コマンドラインインターフェースからの設定方法を説明しています。

2.1 操作の流れ


STEP 1 コンソールポートの接続

RS-232 ケーブルを使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 23 ページ「コンソールポートの接続」

STEP 2 ローカルコンソールの設定

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 29 ページ「ローカルコンソールの設定」

STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。

ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。

ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。パスワードは大文字・小文字を区別します。

```
login: manager          ···「manager」と入力して [Enter] キーを押します。
```

```
Password: friend       ···「friend」と入力して [Enter] キーを押します。(画面上は*で表示)
```

 31 ページ「ログインする」

STEP 4 設定を始める

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。

```
Manager >          ···プロンプトのあとにコマンドを入力します。
```

 33 ページ「設定を始める」

STEP 5 設定を保存する

設定した内容を保存するため、設定スクリプトファイルを作成します。


```
Manager > create config=filename.cfg [Enter]
```

 43 ページ「設定を保存する」

STEP 6 起動スクリプトを指定する

保存した設定で本製品を起動させるため、起動スクリプトを指定します。

```
Manager > set config=filename.cfg [Enter]
```

 45 ページ「起動スクリプトを指定する」

STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
Manager > logout [Enter]
```

 46 ページ「ログアウトする」


2.2 設定の準備

本製品に対する設定は、ローカルコンソール（本製品のターミナルポートに接続したターミナル）、またはリモートコンソール（Telnet 接続した LAN 上のコンピューター）から行います。どちらの方法も同じ管理機能を使用できます。本製品を初めてお使いになる場合は、まず、ローカルコンソールから本製品を設定します。

ローカルコンソールの設定

ローカルコンソールから本製品の設定を行う場合、通信ソフトウェアの通信設定を次のようにします。

項目	値
通信速度	9,600bps または 19,200bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl+H
エンコード方式	シフト-JIS (SJIS)

 **通信ソフトウェアとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT に標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、211 ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。**

 **本製品のデフォルトの通信設定は9,600bpsです。通信速度を19,200bpsに設定する場合は、SET ASYN コマンドで変更します。**

 **Telnet 接続を行うためには、あらかじめ IP アドレスをローカルコンソールで設定しておく必要があります。**

 **47 ページ「IP アドレスを設定する」**

 **49 ページ「Telnet を使用する」**

2.2 設定の準備

本製品を起動する

- 1 コンピューター（ローカルコンソール）の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 WD1001/WD1002 の電源を入れます。
- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。また、起動スクリプトが指定されていれば、ここで実行されます。

```
RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... OK
UART Test... OK

Boot:\

login:
```

- 4 本製品起動後、「login:」プロンプトが表示されます。

2.3 ログインする

ログインする

本製品の権限は Manager（管理者）レベルのみです。ご購入時の状態では、Manager レベルのユーザーアカウントは「manager」です。初期導入時の設定作業を始め、管理・設定作業はこのアカウントを使用して行います。

- 1 「login:」プロンプトが表示されたら、ユーザー名「manager」を入力します。ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。

```
login: manager 
```

- 2 「Password:」プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。初期パスワードは「friend」です。パスワードは大文字・小文字を区別します。実際の画面では入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
Password: friend 
```

- 3 「Manager >」プロンプトが表示されます。本製品に対する設定や管理は、このプロンプトのあとにコマンドを入力することにより行います。

```
Manager >
```



SET SYSTEM NAME コマンドでシステム名(MIB II オブジェクト sysName)を設定すると、コマンドプロンプトにシステム名が表示されます。



デフォルトのタイムアウトは 300 秒のため、キー入力がない状態が 5 分継続すると自動的にログアウトします (Telnet セッションも同様に切断されます)。SET CONSOLE コマンドでタイムアウトまでの時間を変更できます。

2.3 ログインする

ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更を行います。セキュリティ確保のため、初期パスワードは変更することをお勧めします。

使用コマンド

SET PASSWORD

- 1 ログインします。

```
login: manager   
Password: friend  (入力した文字数分* で表示されます)
```

- 2 パスワードの設定を行います。

```
manager > set password 
```

- 3 現在のパスワードを入力します。
ここでは、初期パスワードの「friend」を入力します。実際の画面では入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
Old password: friend 
```

- 4 新しいパスワードを入力します。
16文字以下の半角英数または半角記号で入力してください。パスワードは大文字・小文字を区別します。
ここでは新しいパスワードを「openENDS」と仮定します。実際の画面では入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

```
New password: openENDS 
```

- 5 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力します。

```
Confirm: openENDS 
```

確認の入力に失敗すると、次のメッセージが表示されます。 キーを押してプロンプトを表示し、手順2からやりなおしてください。

```
Confirm the password incorrect.
```



パスワードは忘れないように注意してください。

2.4 設定を始める

コマンドの入力と画面

コマンドプロンプト

本製品は、「Manager」レベルでのみログインできます。コマンドプロンプトの表示は次のようになります。

```
Manager >
```

SET SYSTEM NAME コマンドでシステム名(MIB II オブジェクト sysName)を設定すると、「>」の前にシステム名が表示されます。複数のシステムを管理しているような場合、システム名にわかりやすい名前を付けておくと各システムを区別しやすくなり便利です。

```
Manager > set system name=sales   
  
Operation successful.  
  
Manager sales>
```



システム名にスペース(空白文字)を含む場合は、SET SYSTEM NSME="3F Sales" のように、[" "] でシステム名を囲んで指定してください。

コマンドライン編集キー

コマンドラインインターフェースでは、次の編集機能を使用することができます(VT100互換端末が必要)。

機能	ターミナルのキー
1文字左 / 1文字右に移動	<input type="button" value="←"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="B"/> / <input type="button" value="→"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="F"/>
行頭 / 行末に移動	<input type="button" value="Home"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="A"/> / <input type="button" value="End"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="E"/>
カーソルの左の文字を削除	<input type="button" value="Backspace"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="H"/>
カーソルの上の文字を削除	<input type="button" value="Delete"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="D"/>
カーソルの上とその右にある文字を削除	<input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="K"/>
コマンド行の消去	<input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="U"/>
前のコマンドを表示(履歴をさかのぼる)	<input type="button" value="↑"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="P"/>
次のコマンドを表示(履歴を進める)	<input type="button" value="↓"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="N"/>
入力途中のコマンドとマッチするコマンドを表示 (<input type="button" value="Tab"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="I"/> は、特定コマンドのみ入力 補助情報も表示)	(スペース) または <input type="button" value="Tab"/> または <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="I"/>
ログアウト	(プロンプトに続けて) <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="D"/>
オンラインヘルプの表示	<input type="button" value="?"/> または <input type="button" value="F1"/>

次に選択可能なキーワードを表示する

() または または + キーを押すと、コマンドの先頭キーワードとして有効な単語の一覧が表示されます(表示項目はソフトウェアのバージョンによって異なる可能性があります)。

2.4 設定を始める

```
Manager > [スペース]
ACTIVATE  ADD      CLS      COPY     CREATE   DELETE   DESTROY  DISABLE
ENABLE    FLUSH   HELP     LOAD     LOGOUT   PING     PURGE    RESET
RESTART   SET     SHOW     UPLOAD
```

コマンドの入力途中で [スペース] または [Tab] または [Ctrl] + [I] キーを押すと、次に選択可能なキーワードの一覧が表示されます。次に選択可能なキーワードが 1 つしかない場合は、そのキーワードが自動挿入されます。コマンドまたはキーワードの単語の区切りで押す場合は、文字列のあとに半角スペースを入力してからキーを押します。

例として、ADD コマンドに続けて [スペース] キーを入力します。

```
Manager > add [スペース]
ACCESS    IP        NTP      SNMP
```



SET FILE など特定のコマンドで [Tab] または [Ctrl] + [I] キーを使用すると、補足情報が表示されま
ヒント

コマンド入力時の注意

コマンド入力時には次のことに注意してください。

- 1 行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて 512 文字です。
コマンド行が長くなり 1 行におさまらない場合は、コマンドの省略形を使うか、コマンドを複数行に分けてください (ADD と SET など)。
- 「ADD」、「IP」などのキーワード (予約語) は大文字・小文字を区別しません。
パラメーターとして指定する値の中には、ログインパスワードのように大文字・小文字を区別するものと、区別しないものがあります。「コマンドリファレンス」を確認して入力してください。
- コマンドは一意に識別できる範囲で省略することができます。
例えば、SHOW FILE コマンドは「SH FI」と省略して入力することができます。
- コマンドの実行結果はすぐに本製品に反映され、再起動を行う必要はありません。
ただし、次のコマンドは再起動後に設定が反映されます。
 - ・ アクセスフィルター関連コマンド
 - ・ CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (TRAPHOST オプション指定時)
 - ・ DESTROY SNMP COMMUNITY コマンド
 - ・ ADD SNMP COMMUNITY コマンド (TRAPHOST オプション指定時)
 - ・ DELETE SNMP COMMUNITY コマンド (TRAPHOST オプション指定時)また、設定内容は再起動すると消去されるので、再起動後も同じ設定で運用したい場合は CREATE CONFIG コマンドで設定スクリプトに保存してください。



参照 43 ページ「設定を保存する」

メッセージ表示

コマンドの入力後、実行結果や構文エラーを知らせるメッセージが表示されます。メッセージには次のようなものがあります。

- コマンドが正しく実行された場合

```
Manager > set system name=sales   
  
Operation successful.
```

- 該当するコマンド、パラメーターがない場合

```
Manager > set systemname=sales   
  
Command syntax error.
```

- コマンドが不完全な場合、パラメーターに必要な値が指定されていないなどの場合

```
Manager > set system   
  
Parameter error or Invalid value.
```

- コマンドが正しく実行され、設定が予約された場合

```
Manager > disable wdm port=1 unit=2   
  
Operation reserved. (PORT=1, UNIT=2)
```



実装されていないローカルポートモジュールや、接続されていないスタックモジュールに対する設定コマンドを入力すると、設定内容が予約され、次にモジュールが実装／接続されたときに設定内容が反映されます。
予約された設定を本製品の再起動後も保持するには、設定ファイルの保存を行う必要があります。

参照 43 ページ「設定を保存する」

表示内容が複数ページにわたる場合

デフォルトの端末設定では、1 ページあたりの行数が 22 に設定されています。コマンドの出力結果が 22 行よりも長い場合は 21 行ごとに表示が一時停止し、最下行に次のようなメッセージが表示され、キー入力待ち状態になります。

```
-More- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

2.4 設定を始める

ここでは、次のキー操作ができます。

機能	コンソールターミナルのキー
次の 1 ページを表示する	[スペース]
次の 1 行を表示する	Enter
残りすべてを続けて表示する	[C]
残りを表示せずにプロンプトに戻る	[Q]

ページあたりの行数は SET ASYN コマンドで変更できます。ページ設定はセッション(コンソールターミナルと Telnet セッション) に共通して有効になります。設定スクリプトにも保存されます。

```
Manager > SET ASYN PAGE=30 Enter
```

ページ単位の一時的停止を無効にするには、PAGE パラメーターに OFF (または 0) を指定します。

```
Manager > SET ASYN PAGE=OFF Enter
```

また、PING、SHOW LOG、ACTIVATELOOPBACKTEST コマンドの表示を途中で止めたい場合、表示の最中に [Ctrl] + [C] を実行してコマンドプロンプトに戻ることができます。

オンラインヘルプ

本製品にはオンラインヘルプが用意されています。HELP コマンドを実行すると、ヘルプファイルのトップページが表示されます。

```
Manager > help 

AT-WDM03 オンラインヘルプ

This online help is written in Japanese.

ヘルプは次のトピックを説明しています。
入力は大文字の部分だけでかまいません。("HELP ACCESSFILTER" は "H A" と省略可)

Help Accessfilter      アクセスフィルター
Help Configuration     コンフィグレーション
Help Filesystem        ファイルシステム
Help INterface         インターフェース
Help IP                IP
Help LOADER            アップロード・ダウンロード
Help LOG              ログ
Help Ntp              NTP
Help SYstem           システム
Help SScript          スクリプト
Help SNmp             SNMP
Help TERminal        ターミナルサービス
Help TEST            接続テスト
Help Keybind         キーバインド
```

トップページの一覧からトピックを指定します。入力は大文字の部分だけでかまいません ("Help Accessfilter" は "H A" と省略可)。例として「Help Accessfilter」を指定します。

```
Manager > help accessfilter 

AT-WDM03 オンラインヘルプ

アクセスフィルター

Help Add Access filter      アクセスフィルターグループへエントリーを追加
Help DElete Access filter entry  アクセスフィルターグループからエントリーを削除
Help DIsable Access filter  アクセスフィルターを無効にする
Help ENable Access filter   アクセスフィルターを有効にする
Help SEt Access filter      アクセスフィルターグループの設定を変更
Help SEt ACcess Filter Entry  アクセスフィルターグループのエントリーを変更
Help SHOW ACcess filter     アクセスフィルターグループの設定内容を表示
```

画面の表示にしたがってトピックを多段で指定してください。ここでは、例として「Help Add ACcess filter」を指定します。このコマンドの構文が表示されます。

2.4 設定を始める

```
Manager > help add access filter Enter
```

アクセスフィルターグループへエントリーを追加します。

```
ADD ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL}  
IPADDRESS=ipadd MASK=mask ACTION={PASS|DISCARD}
```



F1 キーまたは **?** キーを押してもオンラインヘルプを表示できます。例えば、**A** キー、**F1** キーの
順に入力すると、アクセスフィルターのヘルプが表示されます。

コマンドラインの途中で **F1** キーまたは **?** キーを入力すると、そのコマンドのオンラインヘルプを表示します。

```
Manager > create config ?
```

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）をスクリプトファイルに保存します。

```
CREATE CONFIG=filename (.cfg or .scp)
```

コマンドが特定できない場合は、Unknown help command. と表示されます。

```
Manager > show f ?
```

Unknown help command.

```
Manager > show f (スペース)
```

FILE FTP

```
Manager > show ft ?
```

FTP サーバーの設定情報を表示します。

```
SHOW FTP
```

コマンドの表記

本書およびオンラインヘルプでは、コマンドやパラメーターを次のような構文で記載しています。

コマンドは複数のキーワードをスペース区切りで並べた構造になっています。

大文字	大文字の部分はコマンド名やパラメーター名などのキーワード（予約語）を示します。キーワードは大文字・小文字の区別がありませんので、小文字で入力してもかまいません。一方、キーワードでない部分（パラメーター値など）には、大文字・小文字を区別するものもありますので、各パラメーターの説明を参照してください。
小文字	小文字の部分は値を示します。コマンド入力時には、環境に応じて異なる文字列や数字が入ります。例えば、COMMUNITY=community のような構文では community の部分に具体的なコミュニティ名を入力します。
{ }	ブレース（{ }）で囲まれた部分は、複数の選択肢からどれか 1 つを指定することを示します。選択肢の各項目は縦棒（ ）で区切られます。例えば、ACCESS={READ WRITE} は、ACCESS パラメーターの値としてキーワード READ か WRITE のどちらか一方だけを指定することを示しています。
[]	スクエアブラケット（[]）で囲まれた部分は省略可能であることを示します。

2.4 設定を始める

コマンド一覧

アクセスフィルター

ADD ACCESS FILTER	アクセスフィルターグループヘントリを追加
DELETE ACCESS FILTER ENTRY	アクセスフィルターグループのエントリを削除
DISABLE ACCESS FILTER	アクセスフィルター機能の無効
ENABLE ACCESS FILTER	アクセスフィルター機能の有効
SET ACCESS FILTER	アクセスフィルターグループの設定を変更
SET ACCESS FILTER ENTRY	アクセスフィルターグループエントリを変更
SHOW ACCESS FILTER	アクセスフィルターグループの設定内容を表示

コンフィグレーション

CREATE CONFIG	現在の設定内容をスクリプトファイルに保存
SET CONFIG	起動時設定ファイルを指定
SHOW CONFIG	システムの設定内容を一覧表示

インターフェース

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE	10BASE-T/100BASE-TX ポートのオートネゴシエーションを設定
DISABLE ETH	10BASE-T/100BASE-TX ポートの無効
DISABLE MISSINGLINK PORT	ミッシングリンクの無効
DISABLE OFC CHANNEL	OFC 機能の無効
DISABLE WDM PORT	ローカル / リモートポートの無効
ENABLE ETH	10BASE-T/100BASE-TX ポートの有効
ENABLE MISSINGLINK PORT	ミッシングリンクの有効
ENABLE OFC CHANNEL	OFC 機能の有効
ENABLE WDM PORT	ローカル / リモートポートの有効
RESET ETH	10BASE-T/100BASE-TX ポートをリセット
RESET WDM CHANNEL COUNTER	RLL 符号化エラー統計情報をリセット
RESET WDM PORT	ローカル / リモートポートをリセット
SET ETH	10BASE-T/100BASE-TX ポートを設定
SET WDM PORT NAME	ポート名を設定
SHOW ETH COUNTER	10BASE-T/100BASE-TX ポートの統計情報を表示
SHOW ETH MACADDRESS	10BASE-T/100BASE-TXポートのMACアドレスを表示
SHOW ETH STATE	10BASE-T/100BASE-TX ポートの状態を表示
SHOW WDM	WDM の一般的な情報を表示
SHOW WDM CHANNEL COUNTER	RLL 符号化エラーの統計情報を表示
SHOW WDM CHANNEL LEVEL	チャンネル入出力レベルを表示
SHOW WDM PORT	ポートの設定内容と状態を表示

ファイルシステム

COPY	ファイルを複製
DELETE FILE	ファイルを削除
SHOW FILE	ファイル一覧 / テキストファイルの内容を表示

IP

ADD IP	IP アドレス情報に関する設定を追加
DELETE IP	IP アドレス情報に関する設定を削除
DISABLE IP DHCP	DHCP の無効
ENABLE IP DHCP	DHCP の有効
PING	PING を実行
SET IP	IP アドレス情報に関する設定を変更
SHOW IP	IP アドレス情報を表示

アップロード・ダウンロード

DISABLE FTP SERVER	FTP サーバーの無効
ENABLE FTP SERVER	FTP サーバーの有効
LOAD	TFTP によるファイルをダウンロード
SET FTP LISTENPORT	FTP サーバーへのリスニングポート設定を変更
SET LOADER	LOADER モジュールのデフォルトパラメーターを設定
SET TFTP LISTENPORT	TFTP サーバーへのリスニングポート設定を変更
SHOW FTP	FTP サーバーの設定情報を表示
SHOW LOADER	LOADER モジュールのデフォルト設定値を表示
SHOW TFTP	TFTP クライアントの設定情報を表示
UPLOAD	TFTP によるファイルをアップロード

ログ

DISABLE LOG OUTPUT	指定した出力先へのログ出力の無効
ENABLE LOG OUTPUT	指定した出力先へのログ出力の有効
FLUSH LOG OUTPUT	ログメッセージを削除
PURGE LOG	ログ機能に関する設定・ログメッセージを削除
SET LOG OUTPUT	ログ出力先に出力するログメッセージの条件を設定
SHOW LOG	ログを表示
SHOW LOG COUNTER	ログ機能の診断カウンターを表示
SHOW LOG OUTPUT	ログ出力先の定義内容を表示
SHOW LOG STATUS	ログ機能の設定情報を表示

NTP

ADD NTP PEER	時刻同期をとるNTPサーバーのIPアドレスを追加
DELETE NTP PEER	時刻同期をとるNTPサーバーのIPアドレスを削除
DISABLE NTP	NTP モジュールの無効
ENABLE NTP	NTP モジュールの有効
PURGE NTP	NTP モジュールの設定情報をすべて消去
RESET NTP	NTP モジュールをリセット
SET NTP	時刻同期をとるNTPサーバーのIPアドレス・UTC オフセットを設定
SHOW NTP	NTP の設定情報を表示

システム

CLS	現在表示中の画面を消去
HELP	オンラインヘルプを表示
LOGOUT	ログアウト
RESTART [REBOOT]	システムを再起動
SET PASSWORD	セキュリティパスワードを設定
SET TIME	日付と時刻を設定
SET SYSTEM	システム情報に関するコンフィグを設定
SHOW TIME	日付と時刻を表示
SHOW SYSTEM	システム情報を表示

スクリプト

ACTIVATE SCRIPT	指定したスクリプトを実行
-----------------	--------------

SNMP

ADD SNMP COMMUNITY	SNMP 管理ステーション/トラップホストを追加
CREATE SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティを作成

2.4 設定を始める

DELETE SNMP COMMUNITY	SNMPコミュニティの管理ステーション、トラップホストを削除
DESTROY SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティを削除
DISABLE SNMP	SNMP モジュールの無効
DISABLE SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティの無効
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP	SNMP コミュニティごとのトラップ生成の無効
DISABLE SNMP TRAP	トラップ生成の無効
ENABLE SNMP	SNMP モジュールの有効
ENABLE SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティの有効
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP	SNMP コミュニティごとのトラップ生成の有効
ENABLE SNMP TRAP	トラップ生成の有効
SET SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティの設定パラメーターを変更
SET SNMP LISTENPORT	SNMP サーバーのリスニングポート設定を変更
SET SNMPTRAP LISTENPORT	SNMPサーバー(TRAP)のリスニングポートを変更
SHOW SNMP	SNMP モジュールの情報を表示
SHOW SNMP COMMUNITY	SNMP コミュニティの情報を表示
SHOW SNMP TRAP	トラップの情報を表示

ターミナルサービス

DISABLE TELNET SERVER	TELNET サーバーを無効
ENABLE TELNET SERVER	TELNET サーバーを有効
SET ASYN	コンソールポート・ログインセッションを設定
SET CONSOLE TIMEOUT	コンソールタイムアウトを設定
SET TELNET	TELNET サーバーの設定を変更
SHOW CONSOLE	コンソールの設定内容を表示
SHOW TELNET	TELNET サーバーの設定情報を表示

接続テスト

ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT	ループバックテストを実行
DISABLE LINKTEST CHANNEL	リンクテスト機能を停止
DISABLE LOOPBACK CHANNEL	ループバック機能の無効
ENABLE LINKTEST CHANNEL	リンクテスト機能を開始
ENABLE LOOPBACK CHANNEL	ループバック機能の有効

2.5 設定を保存する

コマンドの実行結果はすぐに本製品に反映されませんが、設定内容はランタイムメモリー (RAM) 上にあるため、本製品の抜き差しや WD1001/WD1002 本体の電源オフ・オン、リセットボタン、または RESTART コマンドを実行して本製品を再起動すると消去されます。

再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、CREATE CONFIG コマンドを実行して設定内容をスクリプトファイルに保存します。

使用コマンド

CREATE CONFIG=filename

SHOW FILE[=filename]

パラメーター

CONFIG: 設定スクリプトファイル名。文字数は拡張子、および拡張子の区切り文字ピリオド [.] を含め、1～15 文字。指定可能文字は、半角英数字とハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(] および閉じ丸かっこ [)] です。大文字小文字は表示上は区別されますが、実行・削除上は区別されません。拡張子は「.cfg」または「.scp」を付けます。指定したファイルがすでに存在していた場合は上書きされます。存在しない場合は新規に作成されます。

- 1 設定スクリプトファイルを作成します。
ここでは、設定スクリプトのファイル名を「test01.cfg」と仮定します。

```
Manager > create config=test01.cfg 
```

- 2 SHOW FILE コマンドで、ファイルが正しく作成されたことを確認します。

```
Manager > show file 
```

Filename	Device	Size	Created	Attribute
test1.cfg	flash	377	2004-03-15 20:03:06	script

2.5 設定を保存する

設定スクリプトはテキストファイルです。SHOW FILE コマンドでファイル名を指定すると、設定内容が確認できます。

```
Manager > show file=test01.cfg   
  
File : test01.cfg  
1:  
2:#  
3:# SYSTEM configuration  
4:#  
5:  
6:#  
7:# LOAD configuration  
8:#  
9:  
10:#  
11:# CONSOLE configuration  
12:#  
13:  
14:#  
15:# INTERFACE configuration  
16:#  
17:  
18:#  
19:# TEST configuration  
-More- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

2.6 起動スクリプトを指定する

本製品が起動するときに、作成した設定スクリプトが実行されるように設定します。起動時に実行される設定スクリプトを「起動スクリプト」と呼びます。

使用コマンド

```
SET CONFIG=filename
```

```
SHOW CONFIG
```

パラメーター

CONFIG: 起動スクリプトファイル。起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイル（「.cfg」または「.scp」ファイル）を指定します。

- 1 起動スクリプトを指定します。
ここでは、設定スクリプトのファイル名を「test01.cfg」と仮定します。

```
Manager > set config=test01.cfg 
```

- 2 SHOW CONFIG コマンドで、現在指定されている起動スクリプトを確認します。
Boot configuration file が次回起動時に実行されるスクリプト、Current configuration が今回の起動時に実行されたスクリプトです。

```
Manager > show config   
  
Boot configuration file: test01.cfg (exists)  
Current configuration: None
```

2.7 ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、通信ソフトウェアを終了します。

使用コマンド

LOGOUT

- 1 LOGOUT コマンドを実行します。

```
Manager > logout 
```

- 2 セッションが終了し、「login:」プロンプトが表示されます。

```
Login:
```



注意

セキュリティのため、通信ソフトウェアを終了する前に、必ず LOGOUT コマンドでログアウトしてください。



ヒント

LOGOUT の代わりに、LOGOFF、QUIT、EXIT、BYE、プロンプトに続けて + も使用できます。

2.8 基本の設定と操作

ここでは、本製品の基本的な設定と操作について説明します。詳細については、3章（75ページ以降）の「コマンドリファレンス」を参照してください。

IP アドレスを設定する

Telnet クライアントによるログインや SNMP マネージャーによる本製品の監視のためには、IP アドレスの設定が必要になります。

手動で IP アドレスを設定する

使用コマンド

```
ADD IP IPADDRESS=ipadd [MASK=ipadd] [GATEWAY=ipadd]
```

パラメーター

IPADDRESS: IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 の半角数字を入力します。

MASK: サブネットマスク。X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 の半角数字を入力します。省略時は IP アドレスのクラス標準マスクが使用されます。

GATEWAY: ゲートウェイの IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 の半角数字を入力します。ルーターを介して他のネットワークに接続する場合に設定します。

手動で IP アドレスを設定するには、次のようにします。

- 1 本体に IP アドレスを設定します。
ここでは、IP アドレス「192.168.1.10」、サブネットマスク「255.255.255.0」、ゲートウェイ「192.168.1.32」を設定すると仮定します。

```
Manager > add ip ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0 gateway=192.168.1.32 
```

- 2 SHOW IP コマンドを実行し、IP アドレスの設定を確認します。

```
Manager > show ip   
  
IP Address Information  
-----  
Type ..... Static  
Interface ..... default  
IP address ..... 192.168.1.10  
Subnet mask ..... 255.255.255.0  
Gateway address ..... 192.168.1.32  
MTU ..... 1500  
DHCP Client ..... Disabled  
-----
```

2.8 基本の設定と操作

DHCP で IP アドレスを自動設定する

ネットワーク上の DHCP サーバーを利用して、本製品に IP アドレスを自動設定することもできます (DHCP クライアント機能)。本製品の DHCP クライアント機能では、IP アドレスとサブネットマスク情報が取得・自動設定できます。

使用コマンド

```
ENABLE IP DHCP
ADD IP IPADDRESS=DHCP
SHOW IP
```

パラメーター

IPADDRESS: DHCP サーバーから IP パラメーターを取得して自動設定する場合は、DHCP を指定します。

- 1 IP アドレスの動的設定機能を有効にします。DHCP クライアント機能を使うときは、必ず最初に動的設定を有効にしてください。

```
Manager > enable ip dhcp 
```

- 2 IP インターフェースを作成します。IPADDRESS パラメーターには DHCP を指定します。「Info:」以降に取得した情報が表示されます。

```
Manager > add ip ipaddress=dhcp 

Operation successful.

Info: <dhcpc> ip:192.168.1.254 mask:255.255.255.0 gateway:192.168.1.32
```

- 3 DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレス、DHCP サーバーアドレス、ゲートウェイアドレスなどは、SHOW IP コマンドで確認できます。

```
Manager > show ip 

IP Address Information
-----
Type ..... Dynamic
IP address ..... 192.168.1.254
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... 192.168.1.32
MTU ..... 1500
DHCP Client ..... Enabled
-----
```



ENABLE IP DHCP コマンドを実行しないと、DHCP サーバーからアドレスの割り当てを受け取ることができません。

SHOW IP コマンドを実行して、「DHCP Client」が Enabled になっているかを確認してください。Disabled のときは ENABLE IP DHCP コマンドを実行して、再度 ADD IP IPADDRESS=DHCP で DHCP を指定してください。



注意

一度 DHCP により自動で IP アドレスを取得し、DELETE IP コマンドで IP アドレスを削除したのち、再度指定したあとに DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得するよう設定する場合には、本製品を再起動する必要があります。「It will not be activated before saving the setting and rebooting the system.」というメッセージが表示されたら、必要に応じて設定を設定ファイルに保存し、RESTART コマンドで再起動してください。

Telnet を使用する

Telnet でログインする

本製品の Telnet サーバー機能は、デフォルトでは有効 (Enabled) に設定されています。本製品に IP アドレスを設定すると、Telnet クライアントからネットワーク経由で本製品にログインできます。

Telnet クライアントには、次のパラメーターを設定します。

項目	値
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl + H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)

- 1 Telnet クライアント機能が利用できる機器から、本製品に対して Telnet を実行します。ここでは、本製品に IP アドレス「192.168.1.10」が割り当てられていると仮定します。

```
telnet 192.168.1.10 
```

- 2 Telnet セッションが確立すると、「login:」プロンプトが表示されます。



Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT の稼動しているコンピューター上で Telnet ヒントを使用する場合は、214 ページ「Telnet クライアントの設定」を参照してください。

Telnet サーバー機能を無効にする

Telnet 接続を拒否する場合は、DISABLE TELNET コマンドで Telnet サーバー機能を無効に設定します。

使用コマンド

```
DISABLE TELNET SERVER
```

Telnet サーバー機能を無効に設定するには、コマンドラインから DISABLE TELNET SERVER コマンドを実行します。

```
Manager > disable telnet server 
```

2.8 基本の設定と操作

Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する

Telnet サーバーのリスニング TCP ポート番号を変更することができます。デフォルトでは 23 です。

使用コマンド

```
SET TELNET [LISTENPORT=port]
SHOW TELNET
```

パラメーター

LISTENPORT: Telnet サーバーの TCP ポート番号。2 ～ 32767 の半角数字を入力します。デフォルトは 23 です。

- 1 例として、TCP ポート番号を「1026」に変更します。

```
Manager > set telnet listenport=1026 
```

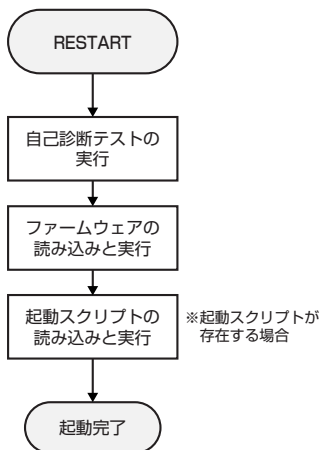
- 2 SHOW TELNET コマンドを実行し、Telnet モジュールの設定情報を確認します。

```
Manager > show telnet 

TELNET Module Configuration:
-----
TELNET Server : Enabled
TELNET Server Listen Port : 1026
TELNET Connection Limit : 4
-----
```

システムを再起動する

本製品は、RESTART コマンドで再起動します。



本製品の再起動は、本製品の抜き差し、またはリセットボタンと同じハードウェア的なリセットを行います。ファームウェアをロードしたあと、起動スクリプトを読み込みます。ファームウェアをバージョンアップした場合などは、この操作が必要です。再起動を行った場合、WD1001/WD1002 本体の通信は切断されません。

使用コマンド

RESTART [REBOOT]

- 1 RESTART コマンドを実行します。(パラメータ「REBOOT」は省略可能です。)

```
Manager > restart 
```

- 2 ここで再起動するかどうかの確認を促すメッセージが表示されますので、再起動する場合は「Y」を入力します。

```
Do restart system now? (Y/N): y
```

2.8 基本の設定と操作

- 3 自己診断テスト終了後、「login:」プロンプトが表示されたら、再起動は完了です。

```
RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... OK
UART Test... OK

Boot:

login:
```

ご購入時の状態に戻す

すべての設定をご購入時の状態に戻します。この場合、設定スクリプトファイルを削除する必要はありません。起動スクリプトを読み込まずに初期化し、デフォルト値が存在する設定はすべてデフォルト値で起動します。設定ファイルが破損し、コマンドを受け付けなくなったような場合には Boot メニューから戻してください。

コマンドラインから戻す

使用コマンド

SET CONFIG=filename

パラメーター

CONFIG: 設定スクリプトファイル。ここでは NONE を指定します。

- 1 起動時に設定スクリプトが読み込まないようにします。

```
Manager > set config=none 
```

- 2 RESTART コマンドで、本製品を再起動します。

本製品はログアウトし、起動スクリプトを読み込まない状態で初期化されます。ソフトウェア的にはご購入時の状態になりますが、設定スクリプトファイルは削除されていません。

```
Manager > restart 
```

本製品を完全にご購入時の状態に戻すには、本製品に保存したスクリプトファイルなどをすべて削除します。DELETE FILE コマンドでワイルドカードを指定して、ファイルをすべて削除します。

```
Manager > delete file=* 
```

Boot メニューから戻す

- 1 ハイパーターミナルを起動し、ログインします。
RESTART コマンド（または WD1001/WD1002 の電源 オフ→オン、本製品の抜き差し、リセットボタン）により、本製品を再起動します。ここでは、RESTART コマンドで再起動しています。

```
Manager > restart   
  
Do restart system now? (Y/N): y
```

- 2 自己診断チェック後、「Boot:」と表示されたら直後に を押します。

```
RAM Test... OK  
Flash Test... OK  
NIC Test... OK  
UART Test... OK  
  
Boot:\ 
```



「Boot:」と表示されしばらくたつと、「Boot:」の右で記号が表示され始めます。この記号の表示が始まる前に を押してください。

- 3 次の Boot メニューが表示されます。

```
Boot Program version 1.2.0 B02  
Model: AT-WDM03, Rev.A1, MAC Address : 0000F4000000  
  
Select an option  
R: RAM test  
F: Flash test  
N: NIC test  
U: UART test  
A: All of the above test  
C: Change continuous mode [Disable]  
  
T: Test all the range of RAM, and reboot  
  
B: Boot System Program  
X: XMODEM download  
D: Restore all configuration data to factory defaults  
  
M: Memory Dump  
Z: Change Terminal Speed  
->
```

2.8 基本の設定と操作

- 4 を入力し、工場出荷時の状態に戻します。さらに、現在の設定をすべて消去して良いかの確認メッセージが表示されますので、良い場合は を入力します。

```
-> d
WARNING: This will erase all current configuration data! Continue ?
(y/n) y
->
```

- 5 Boot メニューを終了し、通常の管理画面に戻ります。ソフトウェア的にはご購入時の状態になりますが、設定スクリプトファイルは削除されていません。

```
-> b
loading system program..\
login:
```

本製品を完全にご購入時の状態に戻すには、本製品に保存したスクリプトファイルなどをすべて削除します。DELETE FILE コマンドでワイルドカードを指定して、ファイルをすべて削除します。

```
Manager > delete file=* 
```



Boot メニューからご購入時の状態に戻すと、ユーザー名とパスワードも工場出荷時のものに戻ります。工場出荷時のユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。

ファイルシステム

本製品は、再起動後もデータが保持される 2 次記憶装置として、フラッシュメモリーを搭載しています。このデバイス上にはファイルシステムが構築されており、物理デバイス上のデータをファイル単位でアクセスすることが可能です。

- フラッシュメモリー
フラッシュメモリーに、ファームウェア (リリース) ファイル、設定スクリプトファイルなどを保存します。

ファイル名

ファイル名は次の形式で表されます。

filename.ext

filename: ファイル名。文字数は拡張子、および拡張子の区切り文字ピリオド [.] を含め、1 ~ 15 文字。指定可能文字は、半角英数字とハイフン [-]、

アンダーバー [_]、ピリオド[.]、開始丸かっこ[(]および閉じ丸かっこ[)]です。大文字小文字は表示上は区別されますが、実行・削除上は区別されません。

ext: 拡張子。スクリプトファイルの場合には、必ず拡張子 (.cfg または .scp) を付ける必要があります。cfg と .scp 以外の拡張子を持つファイル、また拡張子を持たないファイルは、単なるデータファイルとして判断されます。

拡張子	ファイルタイプ
cfg	設定スクリプトファイル。本製品の設定情報を保存します。scp との間に明確な区別はありませんが、慣例として設定内容を保存するスクリプトには cfg を使います。
scp	実行スクリプトファイル。cfg との間に明確な区別はありませんが、慣例として ACTIVATE SCRIPT コマンドで実行するスクリプトには scp を使います。

ファイルシステム情報を表示する

SHOW FILE コマンドで、ファイルを一覧表示できます。

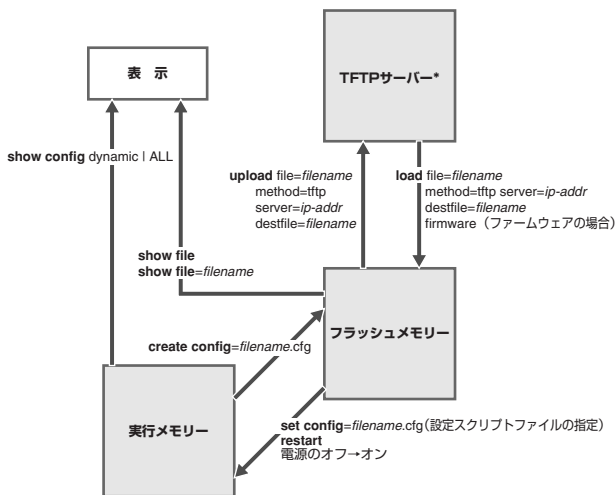
```
Manager > show file 
```

Filename	Device	Size	Created	Attribute
test1.cfg	flash	377	2004-03-15 20:03:06	script

2.8 基本の設定と操作

ファイルの操作コマンド

ファイル（設定ファイル）に対する操作コマンドを図式化します。



*ファイルのアップロード・ダウンロードは、FTPクライアントソフトウェアおよびコンソールターミナル（XMODEM）からでも実行できます。

ダウンロード・アップロードする

本製品は、FTP、TFTP (Trivial File Transfer Protocol) や XMODEM を利用したファイルのアップロード、ダウンロードが可能です。

FTP でダウンロード・アップロードする

本製品は、FTP サーバー機能をサポートしているため、FTP クライアントから本製品（ファイルシステム）へのダウンロード、または本製品（ファイルシステム）からFTP クライアントへのアップロードが可能です。ファームウェアファイルはダウンロードのみが可能です。ここでは、FTP の実行環境に Windows XP のコマンドプロンプトを使用した場合を例に説明します。

以下の説明は、次のような仮定で行います。

- FTP クライアントの IP アドレス：192.168.10.100/255.255.255.0
- 本製品の IP アドレス：192.168.10.1/255.255.255.0
- ダウンロード・アップロードファイルの保存場所：C:¥WDM03
- ダウンロード・アップロードするファイルの名称：test01.cfg

1 本製品に IP アドレスを割り当てます。

```
Manager > add ip ipaddress=192.168.10.1 mask=255.255.255.0 
```

2 FTP クライアントに対して PING コマンドを実行して、FTP クライアントとの通信が可能なことを確認します。

```
Manager > ping 192.168.10.100 
```

3 Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] からコマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトが表示されたら、ファイルの保存場所に移動し、FTP 接続を開始し、ユーザー名とパスワードを入力してログインします。

```
C:¥>  
C:¥> cd wdm03   
C:¥wdm03> ftp 192.168.10.1   
Connected to 192.168.10.1.  
220 FTP server ready.  
User (192.168.10.1:(none)): manager   
Password: friend  (入力した文字数分*で表示されます)  
230 User logged in.  
ftp>
```

2.8 基本の設定と操作

- 4 ファイルをダウンロード（FTP クライアント→本製品）する場合は、FTP の PUT コマンドを使用します。

```
ftp > put test01.cfg   
200 PORT command successful  
150 Opening ASCII mode data connection for test01.cfg.
```

- 5 ファイル転送が完了すると次のメッセージが表示されます（「ftp: 573・・・」以降のメッセージは転送するファイルにより異なります）。

```
226 Transfer Complete.  
ftp: 573 bytes sent in 0.00Seconds 573000.00Kbytes/sec.  
ftp>
```



注意

ファームウェアをダウンロードする場合には、PUT コマンドの前に BINARY コマンドを実行し、転送モードをバイナリーに指定してください。また、CD コマンドで本製品の「@unpack」ディレクトリーに移動してから PUT コマンドを実行してください。



ヒント

ダウンロードするファイルと同じ名前のファイルが本製品のファイルシステム上に存在すると、自動的にダウンロードするファイルで上書きします。

- 6 ファイルをアップロード（本製品→FTP クライアント）する場合は、FTP の GET コマンドを使用します。

```
ftp > get test01.cfg   
200 PORT command successful  
150 Opening ASCII mode data connection for test01.cfg.
```

- 7 ファイル転送が完了すると次のメッセージが表示されます（「ftp: 573・・・」以降のメッセージは転送するファイルにより異なります）。

```
226 Transfer Complete.  
ftp: 573 bytes sent in 0.00Seconds 573000.00Kbytes/sec.  
ftp>
```



注意

ファームウェアはアップロードできません。



ヒント

アップロードするファイルと同じ名前のファイルが FTP クライアントのファイルシステム上に存在すると、自動的にアップロードするファイルで上書きします。

TFTP でダウンロード・アップロードする

本製品は、TFTP クライアント機能をサポートしているため、TFTP サーバーから本製品（ファイルシステム）へのダウンロード、または本製品（ファイルシステム）から TFTP サーバーへのアップロードが可能です。ファームウェアファイルはダウンロードのみが可能です。

以下の説明は、次のような仮定で行います。

- TFTP サーバーの IP アドレス：192.168.10.100/255.255.255.0
- 本製品の IP アドレス：192.168.10.1/255.255.255.0
- ダウンロード・アップロードするファイルの名称：test01.cfg

使用コマンド

```
LOAD [METHOD=TFTP] [FILE=filename] [DESTFILE=filename]
      [SERVER=ipadd] [FIRMWARE]
UPLOAD [METHOD=TFTP] [FILE=filename] [DESTFILE=filename]
       [SERVER=ipadd]
```

パラメーター

METHOD:	転送プロトコル。TFTP を指定します。
FILE:	ダウンロード・アップロードファイル。サーバー上のフルパスで指定します。
DESTFILE:	ダウンロード・アップロード後のファイル名。指定しない場合、FILE と同じ名前になります。
SERVER:	TFTP サーバーの IP アドレス。
FIRMWARE:	ファームウェアをダウンロードする際に指定します。

- 1 本製品に IP アドレスを割り当てます。

```
Manager > add ip ipaddress=192.168.10.1 mask=255.255.255.0 
```

- 2 TFTP サーバーに対して PING コマンドを実行して、TFTP サーバーとの通信が可能なことを確認します。

```
Manager > ping 192.168.10.100 
```

- 3 ファイルをダウンロード（TFTP サーバー→本製品）する場合は、LOAD コマンドを使用します。

```
Manager > load method=tftp file=test01.cfg server=192.168.10.100 
```

2.8 基本の設定と操作

- 4 ファイル転送が完了すると次のメッセージが表示されます。

```
File transfer successfully completed.
```

```
Manager >
```



ダウンロードするファイルと同じ名前のファイルがファイルシステム上に存在すると、自動的にダウンロードするファイルで上書きします。

- 5 ファイルをアップロード（本製品→TFTP サーバー）する場合は、UPLOAD コマンドを使用します。

```
Manager > upload method=tftp file=test01.cfg server=192.168.10.100 
```

- 6 ファイル転送が完了すると次のメッセージが表示されます。

```
File transfer successfully completed.
```

```
Manager >
```



ファームウェアはアップロードできません。



ダウンロードするファイルと同じ名前のファイルがファイルシステム上に存在すると、自動的にダウンロードするファイルで上書きします。




LOAD コマンドまたはUPLOAD コマンドの設定パラメーターを、あらかじめSET LOADER コマンドで指定しておけば、ダウンロードの際に「LOAD」または「UPLOAD」を実行するだけでダウンロード・アップロードを実行できます。

SET LOADER コマンドの設定内容は SHOW LOADER コマンドで確認できます。SET LOADER コマンドでパラメーターを設定していても、LOAD コマンドまたはUPLOAD コマンドの実行時に指定したパラメーターが優先されます。

XMODEM でダウンロード・アップロードする

本製品は、XMODEM プロトコルをサポートしているため、コンソールターミナルを介し、Boot メニューから本製品へのファームウェアダウンロードが可能です。

ここでは、通信ソフトウェアとして Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT のハイパーターミナルを使用する場合を説明します。

 211 ページ「ハイパーターミナルの設定」

- 1 ハイパーターミナルを起動し、ログインします。RESTART コマンドで本製品を再起動します。

```
Manager > restart   
  
Do restart system now? (Y/N): y
```

- 2 自己診断チェック後、「Boot:」と表示されたら直後に を押します。

```
RAM Test... OK  
Flash Test... OK  
NIC Test... OK  
UART Test... OK  
  
Boot: 
```



「Boot:」と表示されしばらくたつと、「Boot:」の右で記号が表示され始めます。この記号の表示が始まる前に を押してください。

2.8 基本の設定と操作

- 3 次の Boot メニューが表示されます。

```
Boot Program version 1.2.0 B02
Model: AT-WDM03, Rev.A1, MAC Address : 0000F4000000

Select an option
R: RAM test
F: Flash test
N: NIC test
U: UART test
A: All of the above test
C: Change continuous mode [Disable]

T: Test all the range of RAM, and reboot

B: Boot System Program
X: XMODEM download
D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Dump
Z: Change Terminal Speed
->
```

- 4 まず、**[Z]** キーを押して、XMODEM での転送速度をより高速なものに変更します。ここでは、57600bps を指定します。**[4]** キーを押した直後は文字化けしています。

```
-> z
Enter New Speed:
1 = 9600
2 = 19200
3 = 38400
4 = 57600
-> 4
```

- 5 ハイパーターミナルの[通信]メニューから[切断]を選択し、[ファイル]→[プロパティ]の[接続の設定]タブを選択し、[モデムの構成]ボタンをクリックして速度を 57600 に指定します。[適用]ボタンをクリックし、[OK] をクリックして[通信]メニューの[電話]をクリックします。
- 6 **[X]** キーを押して、XMODEM のダウンロードを開始します。

```
-> x
The System is now ready for download. Please start your XMODEM
transfer.
CCCCC
```

- 7 「C」が表示されたら、ハイパーターミナルのメニューの[転送]から[ファイルの送信]を選択します。表示される確認ウィンドウでファイル名でファームウェアファイルを指定し、プロトコルは「1K Xmodem」を指定します。

- 8 ファイル転送が完了すると次のようなメッセージが表示されたのち、自動的に AT-WDM03 が再起動されます。

```
XMODEM transfer has successfully completed.  
  
Now writing Boot Program. This will take a few seconds.  
The system will automatically reset after this.  
Please wait...
```

- 9 ハイパーターミナルの [通信] メニューから [切断] を選択し、[ファイル] - [プロパティ] の [接続の設定] タブを選択し、[モデムの構成] ボタンをクリックして速度を初期値の 9600bps (WDM03 の起動時設定ファイルが指定されている場合はその値) に指定します。[適用] ボタンをクリックし、[OK] をクリックして [通信] メニューの [電話] をクリックします。



ログイン後、SHOW SYSTEM コマンドでファームウェアバージョンを確認できます。

ヒント

2.8 基本の設定と操作

システム名を設定する

システム名 (MIB II オブジェクト sysName) を設定すると、複数のシステムを管理する場合に、各システムの識別がしやすくなり便利です。また、設定されたシステム名はプロンプトに表示されるようになります。

使用コマンド

```
SET SYSTEM [NAME=system-name]
SHOW SYSTEM
```

パラメーター

NAME: システム名を、20 文字までの半角英数字とシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [¥] を除く ASCII 記号で入力する。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲んで指定します。消去する場合は Name パラメーターに値を指定しないか、「"」を指定します。

- 1 SET SYSTEM コマンドを実行します。ここでは、システム名に「Gotanda」を設定すると仮定します。

```
Manager > set system name=Gotanda 
Operation successful.
Manager Gotanda>
```


- 2 設定したシステム名がプロンプトに表示されます。設定内容は SHOW SYSTEM コマンドでも確認できます。

```
Manager Gotanda> show system 

WDM System Status                               Date 2004-03-15 Time 11:25:38
Unit No.  Board      Bay      Board Name   Serial number
-----
0         Local      -        WD1002      XXXXXXXXXX
0         Remote    1        AT-G2LA     XXXXXXXXXX
0         Management 2       AT-WDM03   XXXXXXXXXX
0         PS        3        AT-WD2RPS  XXXXXXXXXX
-----
Memory - DRAM : 16384 KB  FLASH : 1536 KB  MAC : 00-00-F4-00-00-00
-----
SysDescription : WDM03 Ver 1.2.0 B02
SysContact    :
SysLocation   :
SysName       : Gotanda
SysUpTime    : 17811(00:02:58)
Release Version : Ver 1.2.0
Release built  : B02 (Aug 20 2004 at 09:37:21)

Unit No.0
Flash PROM : Good  PS1 : Normal  Local Module  Remote Module
RAM        : Good  PS2 : -      2.5V : Normal  3.3V : Normal
NIC        : Good  Fan1 : Normal  3.3V : Normal  Temp : Normal
UART       : Good  Fan2 : -      5V   : Normal
                               Temp : Normal

FPGA                          : Good
CDR(Channel1)                 : Good
CDR(Channel2)                 : Good
HW Monitor(Local module)      : Good
HW Monitor(Remote module)     : Good

Configuration
Boot configuration file : Not set
Current configuration    : None
```

2.8 基本の設定と操作

SNMP による管理のための設定をする

本製品の SNMP 機能を有効 (Enabled) に設定した場合、IP アドレスとサブネットマスクを設定すれば、SNMP マネージャーによる管理・設定が可能です。

以下の説明は、次のような仮定で行います。

- 認証トラップの発行：有効
- コミュニティー名：viewers
- コミュニティー「viewers」のアクセス権：読み出しのみ (read-only)
- ネットワーク管理ステーション・トラップホストの IP アドレス：192.168.11.5
- コミュニティー「viewers」のトラップの送信：有効

使用コマンド

```
ENABLE SNMP
CREATE SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}]
[TRAPHOST=ipadd] [MANAGER=ipadd]
[OPEN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
[TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|WDM03HWLINKTEST|
WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|WDM03MISSINGLINKDOWN|
WDM03MISSINGLINKUP|WDM03MODULEINSTALLED|
WDM03MODULEREMOVED|WDM03PORTDISABLE|
WDM03PORTENABLE|WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|WDM03TEMPRECOVER|
WDM03TEMPWARNING|WDM03UNITSTACKED|
WDM03UNITUNSTACKED|WDM03VOLTAGERECOVER|
WDM03VOLTAGEWARNING|ALL|NONE}]
ENABLE SNMP COMMUNITY=community
ENABLE SNMP TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|
WDM03HWLINKTEST|WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|
WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|
WDM03MISSINGLINKDOWN|WDM03MISSINGLINKUP|
WDM03MODULEINSTALLED|WDM03MODULEREMOVED|
WDM03PORTDISABLE|WDM03PORTENABLE|
WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|
WDM03TEMPRECOVER|WDM03TEMPWARNING|
WDM03UNITSTACKED|WDM03UNITUNSTACKED|
WDM03VOLTAGERECOVER|WDM03VOLTAGEWARNING|ALL}
ENABLE SNMP COMMUNITY=community TRAP
SHOW SNMP COMMUNITY[={community|ALL}]
```

パラメーター

COMMUNITY:	SNMP コミュニティー名。1 ～ 20 文字の半角英数記号 ([-] [_] [.] [(] [)]) のみ) で入力します。コミュニティー名は表示上は大文字・小文字を区別しますが、実行時には区別しません。
ACCESS:	コミュニティーのアクセス権。コミュニティーのアクセス権を指定します。READ は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可します。デフォルトは READ です。
TRAPHOST:	SNMP トラップの送信先ホストの IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 の半角数字を入力します。コミュニティーには 4 つのトラップホストを指定できますが、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドでは 1 つしか指定できません。複数のトラップホストを使う場合は、コミュニティー作成後に ADD SNMP COMMUNITY コマンドで追加してください。
MANAGER:	SNMP オペレーションを許可するネットワーク管理ステーションの IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0 ～ 255 の半角数字を入力します。本製品は MANAGER に登録されていないホストからの SNMP リクエストには応答しません。ただし、OPEN パラメーターで ON を指定した場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答します。トラップホスト同様、複数指定する場合はコミュニティー作成後に ADD SNMP COMMUNITY で追加します。
OPEN:	SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうか。OFF (NO/FALSE) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限することを示します。ON (YES/TRUE) を指定すると、すべての SNMP リクエストを受け入れます。デフォルトは NO です。
TRAP:	SNMP トラップの種類。複数指定する場合は [,] で区切ります。デフォルトは ALL です。

- 1 SNMP エージェントを有効にします。

```
Manager > enable snmp 
```

- 2 CREATE SNMP COMMUNITY コマンドで、SNMP コミュニティーを作成します。ここでは、読み出し専用のコミュニティー「viewers」を作成します。また、認証トラップをオンにして、不正な SNMP アクセスに対してトラップを発生するよう設定します。

```
Manager > create snmp community=viewers access=read  
traphost=192.168.11.5 manager=192.168.11.5 trap=authentication 
```

2.8 基本の設定と操作

- 3 ENABLE SNMP COMMUNITY コマンドで、コミュニティー「viewers」を有効にします。

```
Manager > enable snmp community=viewers Enter
```

- 4 ENABLE SNMP TRAP コマンドで、認証（AUTHENTICATION）トラップの生成を有効にします。

```
Manager > enable snmp trap=authentication Enter
```

- 5 ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP コマンドで、トラップホストに対するトラップの送信を有効にします。

```
Manager > enable snmp community=viewers trap Enter
```

6 SHOW SNMP COMMUNITY コマンドで、SNMP モジュールの情報を表示します。

```
Manager > show snmp community=viewers 

SNMP community information:
-----
Name ..... viewers
Access ..... read-only
Status ..... Enabled
Trap Status ..... Enabled
Open Access ..... No
Traps ..... AUTHENTICATION
Manager ..... 192.168.11.5
Trap Host ..... 192.168.11.5
-----
```

Name	コミュニティ名
Access	アクセス権。read-only (読み出しのみ) /read-write (読み書き可能)
Status	コミュニティの状態です。Enabled または Disabled
Trap Status	トラップ生成の有効・無効です。Enabled または Disabled
Open Access	ネットワーク管理ステーションからのアクセスです。Yes (すべてのホストからのアクセスを許可) /No (指定したネットワーク管理ステーションからのアクセスのみ許可)
Traps	生成されるトラップの種類
Manager	本コミュニティ名でのアクセスを許可されたネットワーク管理ステーションの IP アドレス
Trap Host	本コミュニティにおける SNMP トラップの送信先ホストの IP アドレス

7 設定を有効にするために、設定を保存後に本製品を再起動します。

```
Manager > create config=test01.cfg 

Operation successful.

Manager > restart reboot 

Do restart system now? (Y/N):Y
```

 43 ページ「設定を保存する」

2.9 リモートとの接続をテストする

リンクテストを実行する

WD1001/WD1002のリモートポートは、自分側のリモートポートから、それに対応する対向側のリモートポートまでが接続され、通信可能な状態にある場合に、Online となります。

リンクテスト機能は、自分側の WD 1001/WD 1002 のローカルポートに GBIC が装着されていないときや、GBIC から接続機器へのリンクが確立されていないときでも、自分側と対向側の WD 1001/WD 1002 のリモートポートの接続を確認することができる機能です。

リンクテスト機能を実行・停止するには、リモートポートモジュール前面の LINK TEST スイッチを使用するほかに、ENABLE/DISABLE LINKTEST CHANNEL コマンドを使用できます。

例えば、チャンネル 1 (ユニット 0) のリンクテスト機能をコマンドから実行する場合は、次のようにします。

```
Manager > enable linktest channel=1 unit=0 
```

リンクテスト機能の結果は、SHOW WDM PORT コマンド、または WD1001/WD1002 本体のリモートポート LED の状態から確認することができます。

例えば、自分側のユニット 0 のテスト結果をコマンドから確認する場合は、次のようにします。

```
Manager > show wdm port=3 unit=0 
```

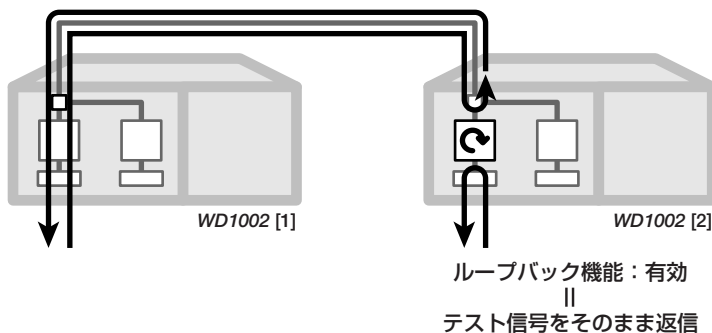
表示される Link Test Received Status またはリモートポート LED から、以下のように接続状態を確認します。

Link Test Received Status	リモートポート LED	対向側リモートポートとの接続状態
Received	TX: 点滅 RX: 点滅	正しく接続されています。
Not Received	TX: 点滅 RX: 消灯	接続されていません。

ループバックテストを実行する

ループバックテストを実行することで、WD1001/WD1002 同士のリモートポート間、または多段接続した WD1001/WD1002 同士のローカルポート間の接続試験を行うことができます。

ENABLE LOOPBACK CHANNEL コマンドを実行することで、チャンネルに対してループバック機能が有効になり、チャンネルのリモートポート、ローカルポートそれぞれの入力信号をそのまま返信する、ループバックモードとなります。



ループバック信号は、ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT コマンドにより、WD1001/WD1002 の内部で生成することが可能で、リモートポートの対向、またはローカルポートの GBIC 経由で接続された WD1001/WD1002 に対し、ループバックテスト信号を送出することができます。これによって、リモートやローカルの接続、および接続先の WD1001/WD1002 の動作を試験することが可能です。

- 1 ネットワークのコンピューターから対向側の WD1001/WD1002 に装着された AT-WDM03 に対して、Telnet を介してログインします。ここでは、対向側の AT-WDM03 の IP アドレスには「172.16.2.1」が割り当てられているものとします。

```
telnet 172.16.2.1 [Enter]
```

- 2 対向側の WD1001/WD1002 のリモートポートに対して ENABLE LOOPBACK コマンドを実行して、ループバック機能を有効にします。以下の例は、ループバック機能をリモートポートのチャンネル 1 (ユニット 0) に対して有効にする場合と仮定します。

```
Manager > enable loopback channel=1 unit=0 [Enter]
```



注意 ループバック機能を有効にした場合、該当するリモートポートのチャンネルの通信は遮断されます。特に、リモートの WD1001/WD1002 を管理する経路として WD1001/WD1002 自身を使用している場合は、通信に用いているチャンネルを遮断しないようにしてください。

2.9 リモートとの接続をテストする

- 3 自分側のAT-WDM03にログインし、ACTIVATE LOOPBACKTEST コマンドを実行し、ループバック信号を送出します。

```
Manager > activate loopbacktest port=3 channel=1 unit=0 
```

```
WDM Loopback Test Result
```

Unit	Port	State	Last Result	Current Test Count Number	Current Test Result (%OK)
0	1	Complete	Failed	1	Failed (0.0)
0	2	Complete	Failed	1	Failed (0.0)
0	3(1)	No Test	-	-	(-)
0	3(2)	Complete	Failed	1	Failed (0.0)
1	1	Complete	Failed	-	(-)
1	2	Complete	Good	-	(-)
1	3(1)	No Test	-	-	(-)
1	3(2)	No Test	-	-	(-)

表示される情報は、次のとおりです。

Unit: ユニット番号を表示します。
Port: ポート番号を表示します。
State: ループバックテストを実行済みの場合は Complete、まだ実施していない場合は No Test を表示します。
Last Result: 前回実行されたループバックテストの結果を Good/Failed で表示します。
Current Test Count Number: 今回実行されたテスト回数を表示します。
Current Result: ループバックテストの結果を Good/Failed で表示します。ループバックされないテストパケットがあった場合や、リンクが確認できない場合は Failed となります。
test(%OK): ループバックされたパケットの割合をパーセンテージで表示します。

- 4 対向側の WD1001/WD1002 のリモートポートに対して DISABLE LOOPBACK CHANNEL コマンドを実行して、ループバック機能を無効にします。

```
Manager > disable loopback channel=1 unit=0 
```

ミッシングリンク機能

ミッシングリンク機能とは、WD1001/WD1002 のリモートまたはローカルのリンクに障害が発生したとき、自動的にローカルポートのリンクを切断し、接続機器に障害発生を素早く伝達する機能です。この障害を検知した接続機器は、リンクを冗長回線へと切り替えることで、障害の影響を最小限に抑えることができます。

ミッシングリンク機能の有効、無効の設定は ENABLE/DISABLE MISSINGLINK PORT コマンドで行います。

 94 ページ [ENABLE MISSINGLINK PORT]

 90 ページ [DISABLE MISSINGLINK PORT]

3

コマンドリファレンス

この章では、コマンドラインインターフェースで使用するコマンドについて説明しています。

3.1 アクセスフィルタ

ADD ACCESS FILTER

機能

アクセスフィルタグループへエントリーを追加します。システム全体で 512 個まで追加可能です。

変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

```
ADD ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL}
                IPADDRESS=ipadd MASK=mask ACTION={PASS|DISCARD}
```

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

mask: マスクパターンを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名

IPADDRESS: フィルタリング対象の IP アドレスを指定します。

MASK: マスクパターンを指定します。

ACTION: パケットがフィルタの条件に一致したときのアクションを指定します。(PASS は許可、DISCARD は破棄)

入力・出力・画面例

```
Manager > add access filter=telnet ipaddress=192.168.1.2 mask=255.255.255.
255 action=discard 

Operation successful.
```

例

TELNET グループに、IP アドレス (192.168.1.2) からのアクセスを拒否するエントリーを追加する

```
ADD ACCESS FILTER=TELNET IPADDRESS=192.168.1.2 MASK=255.255.
255.255 ACTION=DISCARD
```

DELETE ACCESS FILTER ENTRY

機能

アクセスフィルターグループのエントリーを削除します。

変更は（CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し）、再起動したあと適用されます。

書式

```
DELETE ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL}  
ENTRY=num
```

num: エントリー番号

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名

ENTRY: 対象となるアクセスフィルターのエントリー番号

入力・出力・画面例

```
Manager > delete access filter=telnet entry=1   
  
Operation successful.
```

例

TELNET グループのエントリー 1 を削除する

```
DELETE ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1
```

3.1 アクセスフィルター

DISABLE ACCESS FILTER

機能

本システムへのアクセスフィルター機能を無効にします。デフォルトは無効です。
変更は（CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し）、再起動したあと適用されます。

書式

```
DISABLE ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL|ALL}
```

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名を指定します。ALL を指定するとすべてが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable access filter=telnet   
Operation successful.
```

例

TFTP サービスのアクセスフィルターを無効にする

```
DISABLE ACCESS FILTER=TFTP
```

ENABLE ACCESS FILTER

機能

本システムへのアクセスフィルター機能を有効にします。デフォルトは無効です。
変更は（CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し）、再起動したあと適用されます。

書式

```
ENABLE ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL|ALL}
```

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名

入力・出力・画面例

```
Manager > enable access filter   
Operation successful.
```

例

SNMP サービスのアクセスフィルターを有効にする

```
ENABLE ACCESS FILTER=SNMP
```

3.1 アクセスフィルター

SET ACCESS FILTER

機能

アクセスフィルターグループの設定を変更します。

変更は（CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し）、再起動したあと適用されます。

書式

```
SET ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL|ALL}  
DEFAULT={PASS|DISCARD}
```

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名を指定します。GLOBAL はここにリストされていないサービスを含む全サービスを表します。ALL を指定すると、SNMP、FTP、TELNET、TFTP、ICMP、GLOBAL すべてを指定することになります。

DEFAULT: 対応するフィルターグループのデフォルト処理を指定します（PASS は許可、DISCARD は破棄）。

入力・出力・画面例

```
Manager > set access filter=snmp default=discard 
```

```
Operation successful.
```

例

SNMP グループの IP アドレスを、デフォルトですべて破棄する設定に変更する

```
SET ACCESS FILTER=SNMP DEFAULT=DISCARD
```


SET ACCESS FILTER ENTRY

機能

アクセスフィルターグループのエントリーを変更します。

変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

```
SET ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|TFTP|ICMP|GLOBAL} ENTRY=num  
[IPADDRESS=ipadd] [MASK=mask]  
[ACTION={PASS|DISCARD}]
```

num: エントリー番号を指定します。
ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。
mask: マスクパターンを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名
ENTRY: 対象となるアクセスフィルターのエントリー番号
IPADDRESS: フィルタリング対象の IP アドレス
MASK: マスクパターン
ACTION: パケットがフィルターの条件に一致したときのアクション

入力・出力・画面例

```
Manager > set access filter=telnet entry=1 ipaddress=192.168.1.2 mask=255.  
255.255.255 action=pass   
  
Operation successful.
```

例

TELNET グループのエントリー 1 を変更する

```
SET ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1 IPADDRESS=192.168.1.2 MASK=  
255.255.255.255 ACTION=PASS
```

3.1 アクセスフィルター

SHOW ACCESS FILTER

機能

アクセスフィルターグループの設定内容を表示します。

書式

```
SHOW ACCESS FILTER [= {SNMP | FTP | TELNET | TFTP | ICMP | GLOBAL | ALL}]
```

パラメーター

FILTER: 各サービスに対応するグループ名を指定します。GLOBAL はここにリストされていないサービスを含む全サービスを表します。ALL を指定すると、SNMP、FTP、TELNET、TFTP、ICMP、GLOBAL すべてを指定することになります。

入力・出力・画面例

```
Manager > show access filter 

Filter  Default  Status
-----
SNMP    Pass     Enabled
FTP     Discard  Enabled
TELNET  Pass     Disabled
TFTP    Pass     Enabled
ICMP    Discard  Enabled
GLOBAL  Pass     Enabled
-----

Manager > show access filter=telnet 

TELNET:
Access Filtering ..... Enabled
Port ..... 23
Default..... Discard

Entry   IP           MASK           ACTION
-----
1       192.168.1.2  255.255.255.0  PASS
2       192.168.8.5  255.255.255.0  PASS
3       192.168.40.5 255.255.0.0    PASS
-----
```

項目	説明
Filter	フィルターグループ名
Default	対応するフィルターグループのデフォルト処理。許可 (Pass) または破棄 (Discard)
Status	有効 (Enabled) または無効 (Disabled)

FILTER オプション指定時

項目	説明
Access Filtering	アクセスフィルタ機能の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Port	対象となる接続ポート番号
Default	対応するフィルターグループのデフォルト処理。許可 (Pass) または破棄 (Discard)

項目	説明
Entry	エントリー番号
IP	フィルタリング対象の IP アドレス
MASK	マスクパターン
ACTION	パケットがフィルターの条件に一致したときのアクション。許可 (Pass) または破棄 (Discards)
PORT	対象となるポート番号 (数字) またはすべてのスイッチポート (ALL)

例

FILTER グループを一覧表示する

SHOW ACCESS FILTER

TELNET グループの設定内容を表示

SHOW ACCESS FILTER=TELNET

3.2 コンフィグレーション

CREATE CONFIG

機能

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）をスクリプトファイルに保存します。

書式

CREATE CONFIG=filename

filename: ファイル名を（ピリオドと拡張子を含み）15文字までで指定します。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [()]、終了丸かっこ [)] が利用可能です。拡張子は「.cfg」か「.scp」です。大文字・小文字の属性は無視されますが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

パラメーター

CONFIG: 設定ファイル名を指定します。指定したファイルがすでに存在していた場合は上書きされず、存在しない場合は新規作成されます。

入力・出力・画面例

```
Manager > create config=sample.cfg 
```

```
Operation successful.
```

例

現在の設定内容をスクリプトファイルに保存する

```
CREATE CONFIG=sample.cfg
```

SET CONFIG

機能

起動時に読み込まれるデフォルトの設定ファイルを指定します。

書式

SET CONFIG=filename

filename: 設定ファイル名 (.cfg または .scp)

パラメーター

CONFIG: 設定スクリプトファイル (.cfg または .scp)

入力・出力・画面例

```
Manager > set config=sample.cfg   
  
Operation successful.
```

例

起動時設定ファイルを指定する

SET CONFIG=sample.cfg

3.2 コンフィグレーション

SHOW CONFIG

機能

システムに設定されている設定内容を一覧表示します。また、DYNAMIC オプションを指定した場合は、現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を設定ファイルと同じ形式で表示します。ALL オプションを指定した場合は、初期設定も含めてすべて表示します。

書式

```
SHOW CONFIG [{DYNAMIC[=module-name] | ALL[=module-name]}]
```

module-name: 機能名を指定します。SYSTEM、LOAD、CONSOLE、INTERFACE、TEST、IP、ACCESS FILTER、SNMP、TELNET、FTP、TFTP、NTP、LOG のいずれかを指定します。

パラメーター

DYNAMIC: デフォルト値と異なる設定内容のみを表示します。指定しない場合、起動時設定ファイル名が表示されます。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG DYNAMIC=IP）は、該当モジュールの設定だけを表示します。

ALL: 初期設定を含めたすべての設定内容を表示します。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG ALL=IP）は、該当モジュールの設定だけをすべて表示します。

入力・出力・画面例

```
Manager > show config 

Boot configuration file: system2.cfg (exists)
Current configuration: system.cfg

Manager > show config dynamic 

#
# SYSTEM configuration
#
SET SYSTEM NAME="WDM03"

#
# IP configuration
#
ADD IP INTERFACE=default IPADDRESS=192.168.1.5 MASK=255.255.255.0
#
```

項目	説明
Boot configuration file	次回起動時に読み込まれる設定ファイル名。ファイルが存在する (exist) が存在しないか (doesn't exist) も表示される
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。「None」の場合には、設定ファイルを読み込んでいない

例

現在のデフォルト値と異なる内容を参照する

```
SHOW CONFIG DYNAMIC
```

起動時設定ファイル名を表示する

SHOW CONFIG

3.3 インターフェース

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートでオートネゴシエーションプロセスを強制起動し、接続先ポートと通信モード（通信速度、Full/Half Duplex）のネゴシエーションを行うようにします。

書式

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > activate eth autonegotiate   
  
Operation successful.
```

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートにオートネゴシエーションを行わせる

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE

DISABLE ETH

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートを無効にします。デフォルトは有効です。

書式

DISABLE ETH

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable eth   
  
Operation successful.
```

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートを無効にする

DISABLE ETH

3.3 インターフェース

DISABLE MISSINGLINK PORT

機能

ローカルポートごとのミッシングリンク機能を無効にします。デフォルトは有効です。

書式

```
DISABLE MISSINGLINK PORT={port-list | ALL}  
[UNIT={unit-list | ALL}]
```

port-list: ローカルポート番号（1～2）
unit-list: 0～3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。
WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable missinglink port=all unit=all [Enter]  
  
Operation successful.
```

例

すべてのローカルポートのミッシングリンク機能を無効にする

```
DISABLE MISSINGLINK PORT=ALL UNIT=ALL
```

DISABLE OFC CHANNEL

機能

リモートポートのチャンネルごとの OFC (Open Fiber Control) 機能を無効にします。デフォルトは有効です。

このコマンドによって、OFC 機能（通信中に光ファイバーが外れたときの光信号出力の抑制）を無効にできます。

書式

```
DISABLE OFC CHANNEL={channel-list | ALL} [UNIT={unit-list | ALL}]
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ofc channel=1 unit=0 
```

```
Operation successful.
```

例

チャンネル 1（ユニット 0）の OFC 機能を無効にする

```
DISABLE OFC CHANNEL=1 UNIT=0
```

3.3 インターフェース

DISABLE WDM PORT

機能

ローカルポート・リモートポートを無効にします。デフォルトは有効です。

書式

```
DISABLE WDM PORT={port-list|ALL} [CHANNEL={channel-list|ALL}]  
[UNIT={unit-list|ALL}]
```

port-list: ローカルポート番号（1～2）またはリモートポート番号（3）を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。

channel-list: 1～2 のチャンネル番号を指定します。PORT パラメータにリモートポート（3）を指定した場合のみ指定します。

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable wdm port=1 unit=all 
```

```
Operation successful.
```

例

ローカルポート（全ユニット）をすべて無効にする

```
DISABLE WDM PORT=1,2 UNIT=ALL
```

備考・注意事項

有効に設定されているポートを無効に設定した場合、ポートはリンクダウンとなり、TRAP およびログが出力されます。

ENABLE ETH

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートを有効にします。デフォルトは有効です。

書式

ENABLE ETH

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable eth   
  
Operation successful.
```

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートを有効にする

ENABLE ETH

3.3 インターフェース

ENABLE MISSINGLINK PORT

機能

ポート毎のミッシングリンク機能を有効にします。デフォルトは有効です。

書式

```
ENABLE MISSINGLINK PORT={port-list | ALL}  
[UNIT={unit-list | ALL}]
```

port-list: ローカルポート番号 (1~2)
unit-list: 0~3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します (省略時はユニット0)。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable missinglink port=1 unit=0 [Enter]  
Operation successful.
```

例

ポート1 (ユニット0) のミッシングリンク機能を有効にする

```
ENABLE MISSINGLINK PORT=1 UNIT=0
```

ENABLE OFC CHANNEL

機能

リモートポートのチャンネルごとの OFC (Open Fiber Control) 機能を有効にします。デフォルトは有効です。

OFC 機能を有効に設定すると、通信中に光ファイバーが外れたときに光信号の出力が抑制されます。

書式

```
ENABLE OFC CHANNEL={channel-list|ALL} [UNIT={unit-list|ALL}]
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します (省略時はユニット 0)。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ofc channel=1 unit=0 
```

```
Operation successful.
```

例

チャンネル 1 (ユニット 0) の OFC 機能を有効にする

```
ENABLE OFC CHANNEL=1 UNIT=0
```

3.3 インターフェース

ENABLE WDM PORT

機能

ローカルポート・リモートポートを有効にします。デフォルトは有効です。

書式

```
ENABLE WDM PORT={port-list|ALL} [CHANNEL={channel-list|ALL}]  
[UNIT={unit-list|ALL}]
```

port-list: ローカルポート番号（1～2）またはリモートポート番号（3）を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。

channel-list: 1～2 のチャンネル番号を指定します。PORT パラメータにリモートポート（3）を指定した場合のみ指定します。

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable wdm port=1 unit=0 
```

```
Operation successful.
```

例

ポート1（ユニット0）を有効にする

```
ENABLE WDM PORT=1 UNIT=0
```

備考・注意事項

無効に設定されているポートを有効に設定した場合、ポートはリンクアップとなり、TRAP およびログが出力されます。

RESET ETH

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートをリセットします。

リセットを実行すると、オートネゴシエーションプロセスを開始し、ポートの統計カウンターをクリアします。

書式

RESET ETH [COUNTER]

パラメーター

COUNTER: 統計カウンターだけをリセットしたいときに指定します。
 ポートはリセットされません。

入力・出力・画面例

```
Manager > reset eth Enter  
  
Operation successful.
```

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートをリセットする

RESET ETH

3.3 インターフェース

RESET WDM CHANNEL COUNTER

機能

リモートポートのRLL(Run Length Limited) 符号化エラーの統計情報をリセットします。

書式

```
RESET WDM CHANNEL={channel-list|ALL}  
                    [UNIT={unit-list|ALL}] COUNTER
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号
unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > reset wdm channel=all unit=0 counter   
  
Operation successful.
```

例

ユニット 0 (全チャンネル) の RLL 符号化エラーの統計情報をリセットする

```
RESET WDM CHANNEL=ALL UNIT=0 COUNTER
```

RESET WDM PORT

機能

ローカルポート・リモートポートをリセットします。

リモートポート指定時は RLL (Run Length Limited) 符号化エラーの統計情報もリセットします。

書式

```
RESET WDM PORT={port-list|ALL} [CHANNEL={channel-list|ALL}]  
[UNIT={unit-list|ALL}]
```

- port-list: ローカルポート番号 (1~2) またはリモートポート番号 (3) を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。
- channel-list: 1~2 のチャンネル番号を指定します。PORT パラメータにリモートポート (3) を指定した場合のみ指定します。
- unit-list: 0~3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します (省略時はユニット 0)。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

- PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
- CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
- UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > reset wdm port=1-2 unit=0   
  
Operation successful.
```

例

ユニット 0 のローカルポートをリセットする

```
RESET WDM PORT=1-2 UNIT=0
```

ユニット 0 のローカルポート・リモートポートをリセットする

```
RESET WDM PORT=ALL CHANNEL=ALL UNIT=0
```

3.3 インターフェース

SET ETH

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートの通信モード・ポート名の設定を行います。

書式

```
SET ETH [NAME=string]
        [SPEED={AUTONEGOTIATE | 10MHALF | 10MFULL | 100MHALF
        | 100MFULL}]
```

string: 20 文字までの半角英数字とシャープ (#)、パーセント (%)、クエスチョン (?)、円マーク (¥) を除く半角文字列。空白を含む場合はダブルクォート (") で囲み指定します。消去する場合は二つのダブルクォートを指定するか、無指定にします。

パラメーター

NAME: ポート名称。ここで指定した文字列は SHOW ETH STATE コマンドで表示されます。

SPEED: 10BASE-T/100BASE-TXポートの通信速度と通信モードを設定します。デフォルトはAUTONEGOTIATEです。

入力・出力・画面例

```
Manager > set eth speed=100mhalf 
Operation successful.
```

例

10BASE-T/100BASE-TXポートの通信モードを 100Mbps Half Duplexに固定する

```
SET ETH SPEED=100MHALF
```

SET WDM PORT NAME

機能

ポート名の設定を行います。

書式

```
SET WDM PORT={port-list|ALL} [CHANNEL={channel-list|ALL}]  
[UNIT={unit-list|ALL}] NAME=string
```

port-list: ローカルポート番号（1～2）またはリモートポート番号（3）を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。

channel-list: 1～2 のチャンネル番号を指定します。PORT パラメーターにリモートポート（3）を指定した場合のみ指定します。

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

string: 20 文字までの半角英数字とシャープ（#）、パーセント（%）、クエスチョン（?）、円マーク（¥）を除く半角文字列。空白を含む場合はダブルクォート（"）で囲み指定します。消去する場合は二つのダブルクォートを指定するか、無指定にします。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

NAME: ポート名称。ここで指定した文字列は SHOW WDM PORT コマンドなどで表示されます。

入力・出力・画面例

```
Manager > set wdm port=1 unit=0 name="port1" Enter  
  
Operation successful.
```

例

ポート1（ユニット0）にポート名を設定する

```
SET WDM PORT=1 UNIT=0 NAME="port1"
```

ポート1（ユニット0）のポート名を消去する

```
SET WDM PORT=1 UNIT=0 NAME=""
```

3.3 インターフェース

SHOW ETH COUNTER

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートの統計カウンターを表示します。

書式

```
SHOW ETH COUNTER
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show eth counter   
  
Ethernet Port Counters  
-----  
Receive                Transmit  
packets :      123      packet :      0  
errors   :          0      errors  :      0  
-----
```

項目	説明
Ethernet Port Counters	本体宛通信に関するカウンターが表示される
Receive サブセクション	受信パケットに関する統計が表示される
packets	プロトコルスタックが受信したパケット数
errors	受信時プロトコルスタック内部で発生したエラーの回数
Transmit サブセクション	送信パケットに関する統計が表示される
packets	プロトコルスタックが送信したパケット数
errors	送信時プロトコルスタック内部で発生したエラーの回数

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートの統計カウンターを表示する

```
SHOW ETH COUNTER
```

SHOW ETH MACADDRESS

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートの MAC アドレスを表示します。

書式

SHOW ETH MACADDRESS

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show eth macaddress 
```

```
MAC Address for Ethernet Port
```

```
-----  
12-34-56-00-00-00  
-----
```

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートの MAC アドレスを表示する

SHOW ETH MACADDRESS

3.3 インターフェース

SHOW ETH STATE

機能

10BASE-T/100BASE-TX ポートの設定内容と状態を表示します。

書式

```
SHOW ETH STATE
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show eth state 

Ethernet Port Information
-----
Port name ..... Management
Description ..... Management
Status ..... Enabled
Link State ..... Up
UpTime ..... 04:06:53
Port Media Type ..... ISO8802-3 CSMACD
Configured speed/duplex ... Autonegotiate
Actual speed/duplex ..... 100 Mbps, full duplex
-----
```

項目	説明
Port name	ポート名称を表示
Description	ポートの説明（ポートの種類）を表示
Status	ポートのステータス。Enabled か Disabled
Link state	ポートのリンクステータス。Up か Down
UpTime	ポートがリセット（初期化）されてから現在までの経過時間（xx days, hh:mm:ss の形式）
Port Media Type	MIB-II オブジェクト ifType で定義される物理層インターフェースタイプ
Configured speed/duplex	通信モードの設定値。Autonegotiate、10Mbps、100Mbps/half duplex、full duplex で表示される
Actual speed/duplex	実際の通信モード*（Configured speed/duplex が Autonegotiate のときのみ表示）

例

10BASE-T/100BASE-TX ポートの情報を参照する

```
SHOW ETH STATE
```


SHOW WDM

機能

WDM の全般的情報を表示します。

書式

SHOW WDM

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show wdm 

Wdm Configuration
-----
Switch Address ..... 12-34-56-00-00-00
UpTime ..... 1 day, 07:26:33
Number of Units..... 4
-----
```

項目	説明
Switch Address	MAC アドレス
UpTime	再起動後の経過時間 (時:分:秒の形式)。MIB-II オブジェクト sysUpTime と同じ
Number of Units	接続ユニット数

例

WDM の全般的情報を表示する

SHOW WDM

3.3 インターフェース

SHOW WDM CHANNEL COUNTER

機能

リモートポートのRLL (Run Length Limited) 符号化エラーの統計情報を表示します。

書式

```
SHOW WDM CHANNEL [UNIT={unit-list|ALL}] COUNTER
```

unit-list: 0～3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > show wdm channel unit=0 counter 

WDM Channel Counters
-----
Unit 0. RLL Error Counters:
Channel 1.                Channel 2.
Tx      :          0          Tx      :          2
Rx      :          0          Rx      :          0
-----
```

例

ユニット1の統計情報を参照する

```
SHOW WDM CHANNEL UNIT=1
```

備考・注意事項

- 光信号がリンクダウンしたときに RLL 符号化エラーは発生しますが、タイミングによりリンクダウンの検出より前に検出されることがあります。
- ログを利用して RLL 符号化エラーのみを監視するには、SET LOG OUPUT コマンドで SEVIRITY=5 を指定します。

SHOW WDM CHANNEL LEVEL

機能

リモートポートのチャンネルの入出力レベルを表示します。

書式

SHOW WDM CHANNEL [UNIT={unit-list|ALL}] LEVEL

unit-list: 0～3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > show wdm channel unit=0 level 
-----
WDM Channel Output Level
-----
Unit 0. Output Level:
Channel 1.                Channel 2.
Tx      :      0.0 dBm      Tx      :      0.0 dBm
Rx      :      0.0 dBm      Rx      :      0.0 dBm
-----
```

例

ユニット1のチャンネル入出力レベルを表示する

SHOW WDM CHANNEL UNIT=1 LEVEL

3.3 インターフェース

SHOW WDM PORT

機能

ポートの設定内容と状態（実装状態、ポートの Link 状態等）を表示します。

書式

```
SHOW WDM PORT [= {port-list | ALL}] [UNIT= {unit-list | ALL}] [GBIC]
```

port-list: ローカルポート番号（1～2）またはリモートポート番号（3）を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。

unit-list: 0～3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT: 対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。[=] 以下を省略した場合は、すべてのポートを簡易表示します。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。PORT オプションの [=] 以下を省略した場合は `[Tab]` または `[スペース]` キーで補完されませんが、このオプションはスタック接続をしている場合は省略できません。

GBIC: 搭載 GBIC の仕様、ベンダー情報を表示します。ポート 1、2 のみ有効です。

入力・出力・画面例

```

Manager > show wdm port unit=all 
Wdm Port Information
-----
Unit Port Name                Tx/Status Rx    MissingLink LoopBack LinkTest
-----
0    1 GBIC(1000Base-SX) Online  Online  Enabled - -
0    2 GBIC(1000Base-SX) Online  Online  Disabled - -
0    3 OPT(Ch1) Online  Online  - Enabled Enabled
0    3 OPT(Ch2) Online  Online  - Enabled Enabled
-----
1    1 GBIC(1000Base-LX) Online  Online  Enabled - -
1    2 GBIC(1000Base-LX) Disabled Online  Enabled - -
1    3 OPT(Ch1) Online  Online  - Disabled Disabled
1    3 OPT(Ch2) Online  Online  - Disabled Disabled
-----
2    1 GBIC(1000Base-SX) Offline Offline Enabled - -
2    2 GBIC(1000Base-LX) Disabled Offline Disabled - -
2    3 - - - - Enabled Enabled
2    3 - - - - Disabled Disabled
-----
3    1 GBIC(1000Base-LX) Online  Online  Enabled - -
3    2 - - - Disabled - -
3    3 OPT(Ch1) Online  Online  - Enabled Enabled
3    3 OPT(Ch2) Online  Online  - Disabled Disabled
-----

```

項目	説明
UNIT	スタック ID を表示 (AT-WDM03=0, AT-WDM03C=1 ~3)
Port	ポート番号を表示
Name	ポート名称を表示
Tx/Status	ポートの状態又はリンク状態を Online / Offline / Disabled / Fault で表示
Rx	ポートのリンク状態を Online / Offline で表示
MissingLink	ミッシングリンク機能の状態を表示 (Enabled 及び Disabled)
LoopBack	ループバック機能の状態を表示 (Enabled 及び Disabled)
LinkTest	リンクテスト機能の状態を表示 (Enabled 及び Disabled)

3.3 インターフェース

```
Manager > show wdm port=1 unit=0 
-----
Wdm Port Information
-----
Unit No. .... 0
Port ..... 1
Port state ..... Inserted
Description ..... GBIC(1000Base-SX)
Port name ..... AT-G8SX
Status ..... Enabled
Link state
Tx Port ..... Online
Rx Port ..... Online
Missing link ..... Enabled
Loopback test ..... No Test
-----
```

項目	説明
Unit No.	スタック ID を表示 (AT-WDM03=0, AT-WDM03C=1 ~3)
Port	ポート番号を表示
Port State	ポートの実装状態を Inserted / Not inserted で表示
Description	ポートの説明 (ポートの種類) を表示
Port name	ポート名称を表示
Status	ローカルポートの状態を Enabled / Disabled で表示
Link State	ローカルポートのリンク状態を表示 (Tx 及び Rx) Online / Offline で表示
Missing Link	ミッシングリンクの状態を Enabled / Disabled で表示
Loopback test	Loop Back Test の結果を Good / Fault / No Test で表示

```

Manager > show wdm port=1 unit=0 gbic 
Unit: 0. Port: 1.

GBIC Vendor Information.
-----
Vendor Name(OUI)                : AGILENT
Vendor IEEE Company ID          : 000000
Vendor Part Number              : XXXXXXXXXX
Vendor Revision Number          : XXXX
Vendor Serial Number            : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Vendor Date Code                : XXXXXXXXX
Vendor Specific ID              : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

GBIC Information.
-----
Type of Serial Transceiver      : 1 (GBIC)
Connector                       : 1 (Fibre Channel definition of
                               SC connector)
SONET Compliance Codes         : 0 (Unknown)
Gigabit Ethernet Compliance Codes : 2 (100BASE-LX)
Fiber Channel Link Length      : 0 (Unknown)
Fiber Channel Transmitter Type  : 0 (Unknown)
Fiber Channel Media Type       : 0 (Unknown)
Fiber Channel Speed            : 0 (Unknown)
Encoding                       : 1 (8B10B)
Nominal baud rate              : 0D (1.3f GBits/Sec)
9micro-km, Distance            : 0 (Not support)
9micro, Distance               : 64 (10.0 km)
50micro, Distance              : 37 (0.55 km)
60micro, Distance              : 37 (0.55 km)
CU, Distance                   : 0 (Not support)
Transmit Disable               : 1 (Support)
Laser Fault                    : 0 (Not support)
Signal Detect(Logical 0)       : 1 (Support)
Signal Detect(Logical 1)       : 0 (Not support)
Upper Baud Rate Margin         : 00 (Not specified)
Lower Baud Rate Margin         : 00 (Not specified)

```

項目	説明
Unit No.	スタックIDを表示 (AT-WDM03=0, AT-WDM03C=1~3)
Port	ポート番号を表示
GBIC Vendor Information	搭載GBICのベンダー情報を表示 <input type="radio"/> Vendor Name(OUI) <input type="radio"/> Vendor IEEE Company ID <input type="radio"/> Vendor Part Number <input type="radio"/> Vendor Revision Number <input type="radio"/> Vendor Serial Number <input type="radio"/> Vendor Date Code <input type="radio"/> Vendor Specific ID

3.3 インターフェース

項目	説明
GBIC Information	搭載 GBIC の詳細情報を表示 <input type="radio"/> Type of Serial Transceiver <input type="radio"/> Connector <input type="radio"/> SONET Compliance Codes <input type="radio"/> Gigabit Ethernet Compliance Codes <input type="radio"/> Fiber Channel Link Length <input type="radio"/> Fiber Channel Transmitter Type <input type="radio"/> Fiber Channel Media Type <input type="radio"/> Fiber Channel Speed <input type="radio"/> Encoding <input type="radio"/> Nominal baud rate <input type="radio"/> 9micro-km, Distance <input type="radio"/> 9micro, Distance <input type="radio"/> 50micro, Distance <input type="radio"/> 60micro, Distance <input type="radio"/> CU, Distance <input type="radio"/> Transmit Disable <input type="radio"/> Laser Fault <input type="radio"/> Signal Detect(Logical 0) <input type="radio"/> Signal Detect(Logical 1) <input type="radio"/> Upper baud rate margin <input type="radio"/> Lower baud rate margin

```

Manager > show wdm port=3 unit=1 

WDM Port Information
-----
Unit No. .... 0
Port ..... 3
Port State ..... Inserted

                                     CH1                CH2
-----
Description ..... OPT(Ch1)                OPT(Ch2)
Channel name..... OPT(Ch1)                OPT(Ch2)
Status ..... Enabled                      Enabled
Link State
Tx Channel ..... Online                   Online
Rx Channel ..... Offline                  Online
OFC ..... Enabled                         Enabled
OFC Received Status ..... Not Received    Not Received
Loopback Mode ..... Disabled              Disabled
Loopback Test ..... No Test               No Test
Link Test ..... Disabled                  Disabled
Link Test Received Status ... Not Received Not Received
-----

```

項目	説明
Unit No.	スタック ID を表示 (AT-WDM03=0, AT-WDM03C=1 ~3)
Port	ポート番号を表示
Port state	ポートの実装状態を Inserted / Not inserted で表示

項目	説明
Description	ポートの説明（ポートの種類）を表示
Channel name	ポート名称を表示
Status	ローカルポートの状態を Enabled / Disabled で表示
Link state	ローカルポートのリンク状態を表示（Tx 及び Rx） Online / Offline で表示
OFC	OFC 機能の状態を Enabled / Disabled で表示
OFC Received Status	OFC データの受信状態を Received / Not Received で表示
Loopback Mode	Loopback 機能の状態を Enabled / Disabled で表示
Loopback test	Loop Back Test の結果を Good / Fault / No Test で表示
Link Test	リンクテスト機能の状態を Enabled / Disabled で表示
Link Test Received Status	リンクテストデータの受信状態を Received / Not Received で表示

例

全ポートの一覧を表示する

```
SHOW WDM PORT UNIT=ALL
```

ユニット 0 のポート一覧を表示する

```
SHOW WDM PORT UNIT=0
```

ポート 1（ユニット 0）の GBIC の情報を表示する

```
SHOW WDM PORT=1 UNIT=0 GBIC
```

ポート 3（ユニット 1）の情報を表示する

```
SHOW WDM PORT=3 UNIT=1
```

3.4 ファイルシステム

COPY

機能

ファイルを複製します。

書式

COPY sourcefilename destinationfilename

sourcefilename: コピー元のファイル名を指定します。ピリオドと拡張子を含み 15 文字までです。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.], 開始丸かっこ [(], 終了丸かっこ [)] が利用できます。

destinationfilename: コピーしたあとのファイルに付けるファイル名を指定します。ピリオドと拡張子を含み 15 文字までです。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.], 開始丸かっこ [(], 終了丸かっこ [)] が利用できます。大文字・小文字の属性は無視されますが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > copy system.cfg system_bak.cfg   
Operation successful.
```

例

system.cfg ファイルを system_bak.cfg という名前で複製する

COPY system.cfg system_bak.cfg

備考・注意事項

スクリプト属性 (.scp または .cfg が拡張子) のファイルをデータ属性 (スクリプト属性以外の属性) のものとしてコピーすることはできません。たとえば、test.cfg を test.txt にコピーしたり、test.txt を test.cfg にコピーすることはできません。属性は、パラメーターなしに SHOW FILE コマンドを実行した際に表示される、Attribute 欄で確認できます。

DELETE FILE

機能

ファイルを削除します。

書式

DELETE FILE=filename

filename: ファイル名またはファイル名パターン（ワイルドカード）を指定します。ワイルドカード（*）は filename の前後のいずれかに、1つのみ使用できます。

パラメーター

FILE: 対象となるファイル名

入力・出力・画面例

```
Manager > delete file=test.txt   
Operation successful.
```

例

test.txt ファイルを削除する

DELETE FILE=test.txt

test で始まるファイルを削除する

DELETE FILE=test*

3.4 ファイルシステム

SHOW FILE

機能

ファイルシステム上のファイル一覧、あるいは指定したテキストファイルの内容を表示します。

書式

SHOW FILE[=*filename*]

filename: ファイル名またはファイル名パターン（ワイルドカード）。ワイルドカード（*）は filename の前後のいずれかに、1 つのみ使用できます。

パラメーター

FILE: 対象となるファイル名を指定します。省略時はファイル一覧を表示します。指定した場合、該当ファイルがテキストファイルならその内容が表示されます。

入力・出力・画面例

```
Manager > show file 

-----
Filename           Device      Size      Created              Attribute
-----
def.cfg             flash      377      2004-03-11 09:03:06  script
memo.txt            flash      128      2004-03-11 11:22:07  data
-----

Manager > show file=memo.txt 

File : memo.txt

1:How to transfer firmware with a TFTP
2:load method=tftp file=wdm03.pkg server=192.168.1.1 firmware
3:
```

例

ファイル名を一覧表示する

SHOW FILE

ファイル内容を表示する

SHOW FILE=memo.txt

拡張子 .cfg の設定ファイル名を一覧表示する

SHOW FILE=* .cfg

test で始まるファイル名を一覧表示する

SHOW FILE=test*

3.5 IP

ADD IP

機能

IP アドレス情報に関する設定を行います。

書式

```
ADD IP IPADDRESS={ipadd|DHCP} [MASK=mask] [GATEWAY=ipadd]
ipadd:          IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。
mask:          サブネットマスクを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。
```

パラメーター

IPADDRESS: システムに割り当てるIPアドレス。DHCPを指定した場合、DHCPサーバーからIP設定情報を取得し自動設定します。DHCPで取得できる情報はIPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ。DHCPを使う場合は、あらかじめENABLE IP DHCP コマンドを実行し、IPアドレスの動的設定を有効にしておく必要があります。また、一度DHCPでIPアドレスを取得するとDELETE IP コマンドを実行しても次回起動時までDHCP オプションを指定することはできません。

MASK: サブネットマスクを設定します。省略時はIPアドレスのクラス標準マスクが用いられます。DHCP を使う場合は自動的に設定されるので指定する必要はありません。

GATEWAY (NEXTHOP) : ゲートウェイアドレスを設定します。ルーターを介して通信を行う場合に設定します。DHCPを使う場合は自動的に設定されるので指定する必要はありません。

入力・出力・画面例

```
Manager > add ip ipaddress=192.168.1.5 mask=255.255.255.0 gateway=192.168.1
.1 
Operation successful.

Manager > add ip ipaddress=dhcp 
Operation successful.
```

例

IP アドレスを設定する

```
ADD IP IPADDRESS=192.168.1.5 MASK=255.255.255.0 GATEWAY=192.
168.1.1
```

DHCP サーバーから IP 設定情報を取得し自動設定する

```
ADD IP IPADDRESS=DHCP
```

3.5 IP

DELETE IP

機能

IP アドレス情報に関する設定の削除を行います。

書式

DELETE IP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > delete ip   
  
Operation successful.
```

例

IP アドレスを削除する

DELETE IP

DISABLE IP DHCP

機能

DHCP による IP アドレスの動的設定機能を無効にします。デフォルトは無効です。
DISABLE IP REMOTEASSIGN コマンドも同義です。

書式

```
DISABLE IP DHCP
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ip dhcp   
  
Operation successful.
```

例

DHCP による IP アドレスの動的設定機能を無効にする

```
DISABLE IP DHCP
```

3.5 IP

ENABLE IP DHCP

機能

DHCP による IP アドレスの動的設定機能を有効にします。デフォルトは無効です。
ENABLE IP REMOTEASSIGN コマンドも同義です。

書式

ENABLE IP DHCP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ip dhcp   
  
Operation successful.
```

例

DHCP による IP アドレスの動的設定機能を有効にする

ENABLE IP DHCP

PING

機能

指定した IP アドレスに対し、PING を実行します。[Ctrl] + [C] で処理を中止できます。

書式

PING ipadd

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > ping 192.168.1.1 [Enter]

Pinging 192.168.1.1 with 64 bytes of data:

Reply 1 from 192.168.1.1: bytes=64 times=114ms
Reply 2 from 192.168.1.1: bytes=64 times=41ms
Reply 3 from 192.168.1.1: bytes=64 times=42ms
Reply 4 from 192.168.1.1: bytes=64 times=42ms
Reply 5 from 192.168.1.1: bytes=64 times=71ms

Ping statistics for 192.168.1.1
    Packets: Sent = 5, Received = 5, Bad = 0, Lost = 0(0% loss)
Approximate round trip times in milliseconds:
    Minimum = 41ms, Maximum = 114ms, Average = 62ms
```

例

他システム (192.168.1.1) に対して Ping テストを行う

PING 192.168.1.1

備考・注意事項

Ping は 5 回実行され終了します。

3.5 IP

SET IP

機能

IP アドレス情報に関する設定を変更します。

書式

```
SET IP [IPADDRESS={ipadd|DHCP}] [MASK=mask] [GATEWAY=ipadd]
```

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

mask: サブネットマスクを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

IPADDRESS: システムに割り当てる IP アドレス。DHCP を指定した場合は、DHCP サーバーから IP 設定情報を取得し自動設定します。DHCP で取得できる情報は IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ。DHCP を使う場合は、あらかじめ ENABLE IP DHCP コマンドを実行し、IP アドレスの動的設定を有効にしておく必要があります。また、一度 DHCP で IP アドレスを取得していると次回起動時まで DHCP オプションを指定することはできません。

MASK: サブネットマスクを設定します。省略時は IP アドレスのクラス標準マスクが用いられる。DHCP を使う場合は自動的に設定されるので指定する必要はありません。

GATEWAY (NEXTHOP): ゲートウェイアドレスを設定します。ルーターを介して通信を行う場合に設定します。DHCP を使う場合は自動的に設定されるので指定する必要はありません。

入力・出力・画面例

```
Manager > set ip ipaddress=192.168.1.5 mask=255.255.255.0 gateway=192.168.1.1 
Operation successful.

Manager > set ip ipaddress=dhcp 
Operation successful.
```

例

IP アドレスを変更する

```
SET IP IPADDRESS=192.168.1.5 MASK=255.255.255.0 GATEWAY=192.168.1.1
```

DHCP サーバーから IP 設定情報を取得し自動設定する

```
SET IP IPADDRESS=DHCP
```

SHOW IP

機能

IP アドレス情報に関する設定内容を表示します。

書式

```
SHOW IP
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show ip 

IP Address Information
-----
Type ..... Static
IP address ..... 192.168.1.5
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... 192.168.1.1
MTU ..... 1500
DHCP Client ..... Disabled
-----
```

項目	説明
Type	ホストの種別。スタティック (Static) またはダイナミック (Dynamic)
IP address	IP アドレス
Subnet mask	サブネットマスク
Gateway address	ゲートウェイアドレス
MTU	最大送信パケットサイズ
DHCP Client	DHCP クライアントの有効 (Enabled) または無効 (Disabled)。無効の場合、ADD IP コマンドや SET IP コマンドで DHCP を指定できません。
DHCP Server	DHCP でアドレスを取得した場合、DHCP サーバーの IP アドレス

例

IP アドレス情報を表示する

```
SHOW IP
```

3.6 アップロード・ダウンロード

DISABLE FTP SERVER

機能

FTP サーバー機能を無効にします。デフォルトは有効です。

書式

DISABLE FTP SERVER

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ftp server   
  
Operation successful.
```

例

FTP サーバー機能を無効にする

DISABLE FTP SERVER

ENABLE FTP SERVER

機能

FTP サーバー機能を有効にします。デフォルトは有効です。

書式

ENABLE FTP SERVER

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ftp server   
  
Operation successful.
```

例

FTP サーバー機能を有効にする

ENABLE FTP SERVER

3.6 アップロード・ダウンロード

LOAD

機能

ファイルを TFTP サーバーから本製品へダウンロードします。TFTP が使用可能です。指定しなかったオプションについては、SET LOADER コマンドで設定したデフォルト値が使用されます。

ダウンロード対象ファイルの拡張子が .cfg が .scp の時にのみ SCRIPT 属性で保存されます。

書式

```
LOAD [METHOD=TFTP] [FILE=filename] [DESTFILE=filename]
      [SERVER=ipadd] [FIRMWARE]
```

filename: ファイル名（ピリオドと拡張子を含み 15文字まで。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [()], 終了丸かっこ [()] が利用可。設定ファイルの場合、拡張子は「.cfg」か「.scp」）。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

METHOD: 転送プロトコル。TFTP を指定します。
FILE: ダウンロード対象ファイル名を指定します。サーバー上のフルパスで指定します。
DESTFILE: ダウンロード後のファイル名を指定します。省略した場合、FILE で指定したファイル名が適用されます。
SERVER: TFTP サーバーの IP アドレスを指定します。
FIRMWARE: ファームウェアをダウンロードする際に指定します。

入力・出力・画面例

```
Manager > load method=tftp file=wdm03.pkg server=192.168.1.1 firmware 
|=====> (458498 Bytes received)
writing to flash memory
|=====|
writing to flash memory
|=====|
writing to flash memory
|=====|
File transfer successfully completed.
```

例

ファームウェアのダウンロードを行う

```
LOAD METHOD=TFTP FILE=wdm03.pkg SERVER=192.168.1.1 FIRMWARE
```

備考・注意事項

- 新しいファームウェアは、本製品の再起動後に適用されます。

SET FTP LISTENPORT

機能

FTP サーバーのリスニングポートを変更します。

書式

```
SET FTP LISTENPORT=2..32767
```

パラメーター

LISTENPORT: FTP サーバーのリスニング UDP ポートを 2～32767 で設定します。デフォルトは 21。

入力・出力・画面例

```
Manager > set ftp listenport=1026   
Operation successful.
```

例

FTP サーバーのリスニングポートを 1026 に設定する

```
SET FTP LISTENPORT=1026
```

3.6 アップロード・ダウンロード

SET LOADER

機能

LOADER モジュールのデフォルトパラメーターを設定します。設定した内容は、UPLOAD コマンド、および LOAD コマンドの両方に使用されます。このコマンドで設定した内容は、UPLOAD コマンドまたは LOAD コマンドでオプションを指定しなかった場合に使用されます。

書式

```
SET LOADER [METHOD=TFTP] [FILE=filename] [DESTFILE=filename]
           [SERVER=ipadd]
```

filename: ファイル名（ピリオドと拡張子を含み 15文字まで。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [()], 終了丸かっこ [()] が利用可。設定ファイルの場合、拡張子は「.cfg」か「.scp」）。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

METHOD: 転送プロトコル。TFTP を指定します。

FILE: アップロード・ダウンロード対象ファイル名を指定します。サーバー上のフルパスで指定します。

DESTFILE: アップロード・ダウンロード後のファイル名を指定します。METHOD=TFTP の際に使用できます。

SERVER: TFTP サーバーの IP アドレス。

入力・出力・画面例

```
Manager > set loader method=tftp server=192.168.1.1 [Enter]
Operation successful.
```

例

転送プロトコルを TFTP に、TFTP サーバーのアドレスを 192.168.1.1 に設定する

```
SET LOADER METHOD=TFTP SERVER=192.168.1.1
```

備考・注意事項

このコマンドで設定した内容を削除することはできません。ただし、サーバーの IP アドレスのみ 0.0.0.0 を指定して削除できます。

SET TFTP LISTENPORT

機能

TFTP サーバーへの接続ポート番号を変更します。

書式

```
SET TFTP LISTENPORT=2..32767
```

パラメーター

LISTENPORT: TFTP サーバーへの接続に使用する UDP ポートを 2～32767 で設定します。デフォルトは 69。

入力・出力・画面例

```
Manager > set tftp listenport=1026 
```

```
Operation successful.
```

例

TFTP サーバーへの接続ポートを 1026 に設定する

```
SET TFTP LISTENPORT=1026
```

3.6 アップロード・ダウンロード

SHOW FTP

機能

FTP サーバーの設定情報を表示します。

書式

SHOW FTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show ftp Enter

FTP Module Configuration
-----
FTP Server                : Enabled
FTP Server Listen Port   : 21
-----
```

項目	説明
FTP Server	FTP サーバーの有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
FTP Server Listen Port	FTP サーバーのポート番号

例

FTP サーバーの設定情報を表示する

SHOW FTP

SHOW LOADER

機能

LOADER モジュールのデフォルト設定値を表示します。

書式

```
SHOW LOADER
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show loader 

Loader Information
-----
Defaults:
Method ..... TFTP
File ..... -
Destination File ... -
Server ..... 192.168.1.1
-----
```

項目	説明
Method	転送プロトコル (TFTP)
File	コマンド実行前の対象ファイル名。UPLOAD コマンドの場合、本製品から TFTP サーバーへアップロードするファイルの名前。LOAD コマンドの場合、TFTP サーバーから本製品へダウンロードするファイルの名前
Destination File	コマンド実行後の対象ファイル名。UPLOAD コマンドの場合、本製品から TFTP サーバーへアップロードしたあとのファイルの名前。LOAD コマンドの場合、TFTP サーバーから本製品へダウンロードしたあとのファイルの名前
Server	TFTP サーバーの IP アドレス

例

LOADER モジュールのデフォルト設定値を表示

```
SHOW LOADER
```

3.6 アップロード・ダウンロード

SHOW TFTP

機能

TFTP クライアントの設定情報を表示します。

書式

SHOW TFTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show tftp   
  
TFTP Client Configuration  
-----  
TFTP Server Port : 69  
-----
```

項目	説明
TFTP Server Port	TFTP サーバーへの接続ポート番号

例

TFTP クライアントの設定情報を表示する

SHOW TFTP

UPLOAD

機能

ファイルを本製品から TFTP サーバーへアップロードします。TFTP が使用可能です。指定しなかったオプションについては、SET LOADER コマンドで設定したデフォルト値が使用されます。ファームウェアのアップロードはできません。

書式

```
UPLOAD [METHOD=TFTP] [FILE=filename] [DESTFILE=filename]
[SERVER=ipadd]
```

filename: ファイル名（ピリオドと拡張子を含み 15文字まで。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [()], 終了丸かっこ [()] が利用可。設定ファイルの場合、拡張子は「.cfg」か「.scp」）。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

METHOD: 転送プロトコル。TFTP を指定します。

FILE: アップロード対象ファイル名

DESTFILE: アップロード後のファイル名を指定します。METHOD=TFTP の際に指定できます。省略した場合、FILE で指定したファイル名が適用されます。

SERVER: TFTP サーバーの IP アドレス

入力・出力・画面例

```
Manager > upload method=tftp file=wdm03.cfg destfile=up.cfg server=192.168.1.1
1.1 [Enter]

|> (341 Bytes received)
File transfer successfully completed.
```

例

本製品から TFTP サーバー（192.168.1.1）へスクリプトファイルのアップロード（wdm03.cfg → up.cfg）を行う

```
UPLOAD METHOD=TFTP FILE=wdm03.cfg DESTFILE=up.cfg SERVER=192.168.1.1
```

3.7 ログ

DISABLE LOG OUTPUT

機能

指定した出力先へのログ出力を無効に設定します。
デフォルトは TEMPORARY（メモリー）へは有効、SYSLOG サーバーへは無効です。

書式

```
DISABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | SYSLOG}]
```

パラメーター

OUTPUT: ログ出力先（TEMPORARY か SYSLOG）を指定します。指定しなかったときは、すべてのログ出力が無効になります。ログ出力のデフォルトは有効です。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable log output   
Operation successful.
```

例

ログ情報の保存を停止する

```
DISABLE LOG OUTPUT
```

備考・注意事項

ログ情報を共有するため、TEMPORARY を無効にすると SYSLOG サーバーへも新規のログは送信されません。

ENABLE LOG OUTPUT

機能

指定した出力先へのログ出力を有効に設定します。
デフォルトは TEMPORARY（メモリー）へは有効、SYSLOG サーバーへは無効です。

書式

```
ENABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | SYSLOG}]
```

パラメーター

OUTPUT: ログ出力先を指定します。TEMPORARY を指定すると、メモリーにログを出力します。再起動するとメモリー上のログは消失します。指定しない場合、すべてのログ出力が有効になります。デフォルトは有効です。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable log output=syslog   
Operation successful.
```

例

SYSLOG サーバーへの履歴情報の送信を開始する

```
ENABLE LOG OUTPUT=SYSLOG
```

備考・注意事項

OUTPUT パラメーターの指定（TEMPORARY | SYSLOG）は キーで補完されませんが、入力が可能です。

3.7 ログ

FLUSH LOG OUTPUT

機能

ログメッセージを削除します。

書式

FLUSH LOG OUTPUT [=TEMPORARY]

パラメーター

OUTPUT: メモリー上のログがすべて削除されます。「=TEMPORARY」を指定した場合の動作も同じになります。

入力・出力・画面例

```
Manager > flush log output   
  
Operation successful.
```

例

メモリー上のログをすべて消去する

FLUSH LOG OUTPUT

PURGE LOG

機能

指定出力先のログ機能に関する設定、ログメッセージ、カウンターを削除します。

書式

```
PURGE LOG [= {TEMPORARY | SYSLOG}]
```

パラメーター

LOG: 対象となるログ出力先を、TEMPORARY（メモリー）またはSYSLOG で指定します。

入力・出力・画面例

```
Manager > purge log   
  
Operation successful.  
  
Manager > purge log=syslog   
  
Operation successful.
```

例

ログ機能に関する設定をすべて削除する

```
PURGE LOG
```

SYSLOG に関する設定を削除する

```
PURGE LOG=SYSLOG
```

備考・注意事項

出力先を指定しなかった場合、ログ機能の設定がデフォルトに戻り、ログメッセージはすべて消去されます。

3.7 ログ

SET LOG OUTPUT

機能

ログメッセージの出力条件を設定します。

書式

SET LOG OUTPUT [SERVER=ipadd] [SEVERITY=[op]severity]

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。
op: 比較演算子を指定します。小さい [<]、大きい [>]、等しくない [!]、等しい [=] (何も指定しない) のいずれかを指定します。
severity: ログレベル (0~7) を指定します。

パラメーター

SERVER: SYSLOG のメッセージの転送先 IP アドレス (UDP ポート番号 514) を指定します。Syslog サーバーへログを転送する場合、このオプションは必須です。
SEVERITY: メッセージのログレベルを指定します。指定したログレベルは TEMPORARY と SYSLOG で共通となります。省略すると 3 以上のログレベルにマッチします。

メッセージのログレベル

Lv	呼称	説明
7	CRITICAL	きわめて重大な障害の情報
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える (与えた) 可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性がある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性をほらむ情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性あり
1	TRIVIAL	DETAIL よりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性あり

演算子 (op) と例

演算子	例	意味
< (以下)	SEVERITY=<5	ログレベルが 5 以下
> (以上)	SEVERITY=>5	ログレベルが 5 以上
! (等しくない)	SEVERITY=!5	ログレベルが 5 以外
なし (等しい)	SEVERITY=5	ログレベルが 5 に等しい

入力・出力・画面例

```
Manager > set log output server=192.168.1.1 severity=>5   
Operation successful.
```

例

SYSLOG サーバー (192.168.1.1)、ログレベル (5 以上) を設定する

```
SET LOG OUTPUT SERVER=192.168.1.1 SEVERITY=>5
```

RLL 符号化エラーのメッセージのみ (ログレベル 5) 出力するように設定する

```
SET LOG OUTPUT SEVERITY=5
```

3.7 ログ

SHOW LOG

機能

履歴情報（ログ）を表示します。各種条件を指定して表示項目を絞り込むこともできます。**[Ctrl] + [C]** でスクロールを中止できます。

書式

```
SHOW LOG [DATE=[op]date] [TIME=[op]time]
          [SEVERITY=[op]severity] [REVERSE [=count]]
          [TAIL [=count]]
```

op:	比較演算子を指定します。小さい[<]、大きい[>]、等しくない[!]、等しい[=]のいずれかを記述します。
date:	システム起動時からの日数を指定します。省略するとすべての日付となります。ddd の形式で、ddd は日（1～497）を指定します。
time:	メッセージの時刻（SysUpTime）を指定します。省略するとすべての時刻となります。hh:mm:ss の形式で、hh は時（0～23）、mm は分（0～59）、ss は秒（0～59）を指定します。
severity:	ログレベル（0～7）を指定します。省略するとすべてのログレベルとなります。
count:	表示する件数（1～3000）

パラメーター

DATE:	メッセージの日付（システム起動時からの日数）を指定します。
TIME:	メッセージの時刻（SysUpTime）
SEVERITY:	メッセージのログレベル
REVERSE:	ログメッセージを逆順（新しい順）に表示します。count を指定した場合、ログメッセージが新しい順から指定数表示されます。count 省略時はすべてのメッセージが表示されます。REVERSE を指定した場合、TAIL は指定できません。
TAIL:	最新のログメッセージだけを表示します。count を指定した場合、ログメッセージが新しい順から指定数表示されます。count 省略時は最新の 20 メッセージが表示されます。TAIL を指定した場合、REVERSE は指定できません。

入力・出力・画面例

```
Manager > show log 
Date           Time           Lv Message
-----
2004-03-15 10:20:12 7 AT-WDM03 startup, Ver 1.0.0 B03, Mar 10 2004,
                  Clock Log: 2004-03-15 at 10:20:12
2004-03-15 10:20:16 3 User login on serial port
-----
```

項目	説明
Date	メッセージの（内蔵時計による）日付
Time	メッセージの（内蔵時計による）時刻
Lv	ログレベル
Message	メッセージ内容

例

履歴情報を参照する

SHOW LOG

3.7 ログ

SHOW LOG COUNTER

機能

ログ機能の診断カウンターを表示します。

書式

```
SHOW LOG COUNTER
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show log counter 
Log Counters
-----
Messages Generated           : 1534
Messages processed TEMPORARY : 320
Messages processed SYSLOG    : 26
-----
```

項目	説明
Messages Generated	生成ログメッセージ数
Message Processed TEMPORARY	メモリーに記録されたメッセージ数
Message Processed SYSLOG	SYSLOG サーバーに送信されたメッセージ数

例

ログ機能の診断カウンターを表示する

```
SHOW LOG COUNTER
```

SHOW LOG OUTPUT

機能

ログ出力先の設定内容を表示します。

書式

```
SHOW LOG OUTPUT
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show log output 

Output      Type      Status    Server      Msg      LogLv
-----
TEMPORARY   RAM       Enabled   -           3000    >3
SYSLOG      SYSLOG    Disabled  192.168.1.1 -       >3
-----
```

項目	説明
Output	ログ出力定義名。メモリー (TEMPORARY) または SYSLOG サーバー (SYSLOG)
Type	ログ出力先の概要。メモリー (RAM) または SYSLOG サーバー (SYSLOG)
Status	ログ出力先としての有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Server	ログ出力先に SYSLOG を指定している場合、サーバーの IP アドレス
Msg	キューに格納できる最大メッセージ数
LogLv	処理されるログレベル。0 ~ 7

例

ログ出力先の設定内容を表示する

```
SHOW LOG OUTPUT
```

3.7 ログ

SHOW LOG STATUS

機能

ログ機能の設定情報を表示します。

書式

```
SHOW LOG STATUS
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show log status 
Log System Status
-----
Log Message Generation ..... Enabled
Log Message Output ..... Enabled
Next Message ID ..... 59
Number of Output Definitions ..... 2
-----
```

項目	説明
Log Message Generation	ログ生成の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Log Message Output	SYSLOG サーバー宛ログ生成の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Next Message ID	次のメッセージ ID
Number of Output Definitions	定義済み出力先数。常に 2 (TEMPORARY と SYSLOG)

例

ログ機能の設定情報を表示する

```
SHOW LOG STATUS
```


3.8 NTP

ADD NTP PEER

機能

時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを追加します。NTP サーバーは 1 つしか設定できません。

書式

ADD NTP PEER=ipadd

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

PEER: NTP サーバーの IP アドレス

入力・出力・画面例

```
Manager > ADD NTP PEER=192.168.1.1 
```

```
Operation successful.
```

例

NTP サーバーの IP アドレスを追加する

```
ADD NTP PEER=192.168.1.1
```

3.8 NTP

DELETE NTP PEER

機能

時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを削除します。

書式

DELETE NTP PEER[=*ipadd*]

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

PEER: NTP サーバーの IP アドレスを指定します。

入力・出力・画面例

```
Manager > DELETE NTP PEER 
```

```
Operation successful.
```

例

NTP サーバーの IP アドレスを削除する

DELETE NTP PEER

DISABLE NTP

機能

NTP モジュールを無効にします。デフォルトは無効です。

書式

DISABLE NTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ntp   
  
Operation successful.
```

例

NTP モジュールを無効にする

DISABLE NTP

3.8 NTP

ENABLE NTP

機能

NTP モジュールを有効にします。デフォルトは無効です。

書式

ENABLE NTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ntp   
  
Operation successful.
```

例

NTP モジュールを有効にする

ENABLE NTP

PURGE NTP

機能

NTP モジュールの設定情報をすべて消去します。

NTP モジュールが有効になっていた場合は一旦無効にし、ダイナミックな情報、スタティックな情報ともに削除します。コマンド実行前に NTP モジュールが有効だった場合は、すべての設定削除後再度有効にします。

書式

PURGE NTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > purge ntp   
  
Operation successful.
```

例

NTP ポートの設定情報をすべて削除する

PURGE NTP

3.8 NTP

RESET NTP

機能

NTP モジュールをリセットします。

ダイナミックな設定情報をすべて削除し、スタティックな設定情報を読み直し、NTP リクエストを送信します。

書式

RESET NTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > reset ntp   
  
Operation successful.
```

例

NTP モジュールをリセットする

RESET NTP

SET NTP

機能

時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを変更します。現地時間と協定世界時(UTC)の差を設定します。

書式

```
SET NTP [PEER=ipadd] [UTCOFFSET={time-zone|utc-offset}]  
[LISTENPORT=2..32767]
```

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。
time-zone: タイムゾーン名を示す文字列
utc-offset: 協定世界時 (UTC) との時間差を、± h : m : s の形式で指定します。

パラメーター

PEER: NTP サーバーの IP アドレス。
UTCOFFSET: UTC からのオフセットを指定します。定義済みのタイムゾーン名または時間差で指定します。時間差で指定する場合、UTC より進んでいる場合はプラス (+) を、遅れている場合はマイナス (-) を付けます。

タイムゾーン名一覧

タイムゾーン名	時間差	詳細
ASIA	+8:00:00	Asia
ACDT	+10:30:00	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30:00	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00:00	British Standard Time
CHINA	+8:00:00	China
GMT	+0:00:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00:00	Greenwich Mean Time
HK	+8:00:00	Hong Kong
JST	+9:00:00	Japan Standard Time
MET	+1:00:00	Mid-European time
NZDT	+13:00:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00:00	Singapore
TAIWAN	+8:00:00	Taiwan
UTC	+0:00:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00:00	US Central Standard Time
EDT	-4:00:00	US Eastern Daylight Time
EST	-5:00:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00:00	US Pacific Daylight Time

3.8 NTP

タイムゾーン名	時間差	詳細
PST	-8:00:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

LISTENPORT: NTP サーバーへのリスニング UDP ポートを 2~32767 で設定します。デフォルトは 23 です。

入力・出力・画面例

```
Manager > set ntp peer=192.168.1.1   
  
Operation successful.
```

例

NTP サーバのアドレスを設定する

```
SET NTP PEER=192.168.1.1
```

UTC オフセットをタイムゾーンで指定する (日本)

```
SET NTP UTCOFFSET=JST
```

UTC オフセットを時間差で指定する (日本)

```
SET NTP UTCOFFSET=+9:00:00
```

NTP サーバへのリスニングポートを 321 へ設定する

```
SET NTP LISTENPORT=321
```


SHOW NTP

機能

NTP の設定情報を表示します。

書式

SHOW NTP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show ntp 
-----
NTP Module Configurations
-----
Status                : ENABLED
Host Address          : 192.168.1.5
UTC offset            : +09:00:00 (JST)
Last Updated         : 11:19:38 on 09-Jul-2003
Last Delta           : +0.94

Configured Peer       : 192.168.1.1
NTP Server Listen Port : 123

Counters
-----
Packets Sent          : 0000000002
Packets Received      : 0000000002
Packets w/ head error : 0000000000
Packets w/ data error : 0000000000
```

項目	説明
Status	NTP ポートの状態 (ENABLED か DISABLED)
Host Address	本製品の IP アドレス
UTC offset	協定世界時 (UTC) からのオフセット
Last Updated	NTP による内蔵時計の最終更新日時
Last Delta	最終更新時の内蔵時計の修正量 (誤差)
Configured Peer	NTP サーバーの IP アドレス
NTP Server Listen Port	NTP サーバーへの接続ポート
Packets Sent	送信 NTP パケット数
Packets Received	受信 NTP パケット数
Packets w/ head error	受信 NTP パケットのうちヘッダーエラーがあったものの数
Packets w/ data error	受信 NTP パケットのうちデータエラーがあったものの数

例

NTP の設定情報を表示する

SHOW NTP

3.9 システム

CLS

機能

画面の表示を消去します。消去後はプロンプトとカーソルが 1 行目に表示されます。

書式

CLS

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > cls [Enter]
```

例

画面をクリアする

CLS

HELP

機能

コマンドのオンラインヘルプを表示します。[F1] キー、[?] キーも同義です。

書式

```
HELP [{command|function}]
```

パラメーター

- command: 対象となるコマンド名を指定します。省略時は、オンラインヘルプのトップページが表示されます。
- function: 対象となる機能名を指定します。省略時は、オンラインヘルプのトップページが表示されます。次の値を指定できます(大文字の部分だけの入力が可能です)。アクセスフィルター (Accessfilter)、コンフィグレーション (Configuration)、ファイルシステム (Filesystem)、インターフェース (INterface)、IP (Ip)、アップロード・ダウンロード (LOADER)、ログ (LOG)、NTP (Ntp)、システム (SYstem)、スクリプト (SCript)、SNMP (SNmp)、ターミナルサービス (Terminal)、接続テスト (TEST)、キーバインド (Keybind)

入力・出力・画面例

```
Manager > help [Enter]

AT-WDM03 オンラインヘルプ

This online help is written in Japanese.

ヘルプは次のトピックを説明しています。
入力は大文字の部分だけでかまいません。("HELP ACCESSFILTER" は "H A" と省略可)

Help Accessfilter      アクセスフィルター
Help Configuration     コンフィグレーション
Help Filesystem        ファイルシステム
Help INterface        インターフェース
Help IP                IP
Help LOADER            アップロード・ダウンロード
Help LOG              ログ
Help Ntp              NTP
Help SYstem           システム
Help SCript           スクリプト
Help SNmp             SNMP
Help TERminal        ターミナルサービス
Help TEST            接続テスト
Help Keybind         キーバインド
```

例

オンラインヘルプのトップページを参照する

```
HELP
```

3.9 システム

LOGOUT

機能

ログインセッションからログアウトします。LOGOFF、QUIT、EXIT、BYE も同義です。プロンプトに入力のない状態で **Ctrl** + **D** キーによるショートカットも使用可能です。

書式

LOGOUT

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > logout Enter  
Good bye.
```

例

本システムからログアウトする

LOGOUT

RESTART [REBOOT]

機能

システムを再起動します。

書式

RESTART [REBOOT]

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > restart reboot   
Do restart system now? (Y/N):
```

Y キーを押すと、システムを再起動します。

N キーを押すと、コマンド入力待ちプロンプトに戻ります。

例

システムを再起動する

RESTART REBOOT

備考・注意事項

- 「REBOOT」の指定の有無によって動作は変わりません。
- WD1001/WD1002 本体は再起動されません。

3.9 システム

SET PASSWORD

機能

セキュリティーパスワードを設定します。16 文字以下。使用可能文字は半角英数字、記号及びスペースで、大文字小文字を区別します。New password に何も入力しなければパスワード無しになります。

書式

SET PASSWORD

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > set password    
  
Old password : *****  
New password : *****  
Confirm      : *****  
  
Password has been changed.
```

例

パスワードを変更する

SET PASSWORD

SET TIME

機能

内蔵時計の日付と時刻を設定します。

書式

SET {TIME=time} {DATE=date}

time: 時刻を、hh:mm:ss の形式で指定します。
 hh : 時 (0~23)、mm : 分 (0~59)、ss : 秒 (0~59)

date: 日付を、yyyy-mm-dd の形式で指定します。
 yyyy : 西暦年、mm : 月 (1~12)、dd : 日 (1~31)

パラメーター

TIME: 設定する時刻を記述します。
DATE: 設定する日付を記述します。

入力・出力・画面例

```
Manager > set date=2003-7-9 time=10:00:00   
  
System time is 2003-07-09 Wednesday at 10:00:00
```

例

システム時計を 2003 年 7 月 9 日 10 時に設定する

SET DATE=2003-7-9 TIME=10:00:00

システム時計を 10 時 3 分に設定する (時刻だけを修正する)

SET TIME=10:03:00

3.9 システム

SHOW TIME

機能

現在の日付と時刻を表示します。

書式

SHOW TIME

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show time   
  
System time is 2003-07-09 Wednesday at 10:00:00
```

例

現在の日付と時刻を表示する

SHOW TIME

SET SYSTEM

機能

システム情報に関する MIB オブジェクトの値を設定します。

書式

```
SET SYSTEM [NAME=system-name] [LOCATION=location-name]  
[CONTACT=contact-name]
```

system-name: システム名を指定します。20 文字までの半角英数字とシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [¥] を除く半角記号で入力します。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定します。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか、無指定にします。

location-name: ロケーション名を指定します。
20 文字までの半角英数字とシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [¥] を除く半角記号で入力します。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定します。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか、無指定にします。

contact-name: コンタクト名を指定します。
20 文字までの半角英数字とシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [¥] を除く半角記号で入力します。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定します。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか、無指定にします。

パラメーター

NAME: システム名を記述します。
LOCATION: 設置場所を記述します。
CONTACT: 連絡先を記述します。

入力・出力・画面例

```
Manager > set system name="WDM03"   
  
Operation successful.  
  
Manager > set system name=""   
  
Operation successful.
```

例

システム名を設定する

```
SET SYSTMTEM NAME="WDM03"
```

システム名を消去する

```
SET SYSTEM NAME=""
```

3.9 システム

SHOW SYSTEM

機能

システム情報を表示します。

スタック接続の場合は、すべてのユニットの情報が表示されます。

書式

SHOW SYSTEM

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show system Enter

WDM System Status                               Date 2004-03-15 Time 13:03:24
Unit No.  Board      Bay      Board Name   Serial number
-----
  0      Local      -      WD1002      XXXXXXXXXX
  0      Remote     1      AT-G2 LA    XXXXXXXXXX
  0      Management 2      AT-WDM03    XXXXXXXXXX
  0      PS          3      AT-WD2RPS   XXXXXXXXXX
-----
Memory -  DRAM : 16384 KB  FLASH : 1536 KB  MAC : 00-00-F4-12-34-56
-----
SysDescription : AT-WDM03 Ver 1.0.0 B03
SysContact    :
SysLocation   :
SysName       :
SysUpTime     : 334450(00:55:44)
Release Version : Ver 1.0.0
Release built  : B03 (Mar 10 2004 at 09:37:21)

Unit No.0
Flash PROM : Good  PS1 : Normal  Local Module  Remote Module
RAM         : Good  PS2 : -      2.5V : Normal  3.3V : Normal
NIC         : Good  Fan1 : Normal  3.3V : Normal  Temp : Normal
UART        : Good  Fan2 : -      5V : Normal
                               Temp : Normal

FPGA                : Good
CDR(Channel1)       : Good
CDR(Channel2)       : Good
HW Monitor(Local module) : Good
HW Monitor(Remote module) : Good

Configuration
Boot configuration file : 100h.cfg (exist)
Current configuration   : 100h.cfg
```

項目	説明
Date	内蔵時計の日付
Time	内蔵時計の時刻
Unit No.	ユニット番号
Board	製品（基板）の種類。Management、Local (WD 1001/WD1002 本体)、Remote、PS がある。

項目	説明
Bay	Module が実装されているベイの番号
Board Name	製品（基板）の名称
Serial Number	製品（基板）のシリアル番号
DRAM	実装されている DRAM のメモリー容量
FLASH	実装されているフラッシュメモリーの容量
MAC	MAC アドレス
SysDescription	製品およびファームウェアの概要（MIB-II の sysDescr）
SysContact	管理責任者（MIB-II の sysContact）
SysLocation	設置場所（MIB-II の sysLocation）
SysName	システム名（MIB-II の sysName）
SysUpTime	稼働時間（前回再起動してからの時間）
Release Version	リリースソフトウェアのバージョン
Release built	リリースソフトウェアファイルのビルド日
Flash PROM	Flash ROM の プログラムデータチェックサム演算、照合結果
RAM	Boot 時の RAM テスト結果
NIC	Boot 時の NIC テスト結果
UART	Boot 時の UART テスト結果
PS1, 2	PS モジュールの電源ユニットの状態。Normal/Warning/Failed（読み取り失敗）*1
Fan1, 2	PS モジュールのファンの状態。Normal/Warning/Failed（読み取り失敗）*1
Local Module/ Remote Module	ローカルモジュールの 2.5V/3.3V/5V、リモートモジュールの 3.3V/5V 各電源ユニットの供給電圧状態、温度状態（Temp）。Normal/Warning/Failed（読み取り失敗）*1
FPGA	ローカルモジュールの FPGA の状態。
CDR	リモートモジュールの CDR の状態。
HW Monitor	ローカル、リモートモジュールのセンサーの状態。
Boot configuration file	次回起動時に読み込まれる設定ファイル名。ファイルが存在する（exist）が存在しないか（doesn't exist）も表示される
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。「None」の場合には、設定ファイルを読み込んでいない

*1 Warning：システムが正常範囲外の測定値を連続して検出した場合
Failed：システムが測定値の読み取りに連続して失敗した場合

例

システムの情報を表示する

SHOW SYSTEM

3.10 スクリプト

ACTIVATE SCRIPT

機能

指定したスクリプトを実行します。SCRIPT 属性のないファイル（拡張子は「.cfg」か「.scp」以外）は実行不可。実行中のコマンドは、「=>」に続いて表示されます。

書式

ACTIVATE SCRIPT=filename

filename: ファイル名を指定します。拡張子は「.cfg」または「.scp」です。

パラメーター

SCRIPT: スクリプトファイル名

入力・出力・画面例

```
Manager > activate script=test02.cfg   
  
=> SET CONSOLE TIMEOUT=0  
  
Operation successful.  
  
=> ENABLE IP DHCP  
  
Operation successful.
```

例

system.cfg ファイルを実行する

ACTIVATE SCRIPT=system.cfg

3.11 SNMP

ADD SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーに管理ステーション、トラップホストを追加します。
TRAPHOST オプション指定時、変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

```
ADD SNMP COMMUNITY=community
[TRAPHOST=ipadd] [MANAGER=ipadd]
[TRAP={AUTHENTICATION | COLDSTART | LINK | WARMSTART |
WDM03FANRECOVER | WDM03FANWARNING | WDM03HWLINKTEST |
WDM03LOGIN | WDM03LOGOUT | WDM03LOOPBACKTESTFAILURE |
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS | WDM03MISSINGLINKDOWN |
WDM03MISSINGLINKUP | WDM03MODULEINSTALLED |
WDM03MODULEREMOVED | WDM03PORTDISABLE | WDM03PORTENABLE |
WDM03PORTTXFAULT | WDM03PSRECOVER | WDM03PSWARNING |
WDM03SWLINKTEST | WDM03TEMPRECOVER | WDM03TEMPWARNING |
WDM03UNITSTACKED | WDM03UNITUNSTACKED |
WDM03VOLTAGERECOVER | WDM03VOLTAGEWARNING | ALL}]
```

community: SNMP コミュニティー名
ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名
TRAPHOST: SNMP トラップの送信先ホスト。トラップはここで指定したホストにだけ送信されます。最大 4 個まで指定できます。
MANAGER: SNMP オペレーションを許可する管理ステーションを指定します。最大 4 個まで指定できます。
TRAP: トラップの種類を指定します。デフォルトは ALL です。カンマ [,] を使った複数指定も可能です。

入力・出力・画面例

```
Manager > add snmp community=public manager2=192.168.1.1 
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」に管理ステーション(192.168.1.1)を追加する

```
ADD SNMP COMMUNITY=public MANAGER2=192.168.1.1
```

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP リクエストには応答しません。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティーが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答します。

3.11 SNMP

CREATE SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーを作成します。

TRAPHOST オプション指定時、変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

```
CREATE SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}]
    [TRAPHOST=ipadd] [MANAGER=ipadd]
    [OPEN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
    [TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
    WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|WDM03HWLINKTEST|
    WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
    WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|WDM03MISSINGLINKDOWN|
    WDM03MISSINGLINKUP|WDM03MODULEINSTALLED|
    WDM03MODULEREMOVED|WDM03PORTDISABLE|
    WDM03PORTENABLE|WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
    WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|WDM03TEMPRECOVER|
    WDM03TEMPWARNING|WDM03UNITSTACKED|
    WDM03UNITUNSTACKED|WDM03VOLTAGERECOVER|
    WDM03VOLTAGEWARNING|ALL|NONE}]
```

community: SNMP コミュニティー名を指定します。1～20 文字の半角英数字、ハイフン[-]、アンダーバー[_]、ピリオド[.]、開始丸かっこ[(]、終了丸かっこ[)]が使用可能です。大文字・小文字の属性は無視されますが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。

ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名を指定します。2個まで作成可能です。
ACCESS: コミュニティーのアクセス権を指定します。READ (デフォルト) は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可します。

TRAPHOST: SNMP トラップの送信先ホストを指定します。
コミュニティには4つのトラップホストを指定できますが、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドでは1つしか指定できません。複数のトラップホストを使う場合は、コミュニティ作成後にADD SNMP COMMUNITY コマンドで追加します。

MANAGER: SNMP オペレーションを許可するホストを指定します。
コミュニティには4つのMANAGERを指定できますが、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドでは1つしか指定できません。トラップホスト同様、複数指定する場合はコミュニティ作成後にADD SNMP COMMUNITY で追加します。

- OPEN: SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示します。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限します。YES を指定すると、すべての SNMP リクエストを受け入れます。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味です。
- TRAP: トラップの種類。デフォルトは ALL です。カンマ [,] を使った複数指定も可能です。NONE を指定すると所属トラップがなくなることになります。

入力・出力・画面例

```
Manager > create snmp community=public 
Operation successful.

Manager > create snmp community=private access=write manager=192.168.1.1
traphost=192.168.1.1 
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を作成する

```
CREATE SNMP COMMUNITY=public
```

書き込み権限のある SNMP コミュニティー「private」を作成し管理ステーション兼トラップホストとして 192.168.1.1 を指定する

```
CREATE SNMP COMMUNITY=private ACCESS=WRITE MANAGER=192.168.1.1
TRAPHOST=192.168.1.1
```

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP リクエストには応答しません。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答します。

3.11 SNMP

DELETE SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーの管理ステーション、トラップホストを削除します。
TRAPHOST オプション指定時、変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

```
DELETE SNMP COMMUNITY=community
[TRAPHOST=ipadd] [MANAGER=ipadd]
[TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|WDM03HWLINKTEST|
WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|WDM03MISSINGLINKDOWN|
WDM03MISSINGLINKUP|WDM03MODULEINSTALLED|
WDM03MODULEREMOVED|WDM03PORTDISABLE|
WDM03PORTENABLE|WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|WDM03TEMPRECOVER|
WDM03TEMPWARNING|WDM03UNITSTACKED|
WDM03UNITUNSTACKED|WDM03VOLTAGERECOVER|
WDM03VOLTAGEWARNING|ALL}]
```

community: SNMP コミュニティー名
ipadd: IP アドレスを、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で指定します。

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名
TRAPHOST: SNMP トラップの送信先ホストを指定します。トラップはここで指定したホストにだけ送信されます。
MANAGER: SNMP オペレーションを許可する管理ステーション
TRAP: トラップの種類。デフォルトは ALL です。カンマ[,] を使った複数指定も可能です。

入力・出力・画面例

```
Manager > delete snmp community=public manager=192.168.1.1 [Enter]

Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」から管理ステーション(192.168.1.1)を削除する

```
DELETE SNMP COMMUNITY=public MANAGER=192.168.1.1
```

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP リクエストには応答しません。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答します。

DESTROY SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーを削除します。

変更は (CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存し)、再起動したあと適用されます。

書式

DESTROY SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > destroy snmp community=public   
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を削除する

DESTROY SNMP COMMUNITY=public

3.11 SNMP

DISABLE SNMP

機能

SNMP モジュールを無効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
DISABLE SNMP
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp   
  
Operation successful.
```

例

SNMP を無効にする

```
DISABLE SNMP
```

DISABLE SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーを無効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
DISABLE SNMP COMMUNITY=community
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp community=public   
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を無効にする

```
DISABLE SNMP COMMUNITY=public
```

3.11 SNMP

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

機能

指定した SNMP コミュニティーにおける SNMP トラップの生成を無効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
DISABLE SNMP COMMUNITY=community TRAP
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp community=public trap   
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」のトラップを無効にする

```
DISABLE SNMP COMMUNITY=public TRAP
```

DISABLE SNMP TRAP

機能

指定したトラップの生成を無効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
DISABLE SNMP TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|
WDM03HWLINKTEST|WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|
WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|
WDM03MISSINGLINKDOWN|WDM03MISSINGLINKUP|
WDM03MODULEINSTALLED|WDM03MODULEREMOVED|
WDM03PORTDISABLE|WDM03PORTENABLE|
WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|
WDM03TEMPRECOVER|WDM03TEMPWARNING|
WDM03UNITSTACKED|WDM03UNITUNSTACKED|
WDM03VOLTAGERECOVER|WDM03VOLTAGEWARNING|
ALL}
```

パラメーター

TRAP: トラップの種類を指定します。デフォルトは無効です。カンマ[,]を使った複数指定も可能です。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp trap=coldstart 
```

```
Operation successful.
```

例

すべてのTRAPを無効にする

```
DISABLE SNMP TRAP=ALL
```

3.11 SNMP

ENABLE SNMP

機能

SNMP モジュールを有効にします。デフォルトは無効です。

書式

ENABLE SNMP

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp   
  
Operation successful.
```

例

SNMP を有効にする

ENABLE SNMP

ENABLE SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーを有効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=community
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp community=public Enter  
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を有効にする

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=public
```

3.11 SNMP

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

機能

指定した SNMP コミュニティーにおける SNMP トラップの生成を有効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=community TRAP
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp community=public trap 
```

```
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」のトラップを有効にする

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=public TRAP
```


ENABLE SNMP TRAP

機能

SNMP トラップ生成を有効にします。デフォルトは無効です。

書式

```
ENABLE SNMP TRAP={AUTHENTICATION|COLDSTART|LINK|WARMSTART|
WDM03FANRECOVER|WDM03FANWARNING|
WDM03HWLINKTEST|WDM03LOGIN|WDM03LOGOUT|
WDM03LOOPBACKTESTFAILURE|
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS|
WDM03MISSINGLINKDOWN|WDM03MISSINGLINKUP|
WDM03MODULEINSTALLED|WDM03MODULEREMOVED|
WDM03PORTDISABLE|WDM03PORTENABLE|
WDM03PORTTXFAULT|WDM03PSRECOVER|
WDM03PSWARNING|WDM03SWLINKTEST|
WDM03TEMPRECOVER|WDM03TEMPWARNING|
WDM03UNITSTACKED|WDM03UNITUNSTACKED|
WDM03VOLTAGERECOVER|WDM03VOLTAGEWARNING|ALL}
```

パラメーター

TRAP: トラップの種類を指定します。デフォルトは無効です。カンマ[,]を使った複数指定も可能です。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp trap=all 
Operation successful.
```

例

すべての TRAP を有効にする

```
ENABLE SNMP TRAP=ALL
```

3.11 SNMP

SET SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーの設定パラメーターを変更します。

書式

```
SET SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}]  
[OPEN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

ACCESS: コミュニティーのアクセス権を指定します。READ (デフォルト) は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可します。

OPEN: SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示します。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限します。YES を指定すると、すべての SNMP リクエストを受け入れます。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味です。

入力・出力・画面例

```
Manager > set snmp community=public access=read open=on   
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を読み出しのみすべてのホストへ開放する

```
SET SNMP COMMUNITY=public ACCESS=READ OPEN=ON
```

SET SNMP LISTENPORT

機能

SNMP (GET/SET) のリスニングポートを変更します。

書式

```
SET SNMP LISTENPORT=2..32767
```

パラメーター

LISTENPORT: SNMP (GET/SET) のリスニングUDPポートを、2～32767で設定します。デフォルトは161です。

入力・出力・画面例

```
Manager > set snmp listenport=1026 
```

```
Operation successful.
```

例

SNMP のリスニングポートを 1026 に設定する

```
SET SNMP LISTENPORT=1026
```

3.11 SNMP

SET SNMPTRAP LISTENPORT

機能

SNMP (TRAP) のリスニングポートを変更します。

書式

```
SET SNMPTRAP LISTENPORT=2..32767
```

パラメーター

LISTENPORT: SNMP (TRAP) のリスニングUDP ポートを、2～32767 で設定します。デフォルトは 162 です。

入力・出力・画面例

```
Manager > set snmptrap listenport=1026   
Operation successful.
```

例

SNMP (TRAP) のリスニングポートを 1026 に設定する

```
SET SNMPTRAP LISTENPORT=1026
```

SHOW SNMP

機能

SNMP モジュールの情報を表示します。

書式

```
SHOW SNMP
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show snmp   
  
SNMP Module Configuration:  
-----  
Status                : Disabled  
SNMP Manager Listen Port : 161  
SNMPTRAP Listen Port   : 162  
-----
```

項目	説明
Status	SNMP モジュールの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
SNMP Manager Listen Port	SNMP (GET/SET) のリスニング UDP ポート番号
SNMPTRAP Listen Port	SNMP (TRAP) のリスニング UDP ポート番号

例

SNMP モジュールの情報を表示する

```
SHOW SNMP
```

3.11 SNMP

SHOW SNMP COMMUNITY

機能

SNMP コミュニティーの情報を表示します。

書式

```
SHOW SNMP COMMUNITY[={community|ALL}]
```

community: SNMP コミュニティー名

パラメーター

COMMUNITY: SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > show snmp community 

SNMP community information:

-----
Name          Status      Traps       Access      OpenAccess
-----
public        Enabled     Disabled    read-only   Yes
private       Enabled     Enabled     read-write  No
-----

Manager > show snmp community=public 

SNMP community information:

-----
Name ..... public
Access ..... read-only
Status ..... Enabled
Trap Status .... Disabled
Open Access .... Yes
Traps ..... COLDSTART, WARMSTART, AUTHENTICATION, LINK
Manager ..... 192.168.1.1
Trap Host ..... 192.168.1.1
Trap Host ..... 192.168.1.2
-----
```

項目	説明
Name	コミュニティー名
Status	コミュニティーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Traps	トラップ生成の状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Access	アクセス権。読み出しのみ (read-only) または読み書き可能 (read-write)
OpenAccess	ネットワーク管理ステーションからのアクセス。すべてのホストからのアクセスを許可 (Yes) または指定したネットワーク管理ステーションからのアクセスのみ許可 (No)

COMMUNITY オプション指定時

項目	説明
Name	コミュニティー名
Access	アクセス権。読み出しのみ (read-only) または読み書き可能 (read-write)
Status	コミュニティーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Trap Status	トラップ生成の状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Open Access	ネットワーク管理ステーションからのアクセス。すべてのホストからのアクセスを許可 (Yes) または指定したネットワーク管理ステーションからのアクセスのみ許可 (No)
Traps	生成されるトラップの種類 (COLDSTART, WARMSTART, AUTHENTICATION, LINK, WDM03PORTDISABLE, WDM03PORTENABLE, WDM03PORTTXFAULT, WDM03MODULEINSTALLED, WDM03MODULEREMOVED, WDM03UNITSTACKED, WDM03UNITUNSTACKED, WDM03PSWARNING, WDM03PSRECOVER, WDM03FANWARNING, WDM03FANRECOVER, WDM03TEMPWARNING, WDM03TEMPRECOVER, WDM03VOLTAGEWARNING, WDM03VOLTAGERECOVER, WDM03SWLINKTEST, WDM03HWLINKTEST, WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS, WDM03LOOPBACKTESTFAILURE, WDM03LOGIN, WDM03LOGOUT, WDM03MISSINGLINKUP, WDM03MISSINGLINKDOWN)
Manager	本コミュニティーでアクセスを許可されたネットワーク管理ステーションの IP アドレス
Trap Host	本コミュニティーにおける SNMP トラップの送信先ホストの IP アドレス

例

SNMP コミュニティー情報を一覧表示する

```
SHOW SNMP COMMUNITY
```

SNMP コミュニティー「public」の情報を表示する

```
SHOW SNMP COMMUNITY=public
```

3.11 SNMP

SHOW SNMP TRAP

機能

トラップの設定情報を表示します。

書式

```
SHOW SNMP [TRAP={AUTHENTICATION | COLDSTART | LINK | WARMSTART |  
WDM03FANRECOVER | WDM03FANWARNING | WDM03HWLINKTEST |  
WDM03LOGIN | WDM03LOGOUT | WDM03LOOPBACKTESTFAILURE |  
WDM03LOOPBACKTESTSUCCESS | WDM03MISSINGLINKDOWN |  
WDM03MISSINGLINKUP | WDM03MODULEINSTALLED |  
WDM03MODULEREMOVED | WDM03PORTDISABLE |  
WDM03PORTENABLE | WDM03PORTTXFAULT | WDM03PSRECOVER |  
WDM03PSWARNING | WDM03SWLINKTEST | WDM03TEMPRECOVER |  
WDM03TEMPWARNING | WDM03UNITSTACKED |  
WDM03UNITUNSTACKED | WDM03VOLTAGERECOVER |  
WDM03VOLTAGEWARNING | ALL}]
```

パラメーター

TRAP: トラップの種類を指定します。複数指定はコンマ[,]で続けます。デフォルトはALLです。指定しなければ全トラップの状態を表示します。

入力・出力・画面例

```

Manager > show snmp trap 

SNMP Trap Information:
-----
Cold Start ..... Enabled
Warm Start ..... Enabled
Authentication ..... Enabled
Link ..... Enabled
WDM03 Port Disable ..... Enabled
WDM03 Port Enable ..... Enabled
WDM03 Port Tx Fault ..... Enabled
WDM03 Module Installed ..... Enabled
WDM03 Module Removed ..... Enabled
WDM03 Unit Stacked ..... Enabled
WDM03 Unit Unstacked ..... Enabled
WDM03 PS Warning ..... Enabled
WDM03 PS Recover ..... Enabled
WDM03 FAN Warning ..... Enabled
WDM03 FAN Recover ..... Enabled
WDM03 TEMP Warning ..... Enabled
WDM03 TEMP Recover ..... Enabled
WDM03 VOLTAGE Warning ..... Enabled
WDM03 VOLTAGE Recover ..... Enabled
WDM03 FAN Warning ..... Enabled
WDM03 SW Link Test ..... Enabled
WDM03 HW Link Test ..... Enabled
WDM03 Loop Back Test Success . Enabled
WDM03 Loop Back Test Failure . Enabled
WDM03 Login ..... Enabled
WDM03 Logout ..... Enabled
WDM03 Missing Link Up ..... Enabled
WDM03 Missing Link Down ..... Enabled
-----

Manager > show snmp trap=coldstart 

SNMP Trap Information
-----
Cold Start TRAP ..... Enabled
Community ..... public
Status ..... Enabled
Trap Status ..... Enabled
Trap Host ..... 192.168.1.1
Trap Host ..... 192.168.1.5
Community ..... private
Status ..... Enabled
Trap Status ..... Enabled
Trap Host ..... 192.168.2.1
-----

```

項目	説明
Cold Start	Cold Start (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Warm Start	Warm Start (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)

3.11 SNMP

項目	説明
Authentication	Authentication (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Link	Link (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Port Disable	Port Disable (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Port Enable	Port Enable (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Port Tx Fault	Port Tx Fault (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Module Installed	Module Installed (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Module Removed	Module Removed (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Unit Stacked	Unit Stacked (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Unit Unstacked	Unit Unstacked (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 PS Warning	PS Warning (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 PS Recover	PS Recover (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 FAN Warning	FAN Warning (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 FAN Recover	FAN Recover (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 TEMP Warning	TEMP Warning (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 TEMP Recover	TEMP Recover (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 VOLTAGE Warning	VOLTAGE Warning (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 VOLTAGE Recover	VOLTAGE Recover (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 SW Link Test	SW Link Test (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 HW Link Test	HW Link Test (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Loop Back Test Success	Loop Back Test Success (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Loop Back Test Failure	Loop Back Test Failure (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Login	Login (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Logout	Logout (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Missing Link Up	Missing Link Up (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
WDM03 Missing Link Down	Link (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)

TRAP オプション指定時

項目	説明
Cold Start TRAP	Cold Start (Trap) の設定状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)。TRAP オプションに COLDSTART を指定した場合は表示される。
Community	設定されている SNMP コミュニティ名
Status	該当する SNMP コミュニティの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Trap Status	該当する Trap の状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Trap Host	設定されている Trap ホストの IP アドレス

例

全トラップの状態を表示する

SHOW SNMP TRAP

Coldstart トラップに関する情報を表示する

SHOW SNMP TRAP=COLDSTART

3.12 ターミナルサービス

DISABLE TELNET SERVER

機能

Telnet サーバー機能を無効にします。デフォルトは有効です。

書式

```
DISABLE TELNET SERVER
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > disable telnet server   
  
Operation successful.
```

例

Telnet サーバー機能を無効にする

```
DISABLE TELNET SERVER
```

ENABLE TELNET SERVER

機能

Telnet サーバー機能を有効にします。デフォルトは有効です。

書式

ENABLE TELNET SERVER

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > enable telnet server   
  
Operation successful.
```

例

Telnet サーバー機能を有効にする

ENABLE TELNET SERVER

3.12 ターミナルサービス

SET ASYN

機能

コンソールポートまたはログインセッションの設定パラメーターを変更します。

書式

```
SET ASYN [SPEED={9600|19200}] [PAGE={4..99|OFF}]  
[LOGIN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
```

パラメーター

SPEED:	コンソールポートの通信速度を設定します。9600 (9600bps) または 19200 (19200bps) が可能です。設定はただちに反映されます。
PAGE:	端末1画面当たりの行数を4~99の範囲で指定します。デフォルトは22です。OFFを指定した場合は、ページ単位での一時停止が行われなくなります。TELNETセッションと共通です。
LOGIN:	コンソールポートからログインできるかどうかを設定します。この設定はログアウト後に有効となります。TELNET接続できない状態で設定を行うと初期化を行うまでログインできなくなります。ON、YES、TRUE、またはOFF、NO、FALSEはそれぞれ同じです (有効または無効)。

入力・出力・画面例

```
Manager > set asyn speed=19200   
  
Operation successful.
```

例

通信速度を 19200bps に設定する

```
SET ASYN SPEED=19200
```

SET CONSOLE TIMEOUT

機能

ログインセッションのタイムアウト時間を設定します。

書式

```
SET CONSOLE TIMEOUT=0..2147483647
```

パラメーター

TIMEOUT: 入力待ちの状態が続いたときにセッションが切断されるまでの時間を指定します。0（秒）を指定した場合、本機能は無効になります（切断されなくなります）。0～2147483647（秒）まで指定可能です。

入力・出力・画面例

```
Manager > set console timeout=600   
Operation successful.
```

例

入力待ちの状態が続いても切断されないように設定する

```
SET CONSOLE TIMEOUT=0
```

3.12 ターミナルサービス

SET TELNET

機能

Telnet サーバー機能の設定を変更します。

書式

```
SET TELNET [LIMIT=1..4] [LISTENPORT=2..32767]
```

パラメーター

LIMIT: Telnet セッションの最大接続数を 1～4 の範囲で設定します。
LISTENPORT: Telnet サーバーのリスニングTCP ポート番号を2～32767で設定します。デフォルトは 23。

入力・出力・画面例

```
Manager > set telnet listenport=1026   
  
Operation successful.  
  
Manager > set telnet limit=2   
  
Operation successful.
```

例

Telnet サーバーのリスニングポート番号を 1026 に設定する

```
SET TELNET LISTENPORT=1026
```

Telnet セッションの最大接続数を 2 に設定する

```
SET TELNET LIMIT=2
```

備考・注意事項

Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断されます。

Telnet 接続の場合、3 回ログイン認証に失敗すると強制切断します。この設定は変更できません。

SHOW CONSOLE

機能

コンソールおよび Telnet セッションに関する設定内容を表示します。

書式

```
SHOW CONSOLE
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show console [Enter]

Console Information
-----
Console Password .... Default
Page size ..... 22
Timeout ..... Disabled

Serial port
Status ..... Enable
Data rate ..... 9600bps

Telnet
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
Connection limit .... 4
-----
```

項目	説明
Console Password	ログインパスワードの状態。初期パスワード (Default) または変更済み (Configured)
Page size	1 画面当りに表示される行数
Timeout	ログインセッションで入力待ちの状態になってから切断するまでの時間、または切断しない (Disabled)
Serial port	コンソールポートの情報を表示
Status	コンソールポートからログインできるかどうか。ログイン可 (Enabled) または不可 (Disabled)
Data rate	コンソールポートの通信速度。9600 または 19200 (bps)
Telnet	Telnet の情報を表示
Status	Telnet によるアクセス制限。ログイン可 (Enabled) または不可 (Disabled)
TCP port	Telnet ログインを許可する TCP ポート番号
Connection Limit	Telnet セッションの最大接続数

例

コンソールの設定情報を表示する

```
SHOW CONSOLE
```

3.12 ターミナルサービス

SHOW TELNET

機能

Telnet サーバーの設定情報を表示します。

書式

```
SHOW TELNET
```

パラメーター

なし

入力・出力・画面例

```
Manager > show telnet   
  
TELNET Module Configuration  
-----  
Telnet Server           : Enabled  
Telnet Server Listen Port : 23  
Telnet Connection Limit  : 4  
-----
```

項目	説明
Telnet Server	Telnet サーバーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Telnet Server Listen Port	Telnet サーバーの接続ポート番号
Telnet Connection Limit	Telnet セッションの最大接続数

例

TELNET サーバーの設定情報を表示する

```
SHOW TELNET
```

3.13 接続テスト

ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT

機能

指定したポートからループバック信号を送出することによってテストを実行し、結果を表示します。

テストを実行することにより、該当するポートの通信は遮断されます。

書式

```
ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT={port-list|ALL}
    [CHANNEL={channel-list|ALL}]
    [UNIT={unit-list|ALL}]
    [COUNT=1..65536]
```

port-list:	ローカルポート番号（1～2）またはリモートポート番号（3）を指定します。ハイフン[-]、カンマ[,] を使った複数指定も可能です。
channel-list:	1～2 のチャンネル番号を指定します。PORT パラメーターにリモートポート（3）を指定した場合のみ指定します。
unit-list:	0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

PORT:	対象となるポート番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのポートが対象になります。 WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
CHANNEL:	対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。 WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。 PORT パラメーターにリモートポート(3)を含めずに CHANNEL パラメーターを指定するとエラーになります。
UNIT:	対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。
COUNT:	テストを行う回数を指定します。

3.13 接続テスト

入力・出力・画面例

```
Manager > activate loopbacktest port=1,2,3 ch=2 unit=0 
WDM Loopback Test Result
Unit  Port  State      Last      Current Test  Current Test
      Port  State      Result    Count Number  Result ( %OK )
-----
0      1      Complete  Failed    1             Failed ( 0.0)
0      2      Complete  Failed    1             Failed ( 0.0)
0      3(1)   No Test   -         -             - ( - )
0      3(2)   Complete  Failed    1             Failed ( 0.0)
-----
1      1      Complete  Failed    -             - ( - )
1      2      Complete  Good      -             - ( - )
1      3(1)   No Test   -         -             - ( - )
1      3(2)   No Test   -         -             - ( - )
-----
2      1      No Test   -         -             - ( - )
2      2      No Test   -         -             - ( - )
2      3(1)   No Test   -         -             - ( - )
2      3(2)   No Test   -         -             - ( - )
-----
3      1      No Test   -         -             - ( - )
3      2      No Test   -         -             - ( - )
3      3(1)   No Test   -         -             - ( - )
3      3(2)   No Test   -         -             - ( - )
-----
```

例

ポート 1 (ユニット 0) でループバックテストを実行する

```
ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT=1 UNIT=0
```

DISABLE LINKTEST CHANNEL

機能

リモートポートの指定したチャンネルのリンクテスト機能を停止します。

書式

```
DISABLE LINKTEST CHANNEL={channel-list | ALL}
                               [UNIT={unit-list | ALL}]
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。

WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable linktest channel=1 unit=0 
```

```
Operation successful.
```

例

チャンネル 1（ユニット 0）のリンクテスト機能を停止する

```
DISABLE LINKTEST CHANNEL=1 UNIT=0
```

3.13 接続テスト

DISABLE LOOPBACK CHANNEL

機能

指定したチャンネルのループバック機能を停止します。

書式

```
DISABLE LOOPBACK CHANNEL={channel-list | ALL}
                               [UNIT={unit-list | ALL}]
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号

unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable loopback channel=1 unit=0 
Operation successful.
```

例

チャンネル 1（ユニット 0）のループバック機能を停止する

```
DISABLE LOOPBACK CHANNEL=1 UNIT=0
```

ENABLE LINKTEST CHANNEL

機能

リモートポートの指定したチャンネルのリンクテスト機能を開始します。
リンクテスト機能を開始すると、該当するチャンネルの通信は遮断されます。

書式

```
ENABLE LINKTEST CHANNEL={channel-list|ALL}  
[UNIT={unit-list|ALL}]
```

channel-list: 1～2 のチャンネル番号
unit-list: 0～3 のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット 0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。
UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable linktest channel=1 unit=0 Enter  
  
Operation successful.
```

例

チャンネル 1（ユニット 0）のリンクテスト機能を開始する

```
ENABLE LINKTEST CHANNEL=1 UNIT=0
```

3.13 接続テスト

ENABLE LOOPBACK CHANNEL

機能

指定したチャンネルのループバック機能を開始します。

ループバック機能を開始すると、該当するチャンネルの通信は遮断されます。

書式

```
ENABLE LOOPBACK CHANNEL={channel-list|ALL}  
[UNIT={unit-list|ALL}]
```

channel-list: 1～2のチャンネル番号

unit-list: 0～3のユニット番号。連続する複数のユニットを指定する場合は「1-2」のようにハイフンを使用します。連続しない複数のユニットを指定する場合は「0,3」のようにカンマを使用します（省略時はユニット0）。スタック接続をしている場合は省略できません。

パラメーター

CHANNEL: 対象となるチャンネル番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのチャンネルが対象になります。WD1001 の設定を行う場合は、「2」は無効となります。

UNIT: 対象となるユニット番号または ALL を指定します。ALL を指定した場合はすべてのユニットが対象になります。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable loopback channel=1 unit=0 [Enter]  
  
Operation successful.
```

例

チャンネル 1（ユニット 0）のループバック機能を開始する

```
ENABLE LOOPBACK CHANNEL=1 UNIT=0
```

備考・注意事項

- ループバックテストを実行する本体間に WD1001/WD1002 が存在する場合、テスト実行中、間に存在する WD1001/WD1002 から、Link Up/Down、Missing Link Up/Down のトラップが発行され、RLL Error が計上されます。
- ENABLE LOOPBACK CHANNEL コマンドを実行すると、ミッシングリンク機能と OFC 機能は自動的に無効 (Disabled) に設定されます。DISABLE LOOPBACK CHANNEL コマンドを実行すると元の状態に戻ります。

4

付 録

この章では、ファームウェアのバージョンアップ、Windows のハイパーターミナルと Telnet アプリケーションの使用方法、トラブル解決、本製品の仕様について説明しています。

4.1 ソフトウェアのバージョンアップ

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のソフトウェアのバージョンアップを行うことがあります。ここでは、最新のソフトウェアの入手方法、本製品へのダウンロードのしかたについて説明します。

最新ソフトウェアの入手方法

最新のソフトウェアセット（ファームウェアファイルやパッチファイル）は、弊社ホームページ（「サポート」のページ）から入手することができます。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

ファームウェアファイル

ファームウェアファイルのバージョンは、ピリオドで区切られた3桁の数字で、「major.minor.interim」（例：1.0.3）の形式で表されます。「major」はメジャーバージョン番号、「minor」はマイナーバージョン番号です。「interim」は不具合修正などのためのパッチがファームウェアに反映された時点で加算されます。


ファームウェアは、「wdm03.pkg」というファイル名で提供されます。

リリースノート

リリースノートは機能拡張、不具合修正などについて記載されたPDFファイルです。重要な情報が記載されていますので、必ずご覧ください。弊社ホームページから入手できます。

バージョンアップ方法

本製品は、FTP、TFTP、XMODEMによりソフトウェアをバージョンアップできます。ご利用環境に合わせていずれかの方法でバージョンアップを行ってください。

 57 ページ「ダウンロード・アップロードする」

4.2 コマンド索引

アルファベット順

A

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE (10BASE-T/100BASE-TX ポートのオートネゴシエーションを設定)	88
ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT (ループバックテストを実行)	195
ACTIVATE SCRIPT (指定したスクリプトを実行)	164
ADD ACCESS FILTER (アクセスフィルターグループへエントリーを追加)	76
ADD IP (IP アドレス情報に関する設定を追加)	117
ADD NTP PEER (時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを追加)	145
ADD SNMP COMMUNITY (SNMP 管理ステーション / トラップホストを追加)	165

C

CLS (現在表示中の画面を消去)	154
COPY (ファイルを複製)	114
CREATE CONFIG (現在の設定内容をスクリプトファイルに保存)	84
CREATE SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティを作成)	166

D

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (アクセスフィルターグループのエントリーを削除)	77
DELETE FILE (ファイルを削除)	115
DELETE IP (IP アドレス情報に関する設定を削除)	118
DELETE NTP PEER (時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを削除)	146
DELETE SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティの管理ステーション、トラップホストを削除)	168
DESTROY SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティを削除)	169
DISABLE ACCESS FILTER (アクセスフィルター機能の無効)	78
DISABLE ETH (10BASE-T/100BASE-TX ポートの無効)	89
DISABLE FTP SERVER (FTP サーバーの無効)	124
DISABLE IP DHCP(REMOTEASSIGN) (DHCP の無効)	119
DISABLE LINKTEST CHANNEL (リンクテスト機能を停止)	197
DISABLE LOG OUTPUT (指定した出力先へのログ出力の無効)	134
DISABLE LOOPBACK CHANNEL (ループバック機能の無効)	198
DISABLE MISSINGLINK PORT (ミッシングリンクの無効)	90
DISABLE NTP (NTP モジュールの無効)	147
DISABLE OFC CHANNEL (OFC 機能の無効)	91
DISABLE SNMP (SNMP モジュールの無効)	170
DISABLE SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティの無効)	171

4.2 コマンド索引

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP (SNMP コミュニティーごとのトラップ生成の無効)	172
DISABLE SNMP TRAP (トラップ生成の無効)	173
DISABLE TELNET SERVER (TELNET サーバーの無効)	188
DISABLE WDM PORT (ローカル/ リモートポートの無効)	92
E	
ENABLE ACCESS FILTER (アクセスフィルター機能の有効)	79
ENABLE ETH (10BASE-T/100BASE-TX ポートの有効)	93
ENABLE FTP SERVER (FTP サーバーの有効)	125
ENABLE IP DHCP(REMOTEASSIGN) (DHCP の有効)	120
ENABLE LINKTEST CHANNEL (リンクテスト機能を開始)	199
ENABLE LOG OUTPUT (指定した出力先へのログ出力の有効)	135
ENABLE LOOPBACK CHANNEL (ループバック機能の有効)	200
ENABLE MISSINGLINK PORT (ミッシングリンクの有効)	94
ENABLE NTP (NTP モジュールの有効)	148
ENABLE OFC CHANNEL (OFC 機能の有効)	95
ENABLE SNMP (SNMP モジュールの有効)	174
ENABLE SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティーの有効)	175
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP (SNMP コミュニティーごとのトラップ生成の有効)	176
ENABLE SNMP TRAP (トラップ生成の有効)	177
ENABLE TELNET SERVER (TELNET サーバーの有効)	189
ENABLE WDM PORT (ローカル/ リモートポートの有効)	96
F	
FLUSH LOG OUTPUT (ログメッセージを削除)	136
H	
HELP (オンラインヘルプを表示)	155
L	
LOAD (TFTP によるファイルのダウンロード)	126
LOGOUT (ログアウト)	156
P	
PING (PING の実行)	121
PURGE LOG (ログ機能に関する設定・ログメッセージを削除)	137
PURGE NTP (NTP モジュールの設定情報をすべて消去)	149

R

RESET ETH (10BASE-T/100BASE-TXポートをリセット)	97
RESET NTP (NTP モジュールをリセット)	150
RESET WDM CHANNEL COUNTER (RLL 符号化エラー統計情報をリセット)	98
RESET WDM PORT (ローカル/リモートポートをリセット)	99
RESTART (システムを再起動)	157

S

SET ACCESS FILTER (アクセスフィルターグループの設定を変更)	80
SET ACCESS FILTER ENTRY (アクセスフィルターグループエントリーを変更)	81
SET ASYN (コンソールポート・ログインセッションを設定)	190
SET CONFIG (起動時設定ファイルを指定)	85
SET CONSOLE TIMEOUT (コンソールタイムアウトを設定)	191
SET ETH (10BASE-T/100BASE-TX ポートを設定)	100
SET FTP LISTENPORT (FTP サーバーへのリスニングポート設定を変更)	127
SET IP (IP アドレス情報に関する設定を変更)	122
SET LOADER (LOADER モジュールのデフォルトパラメーターを設定)	128
SET LOG OUTPUT (ログ出力先に出力するログメッセージの条件を設定)	138
SET NTP (時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレス・UTC オフセットを設定)	151
SET PASSWORD (セキュリティパスワードを設定)	158
SET SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティーの設定パラメーターを変更)	178
SET SNMP LISTENPORT (SNMP サーバーのリスニングポート設定を変更)	179
SET SNMPTRAP LISTENPORT (SNMP サーバー (TRAP) のリスニングポートを変更)	180
SET SYSTEM (システム情報を設定)	161
SET TELNET (TELNET サーバーの設定を変更)	192
SET TFTP LISTENPORT (TFTP サーバーへのリスニングポート設定を変更)	129
SET TIME (日付と時刻を設定)	159
SET WDM PORT NAME (ポート名を設定)	101
SHOW ACCESS FILTER (アクセスフィルターグループの設定内容を表示)	82
SHOW CONFIG (システムの設定内容を一覧表示)	86
SHOW CONSOLE (コンソールの設定内容を表示)	193
SHOW ETH COUNTER (10BASE-T/100BASE-TX ポートの統計情報を表示)	102
SHOW ETH MACADDRESS (10BASE-T/100BASE-TX ポートの MAC アドレス表示)	103
SHOW ETH STATE (10BASE-T/100BASE-TX ポートの状態表示)	104
SHOW FILE (ファイル一覧/テキストファイルの内容表示)	116
SHOW FTP (FTP サーバーの設定情報を表示)	130
SHOW IP (IP アドレス情報を表示)	123

4.2 コマンド索引

SHOW LOADER (LOADER モジュールのデフォルト設定値を表示)	131
SHOW LOG (ログを表示)	140
SHOW LOG COUNTER (ログ機能の診断カウンターを表示)	142
SHOW LOG OUTPUT (ログ出力先の定義内容を表示)	143
SHOW LOG STATUS (ログ機能の設定情報を表示)	144
SHOW NTP (NTP の設定情報を表示)	153
SHOW SNMP (SNMP モジュールの情報を表示)	181
SHOW SNMP COMMUNITY (SNMP コミュニティーの情報を表示)	182
SHOW SNMP TRAP (トラップの情報を表示)	184
SHOW SYSTEM (システム情報を表示)	162
SHOW TELNET (TELNET サーバーの設定情報を表示)	194
SHOW TFTP (TFTP クライアントの設定情報を表示)	132
SHOW TIME (日付と時刻を表示)	160
SHOW WDM (WDM の全般的情報を表示)	105
SHOW WDM CHANNEL COUNTER (RLL 符号化エラーの統計情報を表示)	106
SHOW WDM CHANNEL LEVEL (チャンネル入出力レベルを表示)	107
SHOW WDM PORT (ポートの設定内容と状態を表示)	108

U

UPLOAD (TFTP によるファイルのアップロード)	133
------------------------------------	-----

機能別

アクセスフィルター

ADD ACCESS FILTER	76
DELETE ACCESS FILTER ENTRY	77
DISABLE ACCESS FILTER	78
ENABLE ACCESS FILTER	79
SET ACCESS FILTER	80
SET ACCESS FILTER ENTRY	81
SHOW ACCESS FILTER	82

コンフィグレーション

CREATE CONFIG	84
SET CONFIG	85
SHOW CONFIG	86

インターフェース

ACTIVATE ETH AUTONEGOTIATE	88
DISABLE ETH	89
DISABLE MISSINGLINK PORT	90
DISABLE OFC CHANNEL	91
DISABLE WDM PORT	92
ENABLE ETH	93
ENABLE MISSINGLINK PORT	94
ENABLE OFC CHANNEL	95
ENABLE WDM PORT	96
RESET ETH	97
RESET WDM CHANNEL COUNTER	98
RESET WDM PORT	99
SET ETH	100
SET WDM PORT NAME	101
SHOW ETH COUNTER	102
SHOW ETH MACADDRESS	103
SHOW ETH STATE	104
SHOW WDM	105
SHOW WDM CHANNEL COUNTER	106
SHOW WDM CHANNEL LEVEL	107
SHOW WDM PORT	108

4.2 コマンド索引

ファイルシステム

COPY	114
DELETE FILE	115
SHOW FILE	116

IP

ADD IP	117
DELETE IP	118
DISABLE IP DHCP	119
ENABLE IP DHCP	120
PING	121
SET IP	122
SHOW IP	123

アップロード・ダウンロード

DISABLE FTP SERVER	124
ENABLE FTP SERVER	125
LOAD	126
SET FTP LISTENPORT	127
SET LOADER	128
SET TFTP LISTENPORT	129
SHOW FTP	130
SHOW LOADER	131
SHOW TFTP	132
UPLOAD	133

ログ

DISABLE LOG OUTPUT	134
ENABLE LOG OUTPUT	135
FLUSH LOG OUTPUT	136
PURGE LOG	137
SET LOG OUTPUT	138
SHOW LOG	140
SHOW LOG COUNTER	142
SHOW LOG OUTPUT	143
SHOW LOG STATUS	144

NTP

ADD NTP PEER	145
DELETE NTP PEER	146

DISABLE NTP	147
ENABLE NTP	148
PURGE NTP	149
RESET NTP	150
SET NTP	151
SHOW NTP	153

システム

CLS	154
HELP	155
LOGOUT	156
RESTART [REBOOT]	157
SET PASSWORD	158
SET TIME	159
SHOW TIME	160
SET SYSTEM	161
SHOW SYSTEM	162

スクリプト

ACTIVATE SCRIPT	164
-----------------------	-----

SNMP

ADD SNMP COMMUNITY	165
CREATE SNMP COMMUNITY	166
DELETE SNMP COMMUNITY	168
DESTROY SNMP COMMUNITY	169
DISABLE SNMP	170
DISABLE SNMP COMMUNITY	171
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP	172
DISABLE SNMP TRAP	173
ENABLE SNMP	174
ENABLE SNMP COMMUNITY	175
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP	176
ENABLE SNMP TRAP	177
SET SNMP COMMUNITY	178
SET SNMP LISTENPORT	179
SET SNMPTRAP LISTENPORT	180
SHOW SNMP	181
SHOW SNMP COMMUNITY	182
SHOW SNMP TRAP	184

4.2 コマンド索引

ターミナルサービス

DISABLE TELNET SERVER.....	188
ENABLE TELNET SERVER.....	189
SET ASYN.....	190
SET CONSOLE TIMEOUT.....	191
SET TELNET.....	192
SHOW CONSOLE.....	193
SHOW TELNET.....	194

接続テスト

ACTIVATE LOOPBACKTEST PORT.....	195
DISABLE LINKTEST CHANNEL.....	197
DISABLE LOOPBACK CHANNEL.....	198
ENABLE LINKTEST CHANNEL.....	199
ENABLE LOOPBACK CHANNEL.....	200

4.3 ハイパーターミナルの設定

通信ソフトウェアとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT に標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続すると仮定します。)



Windows Me をご使用の場合

ヒント

「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしておく必要があります。

[スタート] メニューをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。

[Windows ファイル] タブをクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [通信] をクリックします。次に [詳細] をクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [ハイパーターミナル] のチェックボックスをオンして、[OK] ボタンをクリックします。[アプリケーションの追加と削除] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。

これで「ハイパーターミナル」がインストールされます。

1 ハイパーターミナルを起動してください。

Windows 95 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。次に Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows 98 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックし、Hypertrm.exe をダブルクリックします。

Windows Me/2000/XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム (すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。

Windows NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。

モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックしてください。

3 接続方法を設定します。

Windows 95 の場合 - 「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。[接続方法] ボックスで、[COM1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows 98/Me/2000 の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。[接続方法] ボックスで、[COM1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XP の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。


Windows NT の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。[ポートの設定] タブの [接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

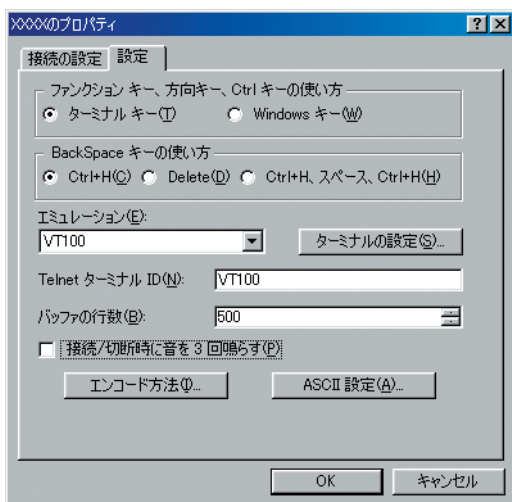
4.3 ハイパーターミナルの設定

- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。(下の画面は Windows 98 の場合)



- 5 「XXXX- ハイパーターミナル (HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定し ([エンコード方法] は [シフト JIS] を選択)、[OK] をクリックします。(次の画面は Windows 98 の場合)

 **Windows NT4.0 でハイパーターミナルをご使用の場合は、本製品のオンラインヘルプ 注意 で日本語を正常に表示させるために、エミュレーションを ANSI に設定してください。**



- 6 これで、設定が終わりました。
WD1001/WD1002 の電源を入れると、セルフテストが開始されます。

参照 216 ページ「自己診断テストの結果を確認する」



注意 ログインセッションを終了させる場合は、LOGOUT コマンドを実行してください。
コマンドを実行してセッションを終了させないと、リモートからの接続ができなくなることがあります。



ヒント Windows 95/98 のハイパーターミナルでは [F1] キーは使用できないため、ヘルプを表示するには [?] キーを使用してください。

ログイン後に本製品を起動すると、自己診断テストの後、「login:」プロンプトが表示されます。

```
RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... OK
UART Test... OK

Boot:\

login:
```

4.4 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワーク経由で、ログインすることができます。

ここでは、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT の Telnet クライアントの設定方法を説明します。



Telnet からログインする場合は、本製品に IP アドレスが設定されている必要があります。あらかじめコンソールから IP アドレスを設定しておいてください。

参照 47 ページ「IP アドレスを設定する」

- 1 ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行ってください。
Windows 95 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワーク構成] ボックスで [TCP/IP] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。
Windows 98/Me の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。[ネットワークの設定] をダブルクリックし、[現在のネットワークコンポーネント] ボックスで [TCP/IP -> (ご使用のアダプター)] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして設定を行います。
Windows 2000 の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に [ローカル エリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。
Windows XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に [ネットワーク接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に [ローカル エリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。
Windows NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。[プロトコル] タブをクリックし、[ネットワークプロトコル] ボックスで [TCP/IP プロトコル] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして設定を行います。

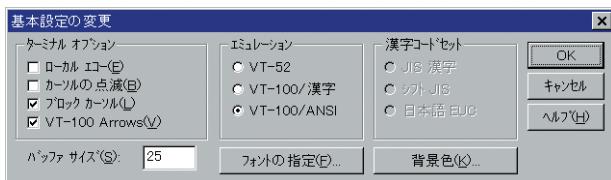
各製品に添付されているマニュアルをご覧ください。IP アドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnet を起動してください。

Windows 95/98/Me/NT の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET**」を入力して、[OK] をクリックします。Windows 2000/XP の場合 - [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET**」を入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「**TELNET 172.16.1.10**」のように、TELNET に続けて本製品の IP アドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

Windows 95/98/ME・Windows NT の場合 - [ターミナル] メニューの [基本設定 (設定)] をクリックします。次に [エミュレーション] で [VT100/ANSI] をクリックし、[OK] をクリックします ([漢字コードセット] は [シフト JIS] を選択)。
(下の画面は Windows 98 の場合)



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。漢字コードセットをシフト JIS に設定するには、SET CODESET Shift JIS コマンドを実行します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100
```

4 本製品の Telnet サーバーに接続します。

Windows 95/98/Me/NT の場合 - [接続] メニューの [リモートシステム] をクリックします。次に [ホスト名] ボックスで、本製品の IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。OPEN に続けて本製品の IP アドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 172.16.1.10
```

5 これで、設定が終わりました。

Telnet セッションが確立すると、メッセージとプロンプトが表示され、コマンドが入力できる状態になります。

4.5 困ったときに

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

自己診断テストの結果を確認する

本製品は自己診断機能を備えています。異常発生時には起動メッセージにエラー内容が表示されます。

自己診断テストの実行

セルフテストは次のような場合に実行されます。

- 電源を入れたとき
- RESTART コマンドで再起動したとき
- 電源ケーブルの抜き差しにより再起動したとき
- 致命的なエラーによって自動的に再起動したとき
- Boot メニューでテストの実行を指定したとき
- SHOW SYTEM コマンドを実行したとき

メッセージ表示

正常な起動時には次のようなメッセージが表示されます。次の4つの項目にOKが表示されたら正常に起動します。


```
RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... OK
UART Test... OK
```

起動時の自己診断に失敗すると次のように表示され、起動プロセスを中断します。このような場合にはアライドテレシス修理受付窓口までご連絡ください。

```
RAM Test... OK
Flash Test... OK
NIC Test... FAILED!
->
```


LED 表示を確認する

LED の状態を観察してください。LED の状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 21 ページ 「LED 表示」

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。SHOW LOG コマンドで、RAM 上に保存されたメッセージ（デフォルトでログレベル 3 以上）を見ることができます。

```
Manager > show log 
-----
Date          Time          Lv Message
-----
2004-03-15 10:20:12 7 AT-WDM03 startup, Ver 1.0.0 B03, Mar 10 2004,
                Clock Log: 2004-03-15 at 10:20:12
2004-03-15 10:20:32 6 Local module installed on unit0
2004-03-15 10:20:32 6 Unit1 stacked
2004-03-15 10:20:32 6 Ethernet port: interface is UP
2004-03-15 10:22:16 3 User login on serial port
-----
```

ログレベル（Lv）とその内容です。

Lv	呼称	説明
7	CRITICAL	きわめて重大な障害の情報
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える（与えた）可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性がある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性をほらむ情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性あり
1	TRIVIAL	DETAIL よりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性あり

4.5 困ったときに

トラブル例

電源を投入したが、POWER LED が点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

WD1001-10/WD1002-10 と電源コンセントの接続には、必ず WD1001-10/WD1002-10 に同梱の電源ケーブルを使用してください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

ネットワークケーブルを接続しても L/A LED が点灯しない


UTP ケーブルのカテゴリーは正しいですか

10BASE-T の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用してください。

UTP ケーブルのタイプは正しいですか

通信モードがオートネゴシエーションの場合は、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

通信モードをオートネゴシエーション以外に設定した場合は MDI となりますので、ケーブルタイプに注意してください。接続先のポートが MDI の場合はクロスタイプ、接続先のポートが MDI-X の場合はストレートタイプのケーブルを使用します。

 [24 ページ「10BASE-T/100BASE-TX ポートの接続」](#)

UTP ケーブルの長さが制限を超えていませんか

10BASE-T/100BASE-TX のケーブル長は最大 100m と規定されています。

接続先の機器の電源は投入されていますか

接続先のネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

FAULT LED は点灯していませんか

本体に異常が発生した場合は、FAULT LED が赤で点灯したままになります。本体前面のリセットボタンを押す、ローカルコンソールから RESTART REBOOT コマンドを実行する、システムの電源を一旦切るなどして、本製品を再起動してください。

 [51 ページ「システムを再起動する」](#)

10BASE-T/100BASE-TX ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

ローカルコンソールからログインできる場合は、SHOW ETH STATE コマンドで、10BASE-T/100BASE-TX ポートのステータスを確認してください。10BASE-T/100BASE-TX ポートを有効にする場合には、ENABLE ETH コマンドを使用します。

 104 ページ「SHOW ETH STATE」

 93 ページ「ENABLE ETH」

L/A LED は点灯するが、通信できない

誤った TCP ポート番号で接続しようとしていませんか

ローカルコンソールからログインできる場合は、SHOW CONSOLE コマンドで、リモートポートの TCP ポートを確認してください。デフォルトでは、TCP ポート番号は 23 に設定されています。

 193 ページ「SHOW CONSOLE」

 192 ページ「SET TELNET」

ループバック機能が有効 (Enabled) に設定されていませんか

SHOW WDM コマンドで、リモートポートに収容される各チャンネルのループバック機能の有効 / 無効を確認してください。ループバック機能が有効になっている場合は、DISABLE LOOPBACK CHANNEL コマンドを使用して、ループバック機能を無効に設定します。

 105 ページ「SHOW WDM」

 198 ページ「DISABLE LOOPBACK CHANNEL」

通信ソフトウェアから文字が入力できない

RS-232 ケーブルは正しく接続されていますか

通信ソフトウェアを 2 つ以上同時に起動していませんか

同一の COM ポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COM ポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容 (通信条件) は正しいですか

本製品を接続している COM ポート名と、通信ソフトウェアで設定している COM ポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度が本製品と通信ソフトウェアで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は、デフォルトでは 9,600bps に設定されています。

通信ソフトウェアで文字化けする

通信ソフトウェアの通信速度は正しいですか

通信速度が本製品と通信ソフトウェアで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度がデフォルトの設定で、通信ソフトウェアの通信速度が 9,600bps 以外に設定されていると文字化けを起こすことがあります。

通信ソフトウェアのエンコードはシフト JIS (SJIS) に設定されていますか

HELP コマンドの実行結果 (オンラインヘルプ) はシフト JIS で日本語表示されます。

4.5 困ったときに

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは、入力しないでください。通常、AT 互換機では **[Alt]** キーを押しながら **[全角/半角]** キーを押して入力モードの切り替えを行います。

Windows NT 4.0でハイパーターミナルをご使用の場合、エミュレーションはANSIになっていますか

Windows NT 4.0 のハイパーターミナルで本製品のオンラインヘルプの日本語が文字化けする場合は、エミュレーションを ANSI に設定してください。

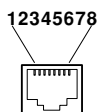
4.6 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

コネクター・ケーブル仕様

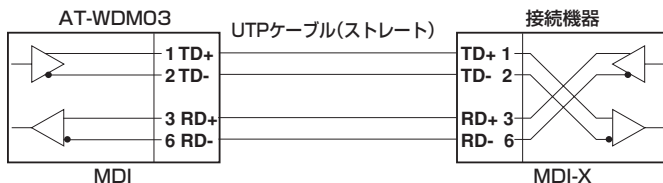
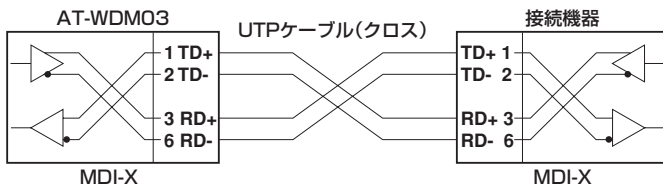
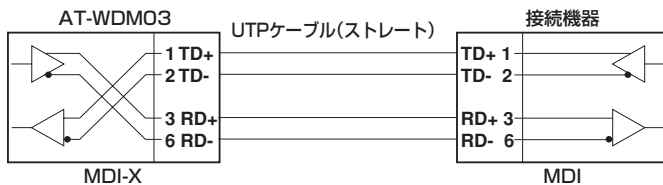
10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。

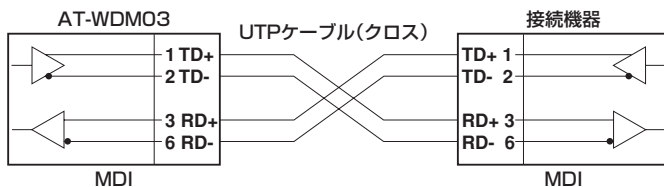


コンタクト	MDI 信号
1	TD + (送信)
2	TD - (送信)
3	RD + (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD - (受信)
7	未使用
8	未使用

ケーブルの結線は下図の通りです。

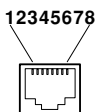


4.6 仕様



RS-232 インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	Not Connected	未接続
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	Not Connected	未接続
8	CTS (CS)	送信可

本製品の仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX RFC1213 MIB II
環境条件	
動作時温度	0 ~ 40℃
動作時湿度	80% 以下 (ただし、結露なきこと)
保管時温度	-20 ~ 60℃
保管時湿度	95% 以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	66.4 (W) × 161.3 (D) × 38.8 (H) mm
質量	
	240g
サポートする MIB	
	MIB II (RFC1213) プライベート MIB

5

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の場合のユーザーサポートについて説明します。

5.1 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel: ☎ 0120-860-332

携帯電話／PHSからは：045-476-6218

月～金（祝・祭日を除く）9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる障害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、当社はその責をいっさい負わないこととします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/>

Tel: ☎ 0120-860-772

携帯電話／PHSからは：045-476-6203

月～金（祝・祭日を除く）9:00～12:00 13:00～18:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるように、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

- 送付日
- お客様の会社、ご担当者
- ご連絡先
すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をご記入いただいた場合には、ご連絡住所等の詳細は省略していただいてもかまいません。
- ご購入先

使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- 製品名、製品のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) などのハードウェア情報をお知らせください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に同梱されているシリアル番号シールに記入されています。

(例)  S/N 0047744990805087 Rev A1

- ファームウェアバージョンをお知らせください。ファームウェアバージョンは、ログイン後または SHOW SYSTEM コマンドで表示されるシステム情報の「Version」の項で確認できます。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況でまたどのような頻度で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。
- 可能であれば、早期解決のために、エラーメッセージやエラーコードをお送りください（パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします）。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をあわせてお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

アライドテレシス株式会社

PN J613-M0049-10 Rev.B 040901